早稲田學報

大正五年　第貳百六拾號　十月十日發行　毎月一回十日發行

本號目次

校報

講師囑託＝評議員囑託＝校醫囑託＝維持員會＝理工科科長の交迭＝理工科科長交迭式＝入學編入及追試驗＝御大典紀念工事幷に校内各種改增新設工事＝田中理事の出張＝永井教授の滿鮮視察談＝日本倶樂部に於ける歡送迎會＝吉江教授の出發

始業式

竹内明太郎氏表彰式

面影

校友……新歸朝……毛利宮彦氏

校友會報

戊申倶樂部例會＝商科第一回卒業生小集＝郵船會社京濱校友會＝横須賀…長岡…鳥取…佐賀縣…各校友會

校友動靜

學生會合

英語會＝哲學研究會＝大民團大會＝三重縣人會＝會津早稲田親交會＝音樂會北陸地方修樂旅行＝支那協會有志の祝賀贈呈

運動

水泳部報告

雜報

早稲田實業學校の組織變更

大隈侯爵銅像除幕式＝田治講師母堂の逝去

附錄 大正五年度 **早稲田大學報告**

東京牛込

早稲田大學校友會　電話番町五三〇〇番

振替貯金口座 東京八九八六番

校報

◉講師囑託　一回島崎春樹氏を本大學講師に聘し文學講義擔任を囑託せり。

◉評議員囑託　地方校友會選出評議員左の通囑託す。

福井縣校友會　再選　三田村甚三郎
佐賀縣校友會　新選　栗山　賚四郎

◉校醫囑託　牛込區榎町十八番地齒科醫古賀光太氏を本大學校醫に囑託せり。

◉維持員會　九月二十五日午後一時より、學長應接室に於て開會。

學長維持員天野爲之、名譽學長同高田早苗名譽教授同坪内雄藏、名譽理事同市島謙吉理事同鹽澤昌貞、同田中穗積、同田中唯一郎、維持員三枝守富、同淨田和民、同金子馬治、同中村進午、同中島半次郎、同安部磯雄、同阪田貞一出席。幹事前田多藏、同中村康之助、祕書佐藤正列席。

報告事項

一、相馬氏との土地交換の件
二、修繕工事に關する件
三、紀念章配附の件
四、野球團及圖書事務研究留學生毛利宮彦歸朝、留學生教授吉江喬松出發に關する事項
五、理事會定例日變更の件
　毎週水曜日午後一時理事會定例日とし來りたるを、火曜日午後一時に變更せり。
六、紀念事業工事に關する件
七、評議員囑託の件
八、新學年開始に關する事項
九、大典紀念資金の狀況
十、第二期基金の狀況
十一、露語授業開始及其講師に關する件
十二、講師囑託及辭任の件

島崎　藤村　佛蘭西文學
横山　有策　シエーキスピヤ
島谷　亮輔　外交論
遊佐　慶夫　（留學生）民法

以上就任

本野英吉郎
佐々木伸吉　理工科
宮崎　虎一　同上

以上辭任

十三、留學生の現況

1. 中村萬吉　八日十六日米國出發、瑞西ベルンに向ふ
2. 高橋清吾　米國コロンビヤ大學に在學
3. 猪股津南雄　ウイスコンシン大學在學
4. 片上　伸　露國モスコー在學
5. 杉森孝次郎　目下英國倫敦に在るも近日歸朝の筈

決議事項

一、圖書閲覽室移轉の爲め電話工事費支出の件
二、野球團遠征費に關する件
三、留學生片上伸留學期間延長の件
四、毛利宮彦留學費に關する件
五、澁澤基金管理委員長壽宴開催の件
六、竹内明太郎氏表彰式に關する件
七、工學博士阪田貞一氏理工科々長辭任に就き後任として工學博士淺野應輔氏囑託の件
八、學制案調査の結果に關する件
九、圖書館追加豫算の件
十、外柵工事費に關する件

以上異議なく可決、午後三時閉會せり。

◉理工科科長の交迭　理工科科長工學博士阪田貞一氏辭任に就き、工學博士淺野應輔氏同科々長に就任せられたり。

◉理工科科長交迭式　前項の交迭に依り九月三十日午前十一時講堂に於いて交迭式擧行。最初幹事中村康之助氏理工科科長交迭に就き述ぶる所あり。次いで、阪田前科長辭任の挨拶あり、後ち現任科長淺野應輔氏就任の挨拶ありて閉式。

◉理工科商議員竹内明太郎氏表彰式

理工科商議員竹内明太郎氏の同科創設に當り又其の後同科商議員として致されたる功勞に對し、之れが表彰式を十月二日午後三時講堂に於て擧行。終つて築地精養軒に同氏を招待し、晩餐會開催せられたり。詳細は次號に掲載すべし。

◉始業式

九月十一日午前九時講堂に於いて天野學長を始め教職員一同式服着用臨席、本學年の始業式を擧ぐ、前田幹事擧式を宣し、堂に溢るゝ學生に對し、……

天野學長

茲に始業式を擧行しますに就きまして、多數の學生諸君に御目に掛ることを甚だ愉快に感じますのであります。諸君に申上げたいことは色々あるが、何事を差措いても先づ第一に諸君に話さねばならぬことは、即ち**コレラ病**のことであります。諸君は實に國の寶である、昔は農は國の寶であると言つたが農ばかりではない、即ち國民は皆國の寶である。總べての有形無形の幸福、總べての文明、悉く之は國民の心から發する所のものである。即ち國民全體が寶である。而して諸君の如き教育ある者、之れより後に教育あらんとする者は國寶中の國寶である。今日の如き惡疫流行の際に於ては、諸君は身親から自愛することが必要である。諸君の身體は諸君ばかりの身體でなくして國の重寶であるから此意味に於て十分に自愛あることを希望する次第であります。幸にして、今日に至る迄早稲田大學の學生の中には惡疫に罹つた者があると云ふことを聞かぬのは洵に欣ぶ可き事である。何卒禍から全く諸君が免がれることを學校の爲め諸君の爲め又帝國の前途の爲に深く希望する次第であります。

第二に、簡單に茲に諸君に話したいことは**規律**のことであります。Discipline のことである。我早稲田大學は自由平等を實行して居る所の學園である。併ながら、絶對なる無制限なる自由平等を實行する所ではな

い。規律の間に自由があり、秩序の間に平等を認める。卽ち此規律と自由とを調和して行く、秩序と平等とを調和して行くと云ふことが我早稻田大學の特長である。故に諸君は此大學にあつて十分の規律を重んぜられんことを希望する。同時に自由平等の精神を養はれんことを希望するのである。次に諸君に話したいことは諸君が研學の方法である。我早稻田大學の教旨は**自修**である。單り教場にあつて教授諸君の講義を聞き教授諸君の教を受けると云ふことを以て滿足せずして、諸君が自から振つて勉强する、自修する、教場以外に於て自ら研鑽をすると云ふことが早稻田大學の趣意でありますから、諸君殊に大學生となられた以上は、自修の精神を十分に發揮して貰はなければならぬのである。而して又自修の結果若し玆に不審の生ずることがあり、疑問の生ずることがあれば、我早稻田大學の教授諸君は喜んで是れが解決に努められる譯である。近來學生諸君が教師の許を訪れて學問上の相談なり學問上の疑を解いて貰ふと云ふもの、少なくなつたことを甚だ遺憾とする。其他の事は之れは別問題である。けれども、學問上の事に就いて諸君の疑があつた時には、其疑を解くと云ふことに就いては教授諸君は熱心に之を喜んで承諾せられるのでありますから、諸君は大學生として自修の道を取つて、さうして疑はしい事があれば、ドン〳〵教師諸君に聞くと云ふ方針を取られたい。

それで、又更に話したいことは諸君が**大學生たるの態度**を維持して貰ひたい。卽ち精神上に於て有形上に於て大學生たる態度を失はないやうにして戴きたい。卽ち諸君は Gentleman になつて頂きたい。紳士になつて頂きたいのである。立派な人格を諸君は養ふことが必要である。既に無形の人格を諸君が養ふと云ふことであれば、之れが現はれて諸君の有形の擧動となり、有形の態度となり、總べての有形のことが之れから導かれて立派な禮容を備へるやうになる。卽ち制服制帽の如き成るべく諸君は之を用ひられんことを希望する。少なくとも必らず制帽は頂くやうにする。之れは諸君に折入つて願はなければならぬ譯である。近來甚しきに至つては、袴も着けずして羽織も着ないで着流しで以て校門を出入するやうな人が稀にはあると云ふことを聞いて居る。固より門衛の知らない間に出入をすることでありませうと思ひますが、之れは皆内に紳士の氣分を貯へて居らない結果、さう云ふ不體裁不謹愼なことになる譯である。卽ち學校を重んじ、學校の教育を重んずる以上は、袴も穿かずに校門を出入すると云ふことは到底出來得べきことではない。此の如き事の萬一あると云ふことは、其人の精神の修養の頗る足らぬと云ふことにありますから、さう云ふことの決してないやうに自省せられんことを深く望む譯であります。

最後に玆に一言を費やしたいと思ひますることは、私の手元に亞米利加の或人からして一册の書物を贈られた。此書物の表題は Prophet in his own country と云ふのである。其内容は或人の手紙を集めた所のものである。手紙の著者の名はヘンリー、クリッフォート、スチュワートと云ふ。其人から私の所へ贈つて來た。此書物は餘程不思議な書物である。表題にプロフェットと命名してある位だから、一種妙な神祕的な、餘程變つた書物で、其内容には如何なることを書いてあるかと云ふことを段々讀んで見ましたけれども、一寸分り悪い。如何にも斷片的に神祕的に書いてあるから、容易に要領を摑むことが出來ないが、併し段々と所々方々を讀んで居ります間に、此要點を了解することを得たのであります。搔摘んで之を申しますると、今回の歐羅巴の戰爭、之れはどの位續くものであるか、又戰爭後はどう云ふ事になるであらうかと云ふことの**豫言**がしてあります。

著者の說にすると、近來世界の大勢がマテリヤリステックになつて居る。世界の大勢が物質的になつて來て居る。貨幣主義物質主義になつて貨幣のある者は尊まれ、如何に人格があつても貨幣のない者は尊まれないと云ふことになる。凡べて世の中に處する目的は貨幣である。故に貨幣の爲めならば、自分の國を賣る者さへ出來て來るのである。一時の利益の爲に罪惡を犯すと云ふことも、之れから出來て來るのである。世界の大勢はさう云ふ風であるが、其中に於て、精神的の國民、スピリチュアルな國民精神を重んずる國民、貨幣より心を重んずる國民、之れは獨逸國民である。今回の大戰爭に於て獨逸が勝てば卽ち獨逸主義を以て世界を統一することになつて、立派なスピリチュアルな精神的な極樂の如き世界が立てられると云ふことになる譯である。所が世界多數の國民が頑迷にして其事を悟らず、聯合軍を組織して獨逸に抵抗して居る。卽ちマテリヤリズムがスピリチュアリズムに對して戰を開いた。斯う云ふことになる。此戰爭三年にして終局を告ぐる而して其結果は恐らく獨逸の敗北に歸するであらう。獨逸の敗北に歸した曉に、卽ち物質主義が世界を風靡することになる。

さうなると、其中の金を持つて居る者と金を持つて居らない者との間に階級戰が起る今日の戰爭より更に激烈なる階級戰が起つて、世界を搔き亂すやうになること鏡に掛けて見るが如くである。其結果はどうなるかと云ふと、日本が玆に現はる。日本が東洋の國民を率ゐて其世界に臨んで、歐米の國民を統一してしまふ。征服してしまふと云ふ譯になる。何となれば日本は獨逸と同じくスピリチュアルである。今の所まだ幾らかスピリチュアルと云ふものは殘つて居る。而して其兵力頗る壯んである。それであるから、此日本帝國が世界を統一すると云ふことになるが、併ながら、日本が永く世界の主人であるか否やと云ふ點に至ると、決してさうは言はれない。なぜと云ふと、日本も既に歐米の感化を受けて餘程マテリヤリズムになつて居る。人が頻りに金のことを言ふやうになつて居る。五十年前の日本と今の日本とは雲泥の違ひがある。最近に於て、日本は大にマテリヤリズムに傾き、悪人と雖も金があれば立派な善人のやうに取扱はれる。金のない人は如何に他に長所があつても、更に顧みられぬやうな

有樣である。金の爲に種々の罪惡を行ふと云ふやうな此歐米の惡風が日本に非常に感染して來て居るから、一旦世界を統一した後に、此日本に於て矢張り又階級戰が起る。金の有る者と無い者との間に悲慘なる激烈なる階級戰が起つて、日本も其存在を續けることが出來ぬやうになる。然らば窮極誰が勝つのであるかと云ふと、支那人が勝つと言つて居る。支那は世界で最もスピリチユアルな國である。最も精神的の國民である。今日は支那は日本の爲めに壓迫されて居るやうであるが、終極は其支那が日本を併呑してしまふ。而して世界は皆支那のものになつてしまふ。支那が世界を併呑して支那の世界になつてしまふ。さう云ふことを言つて居る。之れは滑稽の如く、眞面目の如く、夢の如く可笑しいやうな又少し物騷のやうな考へで、妙に聞えるけれども、其間に幾らかの眞理を含んで居るのであります。我々此東洋に住居して居る所のものは將來どうしても支那と一緒にならなければならぬものである。又出來得べくんば、露西亞とも共に働かなければならぬものである。此支那の將來、露西亞の將來と云ふものが、日本に取つて重大な關係を有つて居る。其支那が衰へる露西亞が衰へると云ふことは、唇齒輔車の關係ある日本に取つて最も悲しむべきことである。然るに、若し支那は今日尙眠れる獅子であつて、一度自覺したならば、更に立派な國民になり得るものならば、日本に取つては洵に賴母しき朋友である。露西亞と云ふものも今日の所ではまだ幾らか野蠻である。支那は或る意味に於て、大に露西亞に酷似して居る。支那には文學と音樂とが盛んであるが、露西亞も亦文學と音樂が盛んである。併しサイエンスが支那に於ては盛んでない如く、露西亞に於ても盛んでない。普通教育が支那に盛んでない如く露西亞に於ても盛んでない。洵に之はよく似通つて居るが、是等が自覺したならば、將來非常な大國民になるに違ひない。此兩國民の將來及之に對する日本の態度は、我々の大いに考へなければならぬことであらうと思ふ。

近來早稻田大學に通學せられて居る支那人の中にはなか〳〵の秀才があつて、過般卒業試驗進級試驗の場合などに於て或る級に於ては、日本人を押除けて即ち第一等の地位を占め、或は第二等の席を占めたと云ふ支那の人もあつたのである。是等の人は夫れ丈けの素質を有つて居る者であるから、若し此所に支那の學生が居られるならば、諸君は其點に於て自から顧みられて自敬自重せられんことを希望する次第である。去りながら、斯く申したからと言つて、支那人が己惚心を出しては甚だ困る。早晩自分は世界を統一するものであると云ふやうな空想を畫いて居ると、之れはとんだ間違ひを生ずる。一體支那が衰運に傾いた原因は自負心である。自から中華と稱し他の國々を夷狄と考へて居つた結果、今日のやうな境遇に陷つたのであると考へて、即ち支那人は自分を尊敬すると同時に又他を大いに尊敬しなければならぬ。從來の如く、自から尊敬して他を賤しむと云ふやうなことは決して盛んになる道ではない。一方又日本人が支那人を輕蔑し、露西亞人を輕蔑することは日本の發達すべき道ではない。即ち日本人は自から尊敬すると同時に露西亞の長所を見て之を尊敬し、支那人の長所を見て之を尊敬して、東洋方面に於て一の聯合の國を建てると云ふことが、東洋の將來に於て非常に必要である。諸君の前途は此の如き責任を有して居るものでありますから、諸君は大いに顧みる所があつて、即ち支那人は自から尊敬して又日本人其他を尊敬し、日本人も自から尊敬して支那人を尊敬し、互に切磋琢磨共同戮力して目覺しい結果を擧げるやう、希望する次第であります。

◉入學編入及追試驗　專門部各科第一學年及高等師範部各科第一學年の第一回入學及編入試驗を九月四日に、其第二試驗を同二十日に、高等豫科第二期第一回編入試驗を九月一日に、其の第二回試驗を同二十日に施行し。又高等豫科追試驗を九月一日より、一般追試驗を九月四日より施行したり。

◉御大典記念工事　竝に校內各種改增新設工事既略　御大典紀念第一期工事たる圖書閱覽室竝に舊商品陳列館移轉工事は、既報の豫定通り八月末日を以つて完成したるも、其他本夏季休業を利用して施工せる各種改增新設工事左の如し。

一、高等豫科二階建教室、文學科教室、高等豫科控室、各ペンキ塗換へ工事
一、機械科仕上げ工場ペンキ塗り工事
一、高等豫科北側道路界煉瓦塀（延長卅間高十二尺）
新設工事
一、高等豫科門より中門に至る敷石新設工事
一、化學實驗室西側石造防火壁（延長卅間高十尺）
新設工事
一、弓術場移轉工事（運動場西隅より八幡下敷地へ）
其他雜件

◉田中（唯一郎）理事の出張

理事田中唯一郎氏用務を帶び、九月十五日出發十六日大阪に到り、中ノ島銀水樓に於いて平田讓衛、砂川雄峻、岸本一太郎、中井隼太、石原善三郎、原田駒之助、浦部襄夫、金澤種次郎の諸氏と會合。十七日同地出發、石川縣金澤に向ひ、十八日同地鍔屋に於いて横山俊次郎奥忠彦、增田和吉諸氏と會合。二十日歸京せられたり。

◉永井（柳太郎）教授の滿鮮視察談

嚮に朝鮮京城の實業家廣井澤次郎氏が本大學殖民政策講座專用の目的を以て寄附せられたる其の資金に依り今夏滿鮮地方を視察せられた永井教授の談話を揭げて讀者諸君の一粲に供す

先づ此の行旅程の概略を言はんか、七月中旬東京出發、大連に上陸し、南滿鐵道に依りて旅順、湯崗子、奉天等を經過して長春に到り更に吉長鐵道に依りて吉林に赴き、再び長春に出で、東淸鐵道を藉りて巴爾賓に行き、巴爾賓より黑龍江汽船會社のドミドリ號に搭じて松華江及黑龍江を下航し、露國極東總督府所在地なるハバロースクに行き、それより烏蘇

里鐵道に依りて浦鹽斯德に出で、便船を得て朝鮮元山に航し、更に京元鐵道に依りて京城に出で釜山を經て九月七日歸朝せり。

此の行主として日露協約附帶條項となつて居る第二松華江航行權の價値及び東清鐵道の第二松華江以南長春に至る鐵路の軍事上及經濟上の價値を視察調査するの目的を以て企てられたる者なれども、是等視察調査の結果は他日詳細之を報告することゝし、茲には該旅行中接觸したる各地校友諸君の動靜を語り、以て我が校發展の喜びを同人諸君に頒つことゝしよう。

旅行中最も驚いた事は到る處日本醜業婦の居らざる處なく、且つ何處に於いても日本人中の最も多數を占めて居る事であつたが、これに劣らざる程度に於いて余を驚かした者は、到る處に我が早稲田大學出身者若くは關係者に出會はないとのなかつたと云ふ事である。

先づ**大連**に上陸するや多數校友諸君の出迎を受け、一夜老虎灘の山莊に招かれて共に俱に海岸の夜色を賞したるが、此の夜南滿鐵道の調査課長森茂氏を始めとして左記諸氏が出席せられた。

原田昇（朝鮮銀行大連支店）●堤淨祐（滿洲日々新聞社）●唯根伊與（南滿洲鐵道株式會社交涉局第一課）●佐久間章（同社計理部用度課）●佐々木義山（大連埠頭事務所）●加藤達次郎（同上）●廣道圓（同社瓦斯作業所）●松浦開地良（同社事務局庶務課）●廣瀨安太郎（同社地方部衛生課）●岡田純三（同社南滿洲工業學校）●渡邊儼（滿洲日々新聞社）●石橋貞男（滿蒙寫眞通信）●三浦諒夫（大連重要物産取引所）●篠崎嘉郎（大連商業會議所）●井上輝夫（三井物産株式會社大連支店）●海老名正雄（同上）●本吉幸敏（同上）●堀洋三（大倉組出張所）●花岡收造（日本賣藥株式會社大連支店）●若林亮介（志岐組）●鈴木與十郎●永田善三郎

奉天では明治廿九年政治科出身なる石田武亥君が居留民團長をして居らるゝので、居留民の主なる人士を招待して余の爲めに歡迎會を催されたが、席上朝鮮銀行奉天支店長小西春雄君、滿洲日々新聞奉天支局長皆川秀孝君奉天省交涉部主任丁鑑修君、鐵嶺榊組社長榊祐太郎君等を始め、多數の校友諸君に面會するの機を得て非常に愉快であつた。

長春では早稲田大學出身者のみならず早稲田實業學校出身者共に一團となつて歡迎會を開かれ、**巴爾賓**に於ては尙未だ校友會の組織なかりしも、政治科出身の長岡護策君や當厩君などが大に歡迎して案内の爲に便宜を圖つて吳れられたが、長岡君は自ら長岡商會を組織して輸出貿易を營み奉天在留の日本商人中鏘々たる者である。**ハバロースク**に於いては居留民會理事として入野寅藏君あり、同君の紹介に依りてハバロースク市助役バビコフ氏其他の名士に面會するの機會を得たが、入野君は嘗て我が文科に在學して中途退學せられた人である。**浦鹽斯德**に於ては同じく居留民會理事和泉良之助君に非常に世話になつたが、同君は嘗て東京專門學校時代の政治科に在學し、昨年の總選擧には大隈侯を佐くるの意を以て選擧を爭はれたが、不幸にして落選せられた。

朝鮮京城は昨年田中、吉田兩博士に隨行して一週間學術講演を試みた地であるだけに、校友諸君も頗る多く、朝鮮總督府警務部保安課長亥角仲藏君、李王職權藤四郎介君、朝鮮公論社長牧山耕藏君、日清生命保險朝鮮支社長横田瀧二郎君、朝鮮銀行員田中健介君、京城土地建物會社員太田利三郎君を始め多數校友諸君の出迎を受け、盛大なる歡迎會の催しに預つた事は感謝に堪へぬ所である。

是等各地方に於ける校友會は、何れも余の爲めに開かれたる歡迎會席上に於いて、天野學長の植民地に出で、早稲田大學建學の本旨を宣明し、普く植民地に於ける日本人をして大學の眞價を知らしむる事に努力せられんことを希望するの決議を爲せり。

我が早稲田大學出身者は是等植民地に於いて未だ中心人物と言はる、程の發展を遂けて居ないことは勿論だが、併し其の數の多い事は如何なる學校にも劣らざるのみならず、行く處として早稲田大學の健兒を見ざる所なきは大に吾人の意を强うしたのである。英人は英帝國に太陽の沒することなきを豪語して居るが、今や我が早稲田大學の學徒は五大洲に到る處に其の足跡を留めざるなく、早稲田大學學徒のある處太陽沒せざるの壯觀を呈して居るのは、吾人同人の欣懷措く能はざる所である。

◎日本倶樂部に於ける歡迎會　佛國留學の爲め出發せらるゝ教授吉江喬松氏を送り、又野球團監督として米國より歸朝せられたる講師河野安通志氏及圖書館事業の研究を了へ米國より歸朝せられたる毛利宮彦氏を迎へん爲め、九月三日日本倶樂部に於いて歡送迎會開催せられ、主賓三氏の外

天野　爲之　　鹽澤　昌貞　　田中唯一郎
市島　謙吉　　坪内　雄藏　　田中　穗積
金子　馬治　　中島半次郎　　安部　磯雄
前田　多藏　　中村康之助　　杉山　重義
山岸　光宣　　五十嵐　力　　長谷川誠也
淺川榮次郎　　日高　只一　　昇　直隆
坪内　士行　　吉田源二郎　　湯淺　吉郎
中村　芳雄　　高橋　三郎　　小林　堅三
井上　忻治　　宮島　綱男　　佐藤　正
（到着順）

の諸氏出席。席上天野學長、坪内博士、市島謙吉、安部磯雄諸氏の歡送迎辭あり。次いで主賓三氏の謝辭ありたる後ち歡談に時を移して散會せり。

◎吉江教授の變更出發　文學研究の爲め本大學留學生として佛國に留學せらるゝ教授吉江喬松氏本月八日出發留學の途に上らるゝ趣前號に報道し置きたる所、其の後期日變更せられ同十二日午後七時愈〻東京驛出發留學の途に上られたり。

面影

新歸朝……校友
毛利宮彦氏

一、米國は世界の成金にして又世界の本好きである。

一、米國は圖書館事業の發達に於て世界一である。
一、米國の教育は圖書館教育である。
一、米國圖書館の發達は國是の然らしむる所である。

一、米國の圖書館事業今や婦人の手に落ちんとす。

米國と言へば、直に世界の成金物質主義の國民といふ事を思はせるから、餘り本などは讀まぬ方であるかと云ふに、なか〳〵どうして米國ほど教育の普及した國はなく、米國人ほど本好きの國人はないと云つてもさほど過言であるまいと思はる、論より證據、圖書館事業の發達は世界一と言はるゝ程であつて、その建物の宏大なる設備の完整せる實に驚くの外はない。それも其の筈であつて、米國人は一般に圖書館に金を費すを惜まない風がある。例へば、米國の州若くは市は何れも特別に圖書館の爲に支拂ふ所の稅卽ち圖書館稅と云ふ樣な持別稅を拂つて居る。又富豪カーネギー氏の如きは自分が圖書館勉强で人に爲つたと云ふ所からでもあらうが、一擧に三百萬弗と云ふ樣な巨額の金を圖書館に寄附して更に惜しむの色を見ない。之を我が國の狀態などに照し見るときは眞に霄壤の差があるのである。これ畢竟自由平等を國是とする米國の國情の致す所であつて、貴賤貧富を問はず教育を與ふべきもの、また自ら教育すべきものとの思想が冥々の間國民の心裡に普遍して居る所から、男女老幼の差別なく教育を與へ、また自ら教育するに最も便利な機關たる圖書館が發達したのである。だから、米國にあつては特別の圖書館を除き、普通一般の圖書館では大抵無料で閲覽させ無料で貸出しもすると云ふ譯であつて、圖書館に行つて見ると、婦人も居れば小供も居る、年寄りも居れば勞働者も居るといふ譯である。斯く米國圖書館の發達は全く教育普及といふ精神から發達したのであるから、圖書館は圖書保存と云ふ役目を果すと共に圖書利用と云ふ役目を盛んに行つて居る、即ち固定的の方面に力を致すと同時に流動的方面には殊に意を注ぐのであつて、謂はゞ館内の閲覽者には常傭ひの教師、館外貸出の場合には專教師となつて教育普及の役目を爲すといふ姿である。

彼の多くの圖書館にその附屬設置を見る圖書館學校の如きは、自分等の樣に圖書館事業研究者の爲めに設けらるゝと共にまた一般に向つて圖書の利用方を教ふる目的をも有つて居るのである。

故に大學附屬の圖書館などにあつては、彼の大學自修教育たるセミナーウアークを行る所謂研究室を館内に置くことが例であつて、研究室と圖書館との關係を密接にして研究の便を圖つて居る。即ち所謂圖書館中心主義を執つて居るのである。

之を要するに之を一般の讀書界から見て、又學校教育の圖書館中心主義にある點から見て、米國の教育は圖書館教育であると言つてもタイして誇張の言であるまいと思はるゝ位である。

米國に於ける圖書館の發達に連れて起りたる所謂圖書館學校またなか〳〵盛んなものであるが、自分が紐育の公衆圖書館附屬の圖書館學校に入學した時は七十五人の入學者があつて、外國から留學した者は自分と外に二人、餘は悉く米國本土の人々であつたが、此人々の中婦人が多數を占めて居つたと云ふことは亦吾人の注意を惹くに足る事であつた。これは米國に於て女子教育の盛んなる事を徵するに足ることであつて、初め教育された婦人は大抵學校教師となつて教育に從事する者が多かつたが、漸次此の方面の空處を充たして猶ほ餘りあるに至つた教育ある婦人は、更に圖書館事業に目を注ぐに至つたので、今や盛んに此の方面に流入しつゝあるのである。されば米國の教育は圖書館教育に依つて普及し、教育の普及に依つて圖書館事業の發達を見ると云ふべきであらう。云々。

これ圖書館事務研究の爲め本大學留學生として米國に渡航せられ、紐育市パブリックライブラリーの附屬ライブラリースクールに入り其の業を了へて、今回新に歸朝せられた校友圖書館員毛利宮彦氏の談話である。以て同氏の面影紹介の資と爲す。

校友會報

◉戊申倶樂部例會　九月二十日午後五時より三番町村井邸に於て開催せられたる本會例會は近來になき盛會にして、在京會員の外、横濱より態々出席せられたるもあり。暫く階上大廣間に來會者の參集を待受け、やがて村井幹事の案内にて、美しく飾られたる洋館食堂に招ぜられ晩餐を共にし、席上明年卒業後十年紀念として會員家族のアルバム調製の決議あり。同委員を松宮、井口、淺川の三君に依托し、餘興として無名會觀劇券の籤引あり。各自十分の歡を盡して散會せり。尙次會の幹事を岩井武雄君に托し、早稲田倶樂部に開催のことゝし、又來る十一月の例會には幹事を淺野泰治郎君に囑し、芝區田町淺野邸に於て開催せらるゝことに内定せり。當日の出席者は左の如し。

村井　五郎　松宮　三郎　井口　誠一
ウォルスン　岩井　武雄　清水　八郎
岡崎　幹雄　田部　信秀　齋藤　泰三
淺川榮次郎　向山　政恕　矢川源三郎
淺野泰治郎　三島　良藏

◉商科第一回卒業生小集　在京の商科第一回卒業生は、今回神戸の日本郵船會社支店から同社の「シャトル」支店に榮轉せられた中瀨精一君の上京を機とし、同君送別の爲め小集を九月九日神田明神境内の開花樓に催した。火急の思立ちと旅行中の諸君が多かつた爲め、來會者は比較的少數だつたが、學校の田中、武信、伊藤の諸先生が來會されたので、在學當時の事など談り合つて面白き小集であつた。當夜の來會者は

田中　穗積　武信由太郎　伊藤重治郎
中瀨　精一　今橋　稔一　蜂須賀武彦
阿部又二郎　武田　鼎一　黑川　清
小倉能太郎　磯邊愉一郎　伊地知純正

◉郵船會社京濱校友會　從來神戸支店在勤の校友中瀨精一氏今回シャトル出張所へ榮轉ありたるに付、同氏の送別を兼ね八月卅日午後五時より東京郵船二引倶樂部に於て京濱校友懇親會を開催せり。當日集れる校友廿名に達し、且つ母校教授伊藤重次郎氏御繁忙中にも拘らず特に出席せられ、爲に一層盛會となれり。軈て席定るや、荻島氏開會を宣し併せて送別の辭を述べ、之に對し中瀨氏の謝辭及伊藤教授の挨拶あり。宴酣にして獻酬歡談盛なる時伊藤教授及小寺氏の所感談等ありて一層の興趣湧き、一同時の移るを知らず。散會せしは午後十一時過なりき。當日出席者は左の如し。

（順次不同）

來賓
伊藤重次郎　中瀨　精一

横濱支店
小寺　敬孝　佐藤　光尾　田村　保三
朝賀　忠勝　栗原　雅信　甲藤　長菊
下條　親雄　菅谷　通三　石川　金吾

東京支店

妹尾　精一

本　店

森矢　懿譽　末高　信　植田　平一
淺野　勝利　福田　由治　荻島　遠
高見與一郎　村井清太郎

因に目下郵船會社に在勤の校友は總計六十二名にして內京濱兩地に在るもの廿三名なり。（幹事報）

◉横須賀校友會　九月廿一日午後五時當市若松倶樂部に於いて開會。來り會する者新名直和（郵便局長）小林伊太郎（市會議員）諫山泰雄（市會議員）川島才次郎（呉服商）石川辰次郎（電燈會社員）太田廣吉（日本製鋼所出張所長）若松精（同上所員）の七氏にして晩餐を會食し、雜談に舊交を溫め九時散會せり。尙ほ當地會員は右出席諸氏の外中學校教諭二名、經理部員二名、千代田生命保險會社員一名、電燈會社員一名を有せるに、何れも所要の爲め出席を見る能はざりしは遺憾なりき。

◉長岡校友學生懇親會　長岡市在住の校友と在學生との關係を親密ならしむる目的を以て學生側發起となり、一昨夏より校友學生聯合大會を開催し來りたるが、本年は七月二十二日午後七時より長岡館に於て開きたり。出席者三拾餘名、近來になき盛況にて、配膳の後ち、學生を代表して正山三郎氏開會の挨拶に併せて早稲田大學在京長岡會倶樂部設定の議を諮り、越佐會倶樂部よりの祝電を朗讀し次いで酒井求馬氏長岡會々務の報告あり。後ち宴に移り、校友廣井一、土田元郎兩氏の懷舊談及び長岡校友會幹事川上一郎氏の本年五月長岡に於ける縣下校友大會の實況報告あり。夫れより藤井浩藏氏を筆頭に、各自五分演說に得意の熱辯を揮ひ、或は隱藝出で、或は長岡甚句の總踊りありて時の移るを知らざりしが、廣井一氏の發聲にて大隈侯及早稲田大學の萬歲を三唱し、後ち一齊に校歌を合唱し、十二時過ぎ散會。頗る盛會なりき。尙ほ出席者左の如し。（幹事報）

校友側

廣井　一　土田　元郎　佐藤德三郎
川上　一郎　藤井　浩藏　宮林　元
覺能牛四郎　立川　秀司　岡村喜代志
石橋　甲次　古岩井善太郎　山崎　浩
栃倉　正一　澁谷　省次　草間　礦一

學生側

山田麟之助　今成　敬三　正山　三郎
酒井　求馬　小林康次郎　中村　祥作
內山　正直　赤沼　智性　廣井　重次
田村文之助　下村　藤作　島宗三男昌
新保四貴太郎　佐藤文次郎　小林　一郎

◉鳥取市校友會　八月廿七日午後六時より大工町花月樓に開催せられしが、席定まるや、幹事河野寬治氏より開會の挨拶あり。次で柴田秀藏氏より鳥取に高等農林學校を設立すべき件に關して提議あり。其理由に關して詳細に述べたる後ち、稲田直道氏代りて委曲說明する所あり。滿場異議なく可決したりしが、柴田氏は更に之が實行方法として請願書の起草委員竝びに實行委員選定に關して滿場に諮る所あり。其結果柴田氏より左の諸氏を指名選定せり。

起草委員

三枝　蓊三　稲田　直道　河野　寬治
柴田　秀藏　三枝　蓊二　森脇　竹藏
稲田　直道　楠城　嘉一　太中　貞一
河野　寬治

實行委員

尙ほ同會にては右決議の實行方法として東伯校友會と兩々聲息を通じ以て最後の目的を貫徹すること及び市に於ける輿論の代表機關に交渉して此等と共同の步調を取ること竝びに郡部の青年團等にも移檄して輿論の喚起に努むること等を協議し、笑語歡談を盡したる後ち十時半頃散會したり。出席會員は十六名なりき。

◉佐賀縣校友學生大會　佐賀縣に於ける校友及び學生は每年夏季休業を機會として大會を開くこと早や既に十餘年の久しきに及び、每回約三十名ばかりづゝの集會者あり、十分の懇親を結ぶを例とせしが、本年も去る八月廿六日を以て佐賀市の中央なる鍋島閑叟公銅像園內の精養軒に於て開催せり。參々伍々集まる者凉窓の下に團欒して新舊の情を叙し、やがて食卓の準備整ひたれば、賓主の差なく、又老壯の別なく、隨意の着席とし、幹事船津常六氏（辯護士）簡短に開會の挨拶を爲し、此處暫くはスプーン、フォークの音のみ響きて談話の聲も低かりき。然るにビーアは頻りに傾けられ稍々微醺を帶ぶるに至て船津幹事より各員の遠慮なき氣焰をと所望し、先づ自己紹介を一巡せしむ。續いて內田清一（私立佐賀實科女學校々主）、矢代毅（佐賀中學校教諭）栗山賚四郎（西肥日報主筆）、石橋勝已（學生）岸本康通（佐賀縣內務部長）諸氏の卓上演說あり。氣焰萬丈炎暑を壓伏するの概あり。宴酣にして岸本氏の音頭にて早稲大學萬歲、大隈總長萬歲、校友會萬歲を唱和して乾盃し、又石橋氏の發聲にて共に校歌を謳ひ、尙ほ歡談に時を移して散會せり。來會者は左の二十一名なりき。

原　誠助　本庄　主一　江崎　武彥
吉田　喜六　多門　龍天　中子德太郎
內田　清一　野口勘三郎　黑田　龍吉
栗山賚四郎　矢代　毅　山崎竹二郎
船津　常六　岸本　康通　岸川　善壽
（以上校友）
飯盛　作郎　石橋　勝已　德島範太郎
成富　儀一　福島仁三郎　古賀政之助
（以上學生）

校友動靜

◉永田信行（三四英政）明治製糖福岡縣下戸畑工場に轉勤（同縣小倉市外山越町）

◉梅室榮太郎（二四政）栃木縣日光中宮祠奧西澤金山事務所勤務

◉柏井一郎（三八政）神戸市元居留地三十六番館關西興信所本部勤務

◉林藤三郎（四四大政）中部鐵道管理局經理課勤務（市外戸塚町下戸塚一二一高松邸內）

◉西村精之助（4政）岩手縣和賀郡湯田村合名會社藤田組大荒澤鑛山事務所勤務

◉前島平藏（三九政）日章火災保險創立事務所に入る（麴町區紀尾井町高砂館內）

◉宮崎晋一（二六英政）奈良地方裁判所檢事正に轉任す

◉遠藤周藏（四三大政）北海道旭川地方裁判所判事に補せらる

◉栗林癸未造（四三大政）東京瓦斯株式會社を辭し秋田市保戸町反町に卜居

◉朝岡　鑑（三九政）靜岡縣賀茂郡宇久須村助役となる

●鈴木熊太郎（一八政）朝鮮輕便鐵道株式會社專務取締役となる（朝鮮釜山府本町三ノ二五）
●村岡清次（四三大政）東京每夕新聞記者となる
●別府熊吉（四一大政）桑港領事館在勤を命ぜられ渡米す
●小林金十郎（三二政）京橋區明石町一三茂木鑛業部に入る
●木場貞愿（5大政）麴町區內幸町二丁目東海生命保險相互會社勤務（市外戸塚町戸塚一五二）
●多賀宮藏（三九政）麴町區八重洲町古河合名會社勤務
●岡田敏瑛（二八政）京都市七條通村井銀行支店に勤務（同支店內）
●市島禎吉（4政）新潟銀行を辭し專門部法律科に入る（牛込區早稻田鶴卷町二二芙蓉館）
●永川俊美（5大政）東京朝日新聞記者となる
●寶性確成（5大政）やまと新聞記者となる（日本橋區蠣殼町二ノ一五中田方）
●星野光三（5大政）時事通信記者となる
●加藤景福（5大政）東京通信記者となる
●小野　猛（5政）磯村工業所に入る（小石川區高田老松町七番地三十八號）
●田中啓次郎（5政）黑澤商店營業部員（麻布區本村町二一一横井方）
●本間清一郎（5政）帝國製麻會社札幌支店製線本部員（札幌區北八條西一ノ一林方）
●磯前參次郎（5大政）神戸市海岸通松昌洋行船舶部勤務
●尾立維昌（5政）爲替貯金局簡易生命保險課に入る（牛込區市谷田町二ノ三七）
●飯澤肥一（5政）鐵道院總裁官房保健課勤務（本郷區弓町二ノ三四青山方）
●江原憲吉（5政）日本橋第百銀行に入る（小石川區大塚坂下町一五一小川キイ方）
●兒島英俊（5大政）南滿洲鐵道會社に入る
●上田鄉治（5大政）朝鮮銀行に入る
●能美逸雄（5政）山口縣下の關市外彥島鈴木製鍊所に入る
●岡谷喜三郎（5大政）大阪西區西長堀北通一丁目岡谷合資會社勤務）
●永江　清（5大政）山下汽船會社に入る（府下荏原郡平湯村戸越田向山下運動場）
●小島文作（5大政）松昌洋行東京本店勤務（京橋區銀座三丁目十七番地）
●黑田要吉（三七法）鈴木商店大阪支店員、帝國參酒會社大阪出張所主事、陸軍二等主計（兵庫縣西之宮一號地）
●木村甲一（四〇法）福岡爲替貯金支局長心得を命ぜらる
●松村源藏（二四法）共同火災保險會社關西營業部長に轉任（大阪市南區天王寺細工谷町五、五一二）
●三田幸司（一九法）北海道旭川地方裁判所長に補ぜらる
●早川德次（四一大法）歐米より歸朝（府下中澁谷五七五）
●挾間千年（四二大法）株式會社北部銀行專務取締役となる（大分縣坂ノ市）
●吉田五郎（4法）福岡縣嘉穗郡大谷村古河合名會社西部鑛業所勤務
●川井信次郎（三六法）和歌山縣田邊區裁判所檢事に轉任
●清水定勝（5大法）大阪商船會社調度課勤務
●赤澤忠太郎（三二行）株式會社豐國銀行出納課長となる（小石川區久堅町八七）
●山口藤次郎（三四行）京都電氣鐵道株式會社取締役となる
●原田　實（2大文）雜誌教育時論記者となる
●秋山成光（二六文）大阪府立市岡中學校に轉任す（大阪府東區東高津南之町百十三番屋敷の七杉本方）
●遠田　亮（4大文）四谷區信濃町輜重兵第一大隊第二中隊第七內務班勤務
●松尾孝輔（4大文）埼玉縣立粕壁中學校教諭
●長田清一（四四大文）增田合名會社神戸支店雜貨部に入る（神戸市石井村四五ノ第十八號）
●吉岡正春（三九大文）大阪日々新聞經濟部長を辭し神戸新聞社に入る（神戸市平野下三條町三六一番地）
●杉田運法（三六文）秋田縣立本莊中學校教諭
●西本正美（四一大文）福井縣立小濱中學校教諭に轉任
●志村文誓（3大文）山梨縣師範學校在勤
●長谷川信勝（3大商）寶田石油株式會社本社會計部に入る
●横山桑一郎（四五大商）大陽株式會社取締役に轉勤（牛込區肴町三九）
●山崎恒四郎（四一大商）外務書記生試驗に及第在奉天日本總領事館在勤
●永富　昌（2大商）福岡縣嘉穗郡穗波村製鐵所二瀨出張所勤務
●岡本　千（4大商）日本郵船上海支店に轉任
●牧田平太郎（四四大商）直輸出入商東京野澤組本店に轉じ臺灣出張（臺灣嘉義廳總舘一九〇野村宇平方）
●鈴木堅三郎（四三大商）大阪府西成郡豐崎町本庄二二三に於いて鈴木製作所經營、船舶建築其他金物製造に從事
●小林重太郎（4大商）筑前國八幡町枝光製鐵所內朽木商事會社出張所勤務（筑前八幡町枝光驛前岩國屋方）
●內ヶ崎良平（四四大商）臺灣蕃薯藷鹽水港製糖會社旗尾工場會計係長
●齋木直亮（四四大商）臺灣鹽水港製糖會社岩內工場線務係主任
●關本雅亮（3大商）兵庫縣飾磨郡家島村久原鑛業株式會社家島製鍊所勤務（同社宅內）
●固武諭一（四三大商）久原鑛業株式會社日立鑛山事務所員（茨城郡多賀郡同事務所內）
●大山嘉藏（四四大商）麴町區有樂町一ノ一高木商會本店に轉勤歸朝（赤坂區田町七ノ二）
●三島良藏（四一大商）日本橋白木屋吳服店に入り雜貨販賣係長兼貴賓接待役となる（小石川區水道端一ノ二七）
●掛下龜二郎（5大商）福岡縣三池郡大牟田町三井物產株式會社三池支店勤務
●石ヶ森勝哉（5大商）神田區錦町一丁目株式會社博進社洋紙店勤務
●森　武夫（5大商）横濱市境町一ノ四會和貿易店勤務
●渡邊恕平（5大商）京橋區銀座二ノ九會和商店に勤務
●齋藤政次郎（5大商）横濱增田屋商店大阪支店を辭し鄉里に歸る
●高木謙吉（5大商）臺灣銀行勤務（臺北城南街六丁目同行合宿所內）
●天野康夫（5大商）神戸市海岸通三ノ八合資會社松昌洋行船舶部勤務
●橋本　關（5大商）神戸市榮町四丁目日本海上保險會社神戸支店勤務
●矢野　剛（5大商）日本郵船會社大阪支店詰（大阪市南區天王寺細工谷町五五〇五）
●土屋喜作（5大商）Tsuchiya Trading Co. 713 Davis Street, San Francisco, Cal. U. S. A. に勤務渡米
●石井　定（5理工）京橋區新佃島西町佃島製作所に入る
●澤島政平（同上）長崎市三菱長崎造船所に入る
●紺野猛平（同上）石川縣小松町竹內鑛業株式會社小松工場に入る
●鳥居　武（同上）福岡縣三池郡大牟田町三井三池

炭坑に入る
●江森四郎（5理工）京橋區明石町茨城無煙炭鑛株式會社工作課に入る
●根本　嘉（同上）京橋區月島東仲通一ノ四新潟鐵工所東京分工場に入る
●千葉清一（同上）本所區林町三ノ五東京スペリング製作所に入る
●中村功（同上）深川區猿江裏町藤田分工場に入る
●志村朝次郎（同上）濱松市鐵道院濱松工場に入る
●降旗音吉（同上）深川區西平井町東京製鋼株式會社洲崎工場に入る
●成瀨一郎（同上）福島縣石城郡好間村古河合名會社好間炭礦に入る
●松本幾太（同上）神戸市榮町三ノ二七田村商會に入る
●吉川政雄（同上）神戸市川崎造船所に入る
●西島源次（同上）埼玉縣大宮町鐵道院大宮工場に入る
●石澤諭吉（同上）日本橋區濱町二ノ十四藤田工務所に入る
●守屋寅三（同上）荏原郡大井町鐵道院大井工場に入る
●宇佐美眞造（同上）府下岩淵町日本製麻株式會社に入る
●甲斐莊楠銳（同上）神奈川縣程ヶ谷程ヶ谷曹達會社に入る
●土屋豐次郎（同上）京橋區佃島東京石川造船所に入る
●嘉村角輔（同上）山口縣厚狹郡須惠村小野田セメント株式會社に入る
●新田憲弘（同上）新潟縣刈羽郡日本石油株式會社に入る
●山田文太郎（同上）埼玉縣大宮町鐵道院大宮工場に入る
●原　隆成（同上）京都市上京區岡崎町奥村電機商會に入る
●大網善太郎（同上）大阪市大阪砲兵工廠に入る
●東屋文平（同上）芝區三田池貝鐵工所に入る
●黑川兼三郎（同上）本大學特待研究生となる
●成清政榮（同上）大阪市北區曾根崎上二宇治川電氣株式會社に入る
●山本義一（同上）京橋區明石町三一竹内鑛業株式會社に入る
●中島殺一（同上）淺草區橋場町小穴製作所に入る
●林元一（同上）京橋區日吉町飯井商會工場に入る
●井邊一雄（同上）神戸市三菱神戸造船所に入る
●倉田長右衛門（同上）福岡縣三池郡大牟田町三井三池炭坑に入る
●青木僖平（同上）神奈川縣川崎町東京電氣株式會社に入る
●渡邊猶作（同上）福岡縣田川郡後藤寺町三井田川炭坑に入る
●桑原義一（同上）大日本亞鉛株式會社に入る
●柳田美津男（同上）日本橋區本材木町東部遞信局に入る
●青江隆二（同上）淺草區橋場町小穴製作所に入る
●和田宗武（同上）靜岡縣加茂郡南上村三菱奥山鑛山に入る
●久世敏正（同上）麴町區鐵道院電氣課に入る
●助川貞利（同上）仙臺市東北帝國大學理工科助手となる
●木原　三（同上）芝區金杉芝浦製作所に入る
●平島貞明（同上）芝區田町鶴見埋築株式會社に入る
●田邊一雄（同上）横濱市横濱電線製造株式會社に入る
●小鹽健吉（同上）府下荏原郡大森町大森電池工場に入る
●横山康平（同上）芝區汐留中部鐵道管理局に入る
●原田答吉（同上）神戸市西部鐵道管理局に入る
●廣瀨正一郎（同上）愛知縣津島町津島瓦斯電氣株式會社に入る
●馬淵　潔（同上）兵庫縣川邊郡尼崎町旭硝子株式會社に入る
●中村郁郎（同上）奈良縣廳に入る
●山田義一（同上）本所區表町商工夜學校勤務
●田口大介（同上）京都市二條木屋町島津製作所に入る
●黑岩佐武郎（同上）福岡市九州電燈鐵道株式會社に入る
●三浦順一（同上）神奈川縣川崎町東京電氣株式會社に入る
●杉野信三（同上）鹿兒島縣日置郡串木野村串木野村金山に入る
●塚本武一（同上）岐阜縣吉城郡船津町神岡鑛山に入る
●黑崎　豐（同上）福井縣大野郡上穴馬村面谷鑛山に入る
●三浦榮次郎（同上）大阪市東區上本町大阪鑛務署に入る
●西村元三郎（同上）栃木縣上都賀郡足尾町足尾銅山に入る
●中野爭鹿（同上）高知縣高知私立工業學校に入る
●内海東男（同上）福岡縣田川郡後藤寺町三井田川炭坑に入る
●中村節雄（同上）札幌鑛務署に入る
●牛島　隆（同上）足尾銅山に入る
●礦部三郎（同上）靜岡縣賀茂郡稻生澤村河津鑛山に入る
●富永豐一（同上）山口縣豐浦郡彦島村鈴木亞鉛工場に入る
●高山　學（同上）青森縣下北郡大正鑛山に入る
●森　文彦（同上）宮城縣栗原郡鶯澤村高田鑛山に入る
●立花末次郎（同上）兵庫縣朝來郡生野町生野鑛山に入る
●松下甚三郎（同上）遞信省に入る
●恒川吳作（同上）京橋區南鞘町一四清水組に入る
●桐山均一（同上）内務省に入る
●栗山善之助（同上）宮内省に入る
●岸　平（同上）神戸市山手通四ノ一五神戸竹中工務店に入る
●舟曳李介（同上）陸軍東京經理部に入る
●堀井新次（同上）大阪市東區唐人橋二ノ十二大阪橋本組に入る
●近藤　勇（同上）東京砲兵工廠に入る
●木本守治（同上）茨城縣土木課に入る
●高木　弘（同上）青島軍政署に入る
●林造酒太郎（同上）麴町區八重洲町一ノ一辰野葛西事務所に入る
●湯淺益三郎（同上）農商務省に入る
●大澤源之助（同上）辰野葛西事務所に入る
●大泉　一（同上）大阪鴻池家建築係となる
●木曾大次郎（4理工）米國に渡航（1020 Main St Seatte Wash. U. S. A.）
●榊原玄龍（4理工）東京海軍造兵廠に就任（芝公園地二十二號五番）
●藤森喜一（3理工）横濱稅關發電所主任（横濱市戸部町一ノ八）
●古澤藤吉（4理工）芝浦製作所に轉動（芝區本芝二ノ二一安田方）
●小山照雄（4理工）朝鮮總督府土木局景福宮工營所に轉勤（京城明治町二ノ四石原方）
●大橋精一（4理工）神戸竹中工務店勤務（同市生田町二ノ一四田治方）
●大瀨其一（5理工）東京砲兵工廠内山形組出張所主任（牛込區馬場下町五五）
●藤本菊一（5理工）神戸市川崎造船所電氣工作部に入る
●高橋彌助（4數）保險新聞に入る（神田區小川町一番地）

●和島友義（三九英）　大阪府立今宮中學校に轉任
●前田利融（四二法制）　稻垣合名會社朝鮮土地部に轉動（京城北部中學洞一六）
●野地義一郎（3英）　福岡縣嘉穗中學校に轉任
●末永留吉（四二國）　福岡縣立福岡農學校に轉任
●飛澤勇造（四一歷）　六盟館編輯所に入る
●近藤潤次郎（四一國）　開成中學校講師となる
●尭子諦成（3國）　開成中學校講師となる
●池袋春樹（5國）　熊本縣立玉名中學校在勤（熊本縣玉名郡彌富村字中一五五鹿尾大記方）
●竹原得雄（5英）　福岡縣立中學傳習館在勤（同縣山門郡柳河町字北長柄町甲斐岩藏方）
●谷鐘秀（2推）　國會の承認を經て北京政府農商總長（農商務大臣）に就任

轉居

●遊佐慶夫（講師）　牛込區矢來町一一い八號
●島谷亮輔（講師）　牛込區樂王寺町七四
●喜多一重（5政）　牛込鶴卷町一八八郷和館內
●川上英男（5大政）　府下西大久保二一一（富山礦業事務員）
●菊池彌三郎（5政）　赤坂區新町一ノ一六三田方
●毛利壽篤（5大政）　神戸市平野神田町三五
●井上啓一郎（5大政）　大連市寺兒溝イ號宿舍
●林　行彦（三八大政）　赤坂區青山高樹町一五
●田中清夫（三九大政）　牛込區矢來町三（會社員）
●尾崎勝己（三〇政）　牛込區喜久井町二〇
●小瀨東二（2政）　神田區表猿樂町二板倉旅館內
●堀田健次（4政）　名古屋市中區東陽町五ノ三〇
●海老原清作（四三大政）　牛込區原町三ノ二五
●蜂須賀善亮（四四大政）　宇都宮市小幡町四丁目三十五番地
●與田茂造（四二政）　麹町區上六番町四二久瀨川定右衛門方
●中川春吉（三四英政）　府下淀橋町角筈八六
●平野履修（3大政）　大阪府下豐能郡箕面村字櫻井四百三番ノ二ノ內ヲノ九號
●小泉武之（二九政）　栃木縣足利郡足利町東町
●福田市平（四二大政）　熊本市水道町五八
●田中辰治（5政）　京都市上立賣通リ小川西入ル光島方
●角田强哉（5政）　牛込區早稻田南町三四常榮館
●久留弘三（5大政）　赤坂區青山南町五ノ四五
●堺田顯次（5大政）　本郷區西片町一〇番地はノ一二號
●小平米雄（5法）　芝區汐留二丁目一番地鐵道院官舍第三號
●小笠原幸彦（5大法）　府下高田村雜司ヶ谷一番地（研究科生）
●高田兼太郎（5法）　本所區柳島町三
●伊藤文一（5法）　神田區小川町一藤卷方
●關口七郎（四一大法）　麹町區紀尾井町三
●館岡　幹（2法）　秋田縣南秋田郡馬川村
●大舘精一（4法）　府下內藤新宿北裏町九四
●福井孝也（3大法）　神戸市下山手通四丁目一二七ノ一四
●赤田盛一（三九大法）　名古屋市東區東主稅町四
●佐伯好郎（二三法）　市外西大久保一六四
●藤井源左衛門（3、法）　山口縣都濃郡久保村字久保市
●中田龜吉（四五大法）　赤坂區傳馬町一ノ一二
●山崎菊太郎（5、法）　神田區猿樂町一ノ二白土りん方
●馬場定四郎（三九法）　日本橋區濱町一ノ一〇（辯護士、特許辨理士）
●片山　昂（二三法）　臺灣臺南市總趕宮街
●佐羽尾伊佐美（四五大文）　仙臺市北一番町二八
●大畑逢雄（四四大文）　茨城縣下館町在岡芹
●木山十彰（四四大文）　牛込區矢來町一一番地至心學寮
●篠原惟運（三九大文）　神田區表猿樂町二番地ろノ五十一號
●山本芳助（2大文）　神田區今川小路二ノ一五菊明館內
●加藤清忠（5大商）　赤坂區表町三ノ七
●能任理左久（5大商）　大阪府下天王寺村大字天王寺巴通一九九二
●中村輝雄（5大商）　仙臺市大町三ノ一六一
●高島　靖（5大商）　麻布區笄町一一七
●若間平一（4大商）　岡山縣兒島郡味野町（同町山陽紡績勤務）
●遠藤富次郎（四四大商）　下谷區車坂町八八
●横山　勇（2大商）　市外淀橋字角筈新町一四一
●大橋　薫（3大商）　釧路國浦見町三ノ三〇
●柴田　貞（四五大商）　大阪市東區東高津南町一二八
●松橋　勝（四三大商）　小石川區茗荷谷町七四
●大西進八郎（4大商）　神田區堅大工町二一
●齋藤喜太次（四三大商）　埼玉縣北埼玉郡手子林村字神明
●村上權一（四三大商）　熊本市新屋敷町三六二
●伊藤　申（四〇大商）　京都市岡崎町福ノ川一五
●引野春治（四三大商）　牛込區鶴卷町四四三番地上田方
●清水光義（4大商）　岐阜縣大垣町外側
●武本康一（4大商）　府下大森停車場通り不入斗八八八平林方
●增永繁藏（2大商）　京橋區木挽町一ノ十四番地佐藤藤吉方
●岩田豐吉（四二大商）　大阪市東區十二軒町六
●山口　巖（5理工）　小石川區大塚坂下町七八（本大學職員）
●藤本菊一（5理工）　神戸市楠町二丁目六四ノ四平岡方
●及川福太郎（四五理工）　兵庫縣尼崎市松島極東硝子株式會社內
●小野喜太郎（2理工）　大阪市北區東梅田町三〇六遠藤方
●遠藤太郎（4理工）　四谷區佐門町五〇
●圓井竹三郎（3理工）　大阪市東區大手通二丁目三九番地（同市北區樋之口下之町合資會社北村鐵工所勤務）
●中村喜次郎（4理工）　大阪市西區築港五條通一ノ一〇
●大橋周治（4理工）　大阪市梅田新道宇治川電氣會社內
●增田瀧五郎（5英）　兵庫縣明石郡垂水村之內名谷
●木村篤二（5國）　市外西大久保四一四
●藤原廣治（3國）　岡山市難波町七二
●鈴木芳五郎（4國）　麻布區簞笥町六〇
●中村　健（三九國）　赤坂區新坂町六八
●岩井貞治（三七史）　横濱市神奈川青木久保町十六番地
●名古屋直治郎（4國）　奈良市押小路五
●木藤　長（四二歷）　牛込區築土八幡町三六
●二宮貞久（3英）　神奈川縣足柄下郡片浦村
●伊東秀壽（5推）　市外高田村三二五（辯護士）
●寺田康平（二九推）　名古屋市中區中ノ町二丁目十五番地
●石井信二（四三推）　本郷區本郷六丁目大津旅館

改姓名

●田中秀穗（三七法）　舊名喜一（栃木縣上都賀郡上永野村永野鑛山事務所勤務）
●志水彌生（四五大商）　舊姓田中（芝區三田一ノ三七番地）
●瀧澤敬也（5理工）　舊姓福田（新潟水力電氣株式會社勤務）

大正二年　大學部政治經濟科出身　本多哲太郎
明治三十五年　英語政治科出身　大岡　保
明治三十五年　邦語行政科出身　澤　己三尾
明治二十三年　邦語法律科出身　橋本　保吉
明治三十八年　專門部法律科出身　横川增太郎
明治四十二年　大學部文學科出身　大平　良平
大正四年　大學部理工科出身　形田卯傳次
右諸氏の訃報に接し哀悼の至りに堪へず茲に謹んで弔意を表す

學生會合

◉英語會々報

烈暑全く去り殘暑又去り、吾等が心靈に肉體に秋氣せまり、力豐かなるを覺ゆるのである。我が會は光彩ある歴史に一層の光輝を加ふ可き期に入つたのである。

全てに豐かなる新進の氣充ち、幹事の改選あり、會員に新なる者加はり、古き者輝きわたり、室は學園の一角に清新の氣高遠の理想を望める若き者の世界となつたのである。

▲幹事改選　九月二十二日(金曜日)集る者は皆力强く、舊幹事は光榮ある職を熱誠と忠實に過し今新なる者に托す可き時となつた。即ち希望と眞實の聲望に依りて托された光榮ある者は以下七名である。

大學部二年生幹事
盛田　秀平　小林　孫一　橘　義一
犬塚　登　立野　正夫
一年幹事
平澤　哲雄　速水　久彦

▲會則の改新　其後數日幹事會に依つて改新せられた會側は左の如くである。

第一　會則第四條第一項に『會友　本會出身卒業生及ビ本會關係者ヲ以テス』なる一項の追加である。

第二　會則第五條第三項として『幹事長一名本會ニ關係アル教授中ヨリ推薦シ幹事ヲ總括セシム』なる一文の制定である。

第三　會則第五條第五項として『委員若干名會員中ヨリ幹事之ヲ委托ス』なる一文である。

第四　會則第七條第二項中、大會中會の外月次例會の開催である、これは名士並に會員演說會であつてそれは會員の啓發がその眼目である。

第五　會則第九條『本會徽章ハ幹事會決議の上會長ヨリ之ヲ交付スル者トス』

以上が其概略であるが、幹事は日ならずして如斯き改新を發表したのである又本會は旬日來豫科各科に向つて本會の存在にについて演說を催したのであつた。其後一兩日にして、すでに五六十名の新會員が增加せられたのである。自分は世界の大勢のみならず本校の一般傾向が語學の研究に傾きつゝあるを漫に思ふて實に喜悅にたへない者である。會は新入會員歡迎會を七日、本年度例會を十四日に開催する筈である。自分は來月號に其報告をなし得ると信ずる。(茶問屋主人報)

◉哲學研究會　九月二十九日午後三時より、第八回例會を文科第二十八教室に於て開催。演題左の如し。

哲學より心理學の獨立せし經路　北講師

先づ此問題に對して方法論的に觀察せしエビングハウスの所說を紹介し、次にその對象を主にして觀察せしキュルペの說明を紹介し、更に前二者を兼ねたる立場より觀察せしヴントの所論を紹介せらる。而して、かくの如くして說明されし獨立の經路は、勿論心理學の方面のみより見れば完全なる說明なれど、更に哲學の方面より見て說明せらるべき餘地なきにあらず。かく論じて、師は、デカルト、スピノーザ等よりカント、ヘーゲルを經てロッツエ等に至る間の過程を詳しく說明され、哲學の發達そのもの、中にも、心理學の獨立を促すものの存せしを論ぜらる。前後約二時間に亘る有益なる講演なりき。講演後、一會員よりの第九回の講演の豫告、村岡師よりの第十回の研究の豫告あり。當日は前記二師の外、八名の新入會員を加へて十八名の來會者ありき。(河合記)

◉大民團大會　大民主義の王道を行はむとする同團は、九月新入の諸君に同主義の徹底を期して九月十六日正午十二時より大講堂に於て左の諸名士に依り大民主義宣揚大演說會を開催す。

一、開會之辭　柴田德次郎
一、日支親善論　法學博士　寺尾　亨
一、理想主義　明大圖書館長　五味　欣三
一、青年活動之天地　教授　永井柳太郎
一、所感　頭山　滿
一、校內校外　男爵　後藤　新平
一、吾人の覺悟　朝日新聞記者　中野　正剛

諸氏の演說ありたるが、當日來り會する者一千有餘名聽衆場に溢れ、多數の氣骨ある青年に滿足を與へ得ざりしは深く謝する所なり。今其の盛況の一班を記せんに定刻柴田氏登壇開會之辭に替へて「赤き血潮に躍る青年の體力精神を以てせず、何事か爲し得べき、吾人は徒らに先輩に依賴せず、吾人青年に依りて宜しく國家社會を救濟し且つ其光輝を發揚せざる可からず」と說く。時に頭山先生後藤男の止むを得ざる事情の爲め不參の報ぜらるゝや聽衆不滿の色あり。次いで仙骨を帶びたる寺尾博士の入場せらるゝや、拍子一齊に起る。開口一番「國家當面の人物の爲すなきを嘆じ、宜しく諸君の如き前途ある青年と共に事を計るべしと說き、進んで博士三十年來の研究になる日支問題を說かるゝ事詳細、日支親善の要は國民相互の了解にあり」と喝破せらる。次いで五味氏の立たるゝや、歐米留學當時の研究を提げて彼我比較論を爲す。言辭流麗の裡に現代社會の風刺の潛めるを覺えたり。當日最後の壇上を飾りたるは校友中野氏なり。最近歐米に遊びたる見聞研究を展べて戰時中の交戰各國中立國の事情より說き進むで、歐米各國の我國に對する心情の眞相を述べ、同盟協約の賴むべからざるを論じ、戰後東洋の形勢より我帝國は宜しく孤立の大覺悟を以て力を養ふを要すと喝破す。猶當日出席の筈なりし永井柳太郎氏の出席なかりしは遺憾至極なりき。斯くて大會は盛會裏に五時半を以て閉會を告げぬ。(幹事岡田隆文報告)

◉三重縣人會　そぼ〳〵雨降る四月二十九日有志者四谷見附三河屋洋食部に集合して卒業生豫餞會及新學生歡迎會を午後六時半より開會す。參集者は會長增田教授を主席として二十四名共に寫眞を撮る。時移るに從ひ懇親談話は益〻盛に席は溫くなる。土井氏の開會の辭ありて增田會長左の意味の御話あり「曾てグーテは謂へり教へんとする事柄だけしか知らぬ教育家ほど不良な教育家はない」と、故に誰人であれ自己の有する超實力の仕事を排し、

實力以内の仕事を爲すに止まれば決して不滿不平の起る理由はない云々。次に武信教授は教授一流の縣人觀を述べらる。曰く「三重縣人は一般に早熟であるが、決して喜ぶべき現象でない」と。次に川北氏送別歡迎の辭を述べ小西氏卒業の挨拶をなし、吉村氏新會員の希望と抱負とを述べて答辭に代ふ。校友堀川美哉氏「日本人は衒氣性を有す。此は大に慎むべく矯正を要する缺點であるとて、其範例として氏が在米中の事實を列擧せらる。」櫻井氏會の報告をなし、幹事の改選は前幹事に一任するに決定し、松本氏立ちて就職難に關して大いに氣を吐く。須藤、丸岡、田邊諸氏の談話ありて午後十一時和氣靄々裡に閉會せり。當日の出席者次の如し。（順序不同）（幹事報）

増田藤之助　武信由太郎　西村　眞次
堀川　美哉　坂井田傳一郎　小西　利雄
西川　玄雄　廉生　純　松谷　政一
橋本正次郎　村田善兵衛　中條長二郎
櫻井彌太郎　松本　敬治　土井　眞澂
川北　磯助　須藤　德夫　稻垣　太郎
丸岡　重堯　西田　哲二　押田　長生
田邊善一郎　齋藤　茂三　吉村　道郎

◉會津早稻田親交會　校友數名の發起により同會を八月十三日に東山溫泉新瀧樓で開き、折柄會津中學に師として聘せられてゐた宮川本校柔道教範をお招きした。暑さ盛りを冒して來た人々の汗は溫泉浴に流され、浴衣にかへて瀧近くの室に入ればどうゞ〳〵たる水聲は忽ち涼氣を齎すのであつた。午後三時樓の庭園に記念撮影を了つて開會した。先づ幹事大石氏開會の辭を述べられ、次に請はれて起つた宮川氏其覇氣ある辯をもつて『會津に來ての感想』及『福岡に最近起りし騷擾事件』の顚末を語られた。會則の討議其の他を終へ宴に移つた。心置きなき談笑は絶えまなく交はされ、やがて校歌『都の西北』のコーラスは高く〳〵起つた。かくて九時盡きない歡びのうちに閉會の幕を下し、樓を出づれば盆大の月は高空に清く澄み渡つて居た。當日の出席者は

▲卒業生
宮川　一貫　大石　勝雄　永山　五郎吉
野崎丘四郎　石堂　竹彦　遠藤　華峯
（校外生）
▲在校生
猿橋　八郎　宗川　保　竹田　虎雄
石橋　正德　阿部井澤助　河原田盛雄
滿田　義雄

◉音樂會北陸地方修樂旅行記事

本年一月橘、松永兩名學幹事及前坂主任幹事の間に於て本會管絃樂團の北陸地方修樂旅行を計畫し、その準備として前坂幹事は一方本會春季演奏大會の準備を終へ、二月十七日上野驛出發、高田名譽學長（本會名譽會員）の紹介を以て、新潟市に於て早稻田大學評議員松井郡治氏新潟校友會幹事荒川謙二、櫻井孝治安藤文祐の三氏及齋藤庫四郎氏、長岡市に於ては廣井一氏、富山市に於ては横山四郎右衛門氏、櫻田廣利氏、金澤市に於ては濱中長平中澤正七、森田勝平の三氏、福井市に於ては三田村甚三郎氏の諸氏と會合、種々協議の結果、三月二十六日夕東京出發、新潟、長岡、富山の各市に於て演奏を擧行し、金澤福井の兩市に於ては都合に依りこれを中止することに決したり。

然るに其後理工科第二學期試驗が三月二十九日迄延長せられたるに依り、直ちに日程を變更して四月五日出發と改めたり。四月五日午後八時一〇分一行二十名（永井樂長は事故のため不參）校歌高唱の裡に上野驛出發、郡山を經て岩越線に入る。雪降ると甚だし、若松驛にて朝食を取り、翌六日午前十時十五分新潟驛に着、多數校友諸氏の出迎を忝うし、一行は隊伍を整へ校歌を高唱しつゝ、旅館篠田館に着。時正に十一時雪模樣の空も漸く晴れて心地よし。直ちに旅裝を解き晝食を終へて後、午後三時半迄各自自由散歩を許され、五時半夕食を終へ、一行は校歌を高唱しつゝ、當夜の會場改良座に到る。既に入場者場に滿ち、入場の謝絶を餘儀なくせるの盛況を呈せり。七時豫定の如く松井郡治氏の開會の辭を以て演奏を開始し、聽者千餘名大喝采の中に十時閉會し一行は直ちに校歌を高唱しつゝ、歸館、談笑の中に寢に着く。尚ほ當夜は校友諸氏の厚志に依り、鍋茶屋に於て慰勞會を催され、樋口、松永、伊東の諸氏及前坂幹事出席せり。

翌七日快晴、一番列車にて中原大森の兩幹事は準備のため長岡市に先發、一行は朝食を終へ、午前九時半校友諸氏に送られて新潟驛出發、十一時四十八分長岡驛に着、慈善音樂會發起人有志及校友諸氏の歡迎を受け、隊伍を作り校歌を唱しつゝ、旅館大野屋に乘り込み、休憩中食の後再び校歌を高唱しつゝ、第一會場なる長岡女子師範學校に赴き、發起人山村同校長の開會の挨拶についで演奏を開始したり此處にては各女學校の女生徒のみを收容したるを以て、極めて靜肅に心地よき演奏を了したり。聽衆一千餘、五時散會。一先づ旅館に歸りて夕食を終へ、第二會場なる長岡座に到る。途中校歌を高唱し行けば物めづらしさうに軒毎に多數之を見送り、恰も物日の如き有樣にて、一行も亦第二の鶴卷町を行くが如き感を以て早稻田々々々を續けつゝ、行進せり。やがて場に到れば、内外に滿ち〳〵たる入場者は急霰の如き拍手を以てこれを迎へ、一行の意氣またあたるべからざるものありき。午後七時石塚三郎氏は發起人を代表して開會の辭を述べ、やがて拍手大喝采裡に校歌の合唱を以て演奏を開始せり。最後に前坂幹事挨拶をなす。曰く「今日の盛況に報いんがためやがて一萬の學生の先途となり數倍の管絃樂團を飾るて諸君にまみえんことを約す」と、十時拍手裡に閉會。千五百の會衆に送られて歸館校友諸君よりの厚意により贈られたる茶菓を別ちて寢につきたり。尚ほ、樋口、松永、伊東及び前坂の諸氏は閉會後直ちに校友會主催の慰勞會に臨みたり。

長岡市に於ては、後に記載する如く市内各官公衙、學校長、校友會及び北越、越佐の兩新聞社の發起に係る慈善音樂會なるを以て、市内は鼎の涌くが如き有樣を呈し、空前の盛況を呈したるは、北越地方の如何に我早稻田大學に同情を寄せらるゝかを想はせ、我等も亦本會の主義たる最後に到るまで大學のために盡さんことを默契せり。

八日午前八時四十二分校友諸君の見送を受けて長岡驛出發、途中直江津驛に於て北陸線に乘り換へ、午後二時半富山驛に着。校友諸君等に迎へられ、電車にて舟山館に到る。午後六時四十分一行は校歌を高唱しつゝ、會場第三

福助座に到れば、滿員のために入場を謝絶せられたる數百の群衆の閧聲を揚げてどよめく程の盛況を呈せり。會場は全く立錐の餘地なく殆ど總立ちの中に横山四郎右衛門氏開會の辭によりて演奏を開始したり。第二部に移り混輯曲「可愛い歌聲」終るや、富山音樂研究會より寄贈の鮮麗な花輪を花の如く優しき坂井みい子孃の手にて前坂幹事に捧げられたり。本會は深く其厚意を感謝する所なり。拾時盛に起る拍手と歡聲とに送られて退場、歸館一泊せり。當日の入場數は實に一千八百名以上なりしと聞く。九日豫定の演奏を終へて、校友諸氏に送られ午前八時富山驛出發、十時金澤驛着、尾山神社、兼六公園、犀川其他を見物の上午後二時過、同地出發、粟津驛に下車電車に乘り粟津溫泉那谷寺を經て山代溫泉に着直ちに山下旅館に投宿す。其夜は數夜の疲れを醫するため。大慰勞會を催し、各自歡を盡して寢に就きぬ。

十日、此日暴風雨にして折角山中溫泉九谷等を觀賞せん筈なりしも其意を得ず、各自の自由にまかせて一日の休養をとり、午後九時電車にて出發、動橋驛に到り、十一時出發、米原名古屋を經て翌十一日午後六時東京驛着。驛前に於て校歌を高唱し、早稲田大學と音樂會との萬歳を三唱して散解せり。行程約一千哩本會最初の旅行に於て多大の成功を收め、一行恙なくその行を了し得たるは本會の永く紀念せんとする所にして、また我早稲田大學校運の如何に隆盛なるかを銘記せんとする所なり。左に一行の姓名、各地に於ける發起者名及演奏曲目を記す。

一行氏名

樋口信平、松永安衛、伊東貞雄、前坂重太郎、中原眞一、大森益德、金丸親太郎、赤壁德三郎、山口逢、山本五郎、清水豐太郎、三宅耕造、武田達夫、齋藤羚三、推橋巳喜雄、中島利信、增田仁三郎、馬場勇、中川道三、根來隆三、

長岡市に於ける慈善音樂會發起者氏名

伊佐兵一郎、石塚三郎、今泉鐸次郎、橋本圭三郎、橋本倉之助、橋本兩平、長谷川律藏、星野勝、堀安太郎、岡本金一郎、大山登、小野塚貫吉、河島良溫、土田元郎、直井市輔、內田三省、山口政治、山村彌久馬、松井吉太郎、丸田龜太郎、福島甲子三、近藤健治、澤崎寛制、齋藤由松、澁谷善作、平石武右工門、廣井一、元田龍佐、北越新報社、越佐新報社、早稲田校友會、

富山市に於ける慈善音樂會發起者氏名

倉辻明義、藤井尙治、久保清三、磯野充章、本田源馬、關野善郎、柴谷龍、櫻田廣利、竹島敬一、伊東貞次、永井信義、

演奏曲目

合唱（管絃樂伴奏）　管絃樂團
早稲田大學校歌　東儀季治作曲　前坂重太郎編

第一部

一、管絃樂合奏　管絃樂團
行進曲、ヨークタウンの百年祭　スーザ作
二、ウアイオリン獨奏　山口逢氏
ラ、サンカンティメ　ガブリエル、マリー作
三、低音獨唱　講師　樋口信平氏
甲、歌劇「靈笛」中の一節　モツアルト作
乙、同「ルチヤ」中の一節　ドニツエツテイ作
四、ピアノ獨奏　中原眞一氏
ウエッテンゲマーチ　メンデルゾーン作
五、管絃樂合奏　管絃樂團
舞曲、戴冠式　ストラウス作

第二部

六、管絃樂合奏　管絃樂團
可愛い歌聲　永井蓁子編
七、ピアノ獨奏　特別會員　伊東貞雄氏
パテティック、ソナタ　ベートヴェン作
八、マンドリン合奏　管絃樂團
甲、ブライダル、コーラス　ワグネル作
乙、カレヂ、メドレー
九、低音獨唱　講師　樋口信平氏
甲、歌劇「エルナーニ」中の一節　ヴエルデイ作
乙、同「ドンファン」中の一節　モツアルト作
十、管絃樂合奏　管絃樂團
聯合國々歌集
番外數曲

（富山市に於ては八戸彦作氏、平田うめ子の尺八琴合奏、御大典祝賀の曲及宵の星を挿入せり、御厚意を謝す。）

修樂旅行會計決算

收入總額金四百〇四圓也

內譯　新潟市演奏謝禮　百五十圓也
長岡市同　百〇圓也
富山市同　五拾圓也
會員會費　百〇四圓也

支出總額金參百六拾九圓七拾八圓也

內譯　準備費　貳拾圓也
汽車賃　百八拾壹圓拾五錢也
宿泊料其他　百〇八圓拾貳錢也
辨當等　貳拾參圓貳拾五錢也
雜費等　參拾七圓貳拾六錢也

差引殘額金參拾四圓貳拾貳錢也

新潟市に於ける慈善音樂會收支決算

四月六日校友松井郡治、荒川謙二、櫻井孝治安藤文祐、齋藤庫四郎の諸氏以下新潟校友會の發起を以て本會主催慈善音樂會を改良座に於て開催し、入場者一千餘名定刻七時松井郡治氏開會の辭を以て演奏を開始し、既記の曲目順序により演奏を續け午後十時閉會せるも前記の如くなるが、其の收支決算左の如し。

收支決算

收入金參百參拾八圓參拾錢也

支出金貳百參拾七圓〇壹錢也

內譯本會旅行費用一部　百五拾圓也
改良座借入料　五拾圓也
ピアノ借入、茶屋手當　拾圓也
印刷代　拾八圓四拾錢也
雜費　八圓六拾壹錢也

差引金壹百壹圓貳拾九錢

此の分配左の如し

一金四拾圓也　出獄人保護會寄附
一金參拾圓也　育兒院寄附
一金參拾圓也　慈仁會寄附

以上荒川謙二氏執事終りに臨み各地到る處種々御盡力を忝うせる發起人及校友諸君の御厚意は永く本會の記錄に銘記し之を感謝せんとす。（幹事報）

（此の項時後れの感あるは記事輻輳の爲め掲載の機を得ざりし故と諒恕を請ふ。）

◎支那協會有志祝賀贈呈　在學當時支那協會員たりし校友有志は、同會副會長青柳教授の本春千葉縣に邸宅を新築して之に轉居せられたるにつき之が祝意を表し、紀念品を贈る事となり、井上金也、富岡義則、山川英藏、加藤保之助、五十嵐豐次、蟠川安雄、篠原花實

金澤柳壽、大沼銈太郎、臼杵伊三郎、高野清八郎の諸氏より安藤井筒堂製の七寶製花瓶を贈呈せりと。

運動

◉水泳部報告

吾が水泳部開設以來既に十二年の歴史を有すれども、常に練習部員十七八名なりしが、昨年一躍四十五名に達し、本年愈ゝ増加し、岡部師範の下に六十名の多きに至れり、然れども我校八千の健兒を包容するを思へば微々たるものにして、尚一層吾等の努力と熱心とを以て本部の發展を計らざるべからず。然し本年は天候惡しかりし事を遺憾とせり。

練習狀況の概略を述べんに、

吾等は八月一日午前九時北條海岸より鷹の島に至る一哩半の第一回小遠泳を試みたり。右側警護船に校友太田永吉氏、委員横澤。左側警護船に委員小坂乘船し、中央岡部先生游泳を監督し、一時間二十分を要し、二十名中十七名の全泳者を出せしは好成績なりき。就中弘田國彦君、本間資高君の如き共に十三才の少年にしてよく年長者に伍し、最後を完ふせるは賞贊すべきなり。

越えて八月七日北條海岸より沖之島に至る三哩第二回小遠泳を午前九時半より行ふ。左側警護船に委員小坂、右側警護船には部員西村晴雄君監視の下に初心者を同乘せしめ、中央は岡部先生監督指導せらる。此日波高きに係らず、二十名中拾貳名の全泳者を出し、時間二時間九分を要せり。此處に賞すべきは小坂清（錦中四年）及び伊東祐貞君（早中三年）伊東祐三郎君（早中一年）の少年兄弟にして、怒濤に屈せず全泳せり。

八月十五日吾等の四週間練磨の技倆を示さんと待ちに〳〵たる關東聯合游泳大會は來り、午前八時より開催せらる。本部は此擧に應じ左の拾貳名を派遣せり。

水府流太田派游法

一重伸略體　岡藤　一雄
　　犬塚　秋彦
　　木村幸一郎
　　佐藤　信一
　　犬塚　秋彦
　　福島　一
兩輪伸　小坂　勝藏
　　横澤　榮
　　西村　晴雄
　　川澄　一郎
片拔手一重伸　大舘喜久男
片拔手二重伸　川澄　一郎
拔手伸　小坂　勝藏
　　大舘喜久男
大拔手　渡邊　浩
逆跳　籠宮　利光
順下　大舘喜久男
水府流游法
一重伸　渡邊　浩
二重伸　横澤　榮
平伸　渡邊　浩
　　西村　晴雄

レコード

五十米　三十六秒　横澤　榮
　　三十七秒　大舘喜久男
　　四十一秒　渡邊　浩

就中岡部先生の模範游法の水府流一重伸蛙游は觀客をして舌を捲かしめたり。

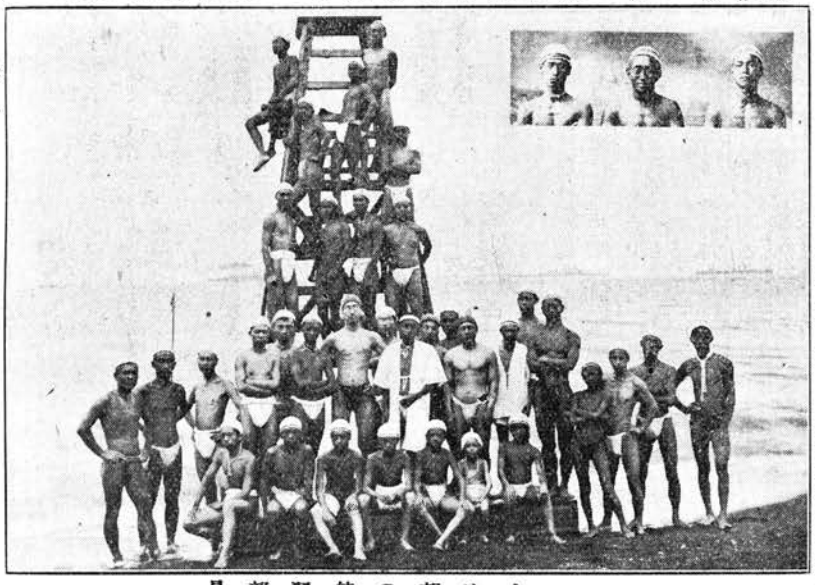
終つて後ち高等師範寄宿舍に於いて晩餐會の催あり。本部三十名出席し、他校水泳部に我水泳部の元氣あり活氣ある事を示し、午後八時半散會せり。

翌十六日昨日の疲れも厭はず第三回大遠泳、北條海岸より沖の島鷹の島廻航七哩遠泳を試む。午前九時十分入水し、左側警護船に南學生監督。委員小坂、右側警護船に理工科教授竹中先生、同科機械工學科主任中川先生、並に校友富塚喜富氏、中央船は部員犬塚秋彦君辻岡東吉君、乘船監督し、岡部先生悠然として游泳指導せられ、全泳者大舘喜久男君、盧君、（支那留學生）、福島一君、二宮知定君、仙波潤一郎君、校友黒川兼三郎氏、岩谷善雄君、渡濱浩君、横澤君の九名にして、四時間四十二分を要せり。

福島一君は錦城中學校四年生にして、黒川氏は本年度理工科卒業の秀才なり。兩君共に平素熱心に努力練習せる結果にして、當日全泳者中の花形なりき。殊に黒川氏は六尺の長軀なる故に、人戯言して曰く氏は泳くのではなく歩むなりと。

遠泳も無事に終へ午後六時半より晩餐會を兼ね閉部式を催し、中川竹中兩先生御臨席の榮を賜り、和氣靄々の裡に散會せり。

斯く盛大に且好成績を收めしは、中村部長前田幹事望月南兩監督の御後援御盡力に、岡部先生の熱誠なる御指導に依るは勿論なれども亦部員各自の努力と熱心なる練習の結果によらずんば能はざる所なり。來るシーズンには吾等委員と共に本部發展向上に御助力あらむ事を望む。（Y委員投）



水泳部の練習部員

雜報

◉早稲田實業學校財團法人となる

私立早稲田實業學校は從來法學博士天野爲之氏の單獨經營なりしが、同氏の寄附行爲により財團法人組織となし、七月廿九日付を以て文部大臣に設立許可の申請をなしたる所、九月二日許可せられ、同十六日登記を了せり。

同校々長杉山重義氏理事となり、三枝守富氏監事となる。維持員左の如し。

終身維持員　高田　早苗
同　大隈　信常

同　監事　三枝　守富
有期維持員　市島　謙吉
同　田中　穗積
同　鹽澤　昌貞
同　田中唯一郎
同　增子喜一郎
同　理事　杉山　重義
同　鈴木　浩之
終身維持員　天野　爲之

◎大隈侯爵銅像除幕式　豫て芝公園内に建設せられつゝありたる大隈侯爵銅像は十月十五日其の除幕式を行ふ筈なりと云ふ。

◎田治講師母堂の逝去　講師田治多藏氏母堂は九月十六日鄕里福井縣に於いて逝去せられたり。

通信

◎**歐育便り**…講師：留學生：中村萬吉氏

（上略）豫定の通り八月十九日正午出帆のアメリカンラインセントルキス號にて渡英の事と致し候實は前便にて申上候通り佛國船にて直に巴里に入る計畫之處其後領事館と打合せ候結果矢張アメリカ船の方安全なるべしとの事にて右の如く渡英に變更ロンドンに一週間、パリに又一週間位滯在の上九月中旬スキスのベルンへ到着する豫定と致し右の趣天野學長田中理事其關係筋諸君へ御傳言願上候（中略）能ふ限り豫定の範圍内にて滯在致すべく候へ共或は事實上豫定の年限だけ滯在し得るや否やは全く疑問に御座候間渡歐後の模樣にては研究の纒まり次第早く引揚ぐる事と可相成やも測られず候尙小弟の教授方法は講義案を使用する方針に御座候間多少日本の判例等を參照して案の內へ記入する必要も有之候間其間多少時間の餘裕を有し置くべく歸朝期を早むるの必要ありと存候尤もスキスが研究上意外の好都合ならば精々永く滯在する事と致候いづれも渡歐後實際を檢分せざれば確定致す事に取計置候

先は御返事旁〻渡歐御通知迄如此斯御座候也

八月十一日　中村　萬吉

前田幹事殿

秋田縣大館町に於ける校外教育講習會（前號雜報欄參照）

（第二列右ヨリ七人目（佐々木北秋田郡視學）、八人目（内ヶ崎教授）
九人目（浮田博士）、十人目（柳青教授）、十一人目（武大石館書讀書會長））

◎**露國便り**…

教授：留學生……片上伸氏

（上略）當地も段々物價は上る一方にて、近來は家賃室代の値上げ問題やかましかりしも當分據置と決定、但し肉類の缺乏甚だしく、當局は一週に三日間市内一切の店舗をして生肉類は勿論乾肉等も一切賣捌かしめざる布告を發し實行いたし居り候砂糖も缺乏、一人一度に一斤そこ〳〵しか賣渡さず市民は砂糖屋の前に二三百人行列して終日立ちづくし居候、小生の下宿せる家は知りあひの人の家にて、主人は控訴院判事に候こゝの女中が午前一時に起きて店の前に立ち、午前十二時頃漸く三斤の肉を求めて歸るといふ有樣にて肉を得るの困難御察し被成度くロシア人に肉を與へず、砂糖を與へざるは彼等の最も苦痛とする事に候、砂糖は料理用としてよりも、一日幾回も必要の紅茶のため最も重要なる食料品に御座候、この勢ひにてバターも同じ何も同じとて物價は上る一方、市民の不平も大分高まり居候地方も同じこと、今は農繁の盛りなるに、一ヶ月分として之れ以上は賣渡さざる規定にて一々切符制度に御座候一人前一斤の四分の三の砂糖を買ふために、三五里の遠方より町へ出て來る百姓が一日を購買組合の前に立ちくらし、一日の仕事を棒にふり空腹をこらへ（もし飯屋へ食事に行けばその間に順番を奪はるゝ故）はては不平のあまりその店の戸をこはすなどの小さな騷ぎもあり、何れこの勢ひにては不遠そこに一と〇〇あるべく、これは一般ロシア人の衆口一致するところ、而してその運動起らばモスクワは發源地（多くの原因よりして）にて、小生も當地滯在中目擊するとと豫想いたし居候

金子先生よりは未だ御手紙に接せず、その內御たよりあるとは存候へども、過日御送り被下候分にては、露曆九月分の下宿料を拂ひてあとは殘高もなきことと相成るべく、度々恐れ入り候へども次の分至急御送り被下候樣御取計ひ願はしく、昨日歸朝の河野通九郎氏（安通志君令兄）に托し、金子先生宛手紙日本領內にて投函を托し（この方早く着き候ため）右の送金の件大略御願申置候、下宿料は勿論前金にて、ロシア曆九月分のは日本曆九月中旬に拂ふとと相成候、（ロシア曆は日本のより十三日おくれ居るため）、この秋以後の學費今迄のと方法をかへ出來るだけ方法を講じて豫定の金高にて豫定の期限を過すやう考へ居り候、ともかく恐縮ながら次回の御送金至急御願申候やはり正金支店を通して願上候、萬一右の支拂日に間にあはずとも多少の日數は勿論何とでも出來申すべく候學校も段々盛大に赴き候樣子何よりもよろこばしく御同慶の次第に御座候小生も出來るだけのことはしてせめて、健康だけは日本にゐた時よりもよく成りて、將來仕事を休むやうなものないやうに成りて歸りたしと存居候、幸ひ當

地着後壯健この夏は殊に知人の莊園にて多少農事の御手つだひなどして土と日光とに親しみ身心の休養をいたし候ゝに御座候、近々今一度其の田舍へ赴き、露層八月中旬歸京の豫定に御座候

大隈總長候爵となられ候由、直接學園の學事とは關係なきことながら、やはりめでたきことの一つと存候當地は已に日本初秋の氣候にて、空高く星明らかに夜分などは日本の冬外套でも暑からず候、今年は雨多き夏とかにていつになき不順とのこと、これも戰爭のため天象の異狀と人々申居り候、御地は今頃はまだ大暑の盛りと存候、この書面御手に入る頃は學校も初まり申すべきか。小生當地に來りて已に九ヶ月、やゝ何かの樣子勝手も分り、然るべき相談相手も見つかり、この八月中旬卽ち當地の各方面の活動初まる頃よりは多少落ちついて仕事も出來申すべきかと存居候、今回はこれにて擱筆いたし候吳々も御自愛被下度願上候末乍ら學長理事諸先生にも宜しく御鳳聲御願いたし候、學長へは何れ近日學事の近況詳細申上候考へに御座候　敬具

五年八月十一日　　片上伸

ロシア曆七月卅日

高橋　三郎樣

前田　多藏樣

新刊批評

◎戰時經濟講話

東京高等商業學校教授　上田貞次郎著

本書は歐洲大戰突發の當時英國に滯在して親しく其の戰時狀態を目擊せられた東京高等商業學校教授上田貞次郎氏が、一昨年八月文部省實業教員講習會の爲めに講演せられた講義に基き篇述せられたものであつて、講義の材料は昨年八月前卽ち六七月迄に生じた出來事に依つたとある。內容は第一章、開戰前後の事情。第二章、英國金融界の打擊。獨逸金融界の動搖。第四章、英國外國貿易の動搖。第五章英國の食料及原料供給問題。第六章、獨逸の食料自給策。第七章、戰時の勞働問題。第八章、軍國財政第九章、日本に於ける反響。の九章を含んで居る。

（神田富山房發行定價金八十五錢）

◎歐洲大戰の經驗

是れ會長に大隈侯を仰ぎ編輯長に浮田博士を戴き更に市島氏を推して理事長として過去八年有餘の間我國に向つて世界日新の學術を紹介し併せて不斷に發達しつゝある百科の新智識普及を圖り時代に適切なる進步的社會教育を施し以て一百二十有餘の刊行書を提供して今日に至りたる大日本文明協會が、昨秋御大典の奉祝紀念新計畫刊行書第一卷として發行したる者なり。第一章緒論に於いて近世歐洲を舞臺にせる大戰爭を述べて今次の大戰に比較し、次に大戰の由來交戰國の責任、戰爭と平和、大戰の經過等を叙し、第二章外交、第三章大戰と兵備及兵制、第四章大陸諸國の防備及要塞、第五章大戰と現代の戰術、第六章大戰と海軍、第七章大戰と交戰各國の內政並國民的性情第八章大戰と植民地、第九章大戰と中立國、第十章大戰と米國、第十一章大戰と日本、第十二章大戰の各方面に及ぼせる影響、第十三章大戰に應用せられたる學術、第十四章大戰と現代文明批判を叙し、而して第十五章結論に於ては最近の戰局概觀や戰後の問題と吾人の覺悟を述ぶ。以上十五章四百三十二頁說き來り說き去るや其結構着實、觀察精細、文辭亦穩雅誦すべき者あり。卷頭には會長なる大隈侯の序、堂々たる宣言的文辭を列れ、卷末には附錄として大戰に關與せる重要人物の畧歷及大戰重要日誌を載せ專ら讀者の便宜に資し、更に精密なる索引を附したり。尙口繪には歐洲交戰國の各元首の肖像を蒐め着色、版の戰局地圖一目瞭然戰局の大戰を覘ふに便なり。（東京麹町區元園町一ノ二二、大日本文明協會發行）

◎東行先生遺文

本年は長州の奇傑東行高杉晉作逝て五十年に相當するを以て舊藩主毛利公爵五月十四日を期し其の祭典を行ふに際し、公爵山縣有明、子爵長谷川好道伯爵寺內正毅、子爵河瀨眞孝、子爵杉孫七郎、子爵三浦梧樓外十三氏の發起を以て『東行先生五十年紀念會』組織せられ、委員長侯爵木戸孝正副委員長柴田家門兩氏幹旋の下に祭典當日其の遺墨遺品等の展覽會開催せられたるが、同紀念會に於いて其の遺文を上梓したる者卽ち本書なり。編纂は委員中原邦平村田峰次郎、岡部精一、橫山達三、渡邊世裕、伊木壽一、妻木忠太、時山彌八の諸氏之に當り、收むる所『年譜』『書翰』『日記及手錄』『詩歌文』『東行遺稿』『略傳』の六部にして、菊版六百七十八頁の尨大なる冊子たり。字々皆な革新の天才が濺ぎ出したる心血の結晶たるを思へば之に對して自ら肅然襟を正しうするの感なくんばあらず。（麻布區　飯倉町五丁目六十番地高杉春太郎發行、非賣品）

◎政治時論「野聲」

早稻田大學教授　永井柳太郎著

是れ着實周匝の議論を行るに縱橫の辯奔放の辭を以てするの評雜誌界に喧しく、文壇別に樹つる一旗幟の色彩鮮なる少壯政論家、本大學教授永井柳太郎氏の快著なり。收むる所第一章緒論一篇、第二章海內時論八篇、第三章海外時論十一編、第四章時人論六篇にして、其の論ずる所內治外交の各方面に涉り論述の間、潑剌たる生氣人を魅し卒讀を覺えざらしむるの概なり。（本郷區駒込千駄木町五十番地莫哀社定價金七十五錢）

◎愛と藝術

吉江孤雁著

本書は本大學教授孤雁吉江喬松氏の著小品文を蒐めたる者であるが、其の內容の如何は、名詮自稱、著者が物せられた左の卷頭辭に之を盡して餘りあるを思ふ。

我々の自我の意識を深く開かしめよ。その奥底にこそ眞のヒユマニテイの流れが橫はつてゐる。自我意識を沒しての人道でなく、自我意識に深く醒めたる人道である。個人意識を中途で他に轉ぜしめて人道を說くなかれ、個人意識の底に徹しての人道でなければならない。其處に愛の泉が湧く。藝術とはその泉を汲みとつて來たものでなければならない。

（小石川區白山前町廿五番地窪川書店發行、定價金五十五錢）

◎現代米國外交論

コロンビヤ大學マスター、オヴ、アーツ　島谷亮輔著

本書は明治四十年本大學大學部政治經濟科卒業の後米國コロンビヤ大學に於いて、ムーア博士指導の下に國際法及び外交史を研究する傍ら合衆國の歷史及び憲法を研究して歸朝、本大學講師として外交史を擔任せらるゝコロンビヤ大學マスター、オブ、アーツ島谷亮輔氏が、其研究智識を基礎として米國に於ける政治上の趨勢に徵し、以て同國政治上變遷の由て來る所を叙し、民主黨の政權を掌握したるより以來一千九百十五年十二月に至る迄の同國國際事件及び政策を論評したる者にして、第一章外交の特色、第二章ライアニズム、第三章比津賓放棄、第四章弗外交の終滅、第五章ウイルソンの對墨西其政策、第六章加州問題と運河通過問題、第七章中立國としての北米合衆國の地位、第八章獨人の陰謀と墺大使の放逐、第九章軍備擴張とローゼヴェルト、第十章結論の十章より成る。動もすれば日米問題の波瀾狂湧の虞あり、太平洋の水永く太平ならざらんとするの憂あるを免かれざる時、此種の論述は蓋し何人も讀まんと欲する所たるべし。（麴町區內幸町一丁目五番地公民同盟出版部發行、定價金壹圓拾錢）

◎支那論集

文學博士　市村瓚次郎著

巴爾幹半嶋が歐洲の伏魔殿たりしに對して支那は東洋の伏魔殿たるの觀なきにあらず。蓋し東洋問題

大正五年度

早稲田大學報告

早稲田學報　第貳百六拾號　大正五年十月十日發行

目次

第一　學年間の重要事項
第二　教職員
第三　學科課程
第四　學生
第五　得業生
第六　基金
第七　紀念事業資金
第八　會計
第九　圖書館
第十　寄宿舍
第十一　體育部
第十二　學生監督部
第十三　衞生
第十四　出版部
第十五　校外教育部
第十六　科外講義及巡廻講話
第十七　各種の會合
第十八　附屬早稲田工手學校

早稲田大學第卅三回報告

自大正四年八月一日
至同五年九月卅一日

第一學年間の重要事項

●御即位大典奉祝式　大正四年十一月十日

今上陛下御即位の大典を京都に於て擧げさせらるゝに方り、當日本大學に於ては天野學長午前十時宮内省に參内賀表を奉呈し、午後二時より教職員學生一同校庭に參集して壯嚴なる奉祝式を擧行し、同三時三十分天野學長の發唱に從ひ一同兩陛下の萬歳を三唱し、式後教職員は別室に於て祝酒を擧げ、學生一同に奉祝紀念の菓子を頒てり。

今上陛下御大典擧行の爲め十一月六日京都に行幸遊ばされ、同月二十八日東京に還御あらせられたるに依り、本大學に於ては教職員學生一同孰れも二重橋外南側芝生に於て奉送迎申上げたり、尚御大典當日より十六日迄及陛下御發輦並に還御の當日は休校して奉祝の意を表したり。

●御即位大典紀念事業の計畫　今上陛下大正四年十一月御即位の大典を擧げさせらる、惟ふに本大學は明治四十一年五月五日畏くも先帝陛下特別の思召を以て巨額の御下賜金と、優渥なる御沙汰書を賜はり、次で明治四十五年五月十七日當時東宮殿下にあらせられたる今上陛下の行啓を辱ふするの聖恩に浴し以て校運今日の盛大を見るに至れり、皇室の恩寵や厚く我大學の光榮や大なりと謂ふべし、早稲田大學たるもの此盛典大儀に際し卒先以て奉祝の微衷を致すべきは固より其所なりとす、玆に於て大正四年九月十五日理事會を開き大學教育の眼目たる研究機關設備完成の計畫を立て之を御大典紀念事業として資金を汎く江湖篤志家の寄附に待つの議を定め、後ち維持員會の同意を得て之を發表することに決し尋で評議員會、基金管理委員會に之を謀り又中央及關西の校友會は孰れも熱心なる贊成を表したり、市島名譽理事を委員長に擧げ、評議員及中央並に地方校友會幹事一同に資金募集委員を囑託し、十月一日より本部に臨時事務所を開始せり、尚此計畫たるや御即位大典奉祝の微表より出たるものなるに依り學園の關係者は金額の多少に拘らず可成洩なく之に參與するの趣旨に依り在學生にも資金據出の勸誘を爲すことゝし、十月一日學生中より委員を擧げ之れに當らしめたり。

今其記念事業の大要を擧げんに。

一、各學科研究室の新設
二、恩賜館内研究室の增設
三、圖書館閲覽室の改築及書庫の增築

右事業に對する資金募集の總額を金參拾萬圓とし、向二ヶ年間に之を募集し、三ヶ年間に拂込を受くること、し、從來の本大學關係者を始め校友等汎く江湖の有志に向て之が勸誘を試みたるに、同情翕然として集り朞年ならずして其豫定募集額に達するの盛況を呈するに至りたるは、本大學の最も欣幸とする所なりとす。

尚本事業は最初資金總額金參拾萬圓の豫定なりしも、後ち森村豐明會より應用化學科建設費の特別寄附ありたるを以て、更に之れが新設を本紀念事業の一に加へ其經營を擴張することに決し、從て研究室の完備構内建物の整理等多額の經費を要することゝなりたるに依り、大正五年五月二十三日大隈總長邸に於ける實業家招待會の席上に於て募集總額を金五拾萬圓以上に改め之を發表したり。

本事業の進行に付建築設計委員を市島謙吉（委員長）、大澤一郎、金子馬治、吉田亨二、田中穗積、田中唯一郎、中村進午、中島半次郎、中村康之助、内藤多仲、山本忠興、增子喜一郎、間瀨直一、安部磯雄、阪田貞一、佐藤功一、湯淺吉郎、鹽澤昌貞の諸氏に、又應用化學科特別委員を田中唯一郎、中村康之助、山本忠興、佐藤功一、諸葛小彌太の諸氏に囑託せり。

●基金管理委員會及實業家招待會　大正五年五月十二日大隈總長邸に於て基金管理委員會を開く、當日は委員長澁澤男爵を始め委員森村男爵、中野武營、安田善三郎、村井吉兵衛、大橋新太郎、原富太郎諸氏及大隈總長、天野學長、高田名譽學長、市島名譽理事並に各理事出席し、天野學長より御大典紀念事業の現況を報告し、尚資金管理の事を請ひたるに一同之を快諾せられ、委員各位より即時巨額の寄附を申出られ、更に澁澤男爵より京濱間の有力なる實業家を招請して本事業完成に對する同情贊助を求むるの議を提出されたるに依り、同月二十三日基金管理委員より招待狀を發して大隈總長邸に會同を求めたるに重なる實業家四十餘名の來會あり、基金管理委員一同並に大隈總長、天野學長、高田名譽學長、市島名譽理事及各理事出席し、天野學長より本事業の内容を說明し、澁澤男爵贊助の意見を述べ來會者に之を懇請し、次いで大隈總長より懇到なる一場の演說あり、即時山下龜三郎、内田信也、淺野總一郎、茂木惣兵衛諸氏其他より巨額の寄附を申出られたり。尚神戸に於ても六月七日常磐花壇に於て同樣實業家の招待會を開き、大隈信常氏並に市島委員長、田中（唯一郎）理事臨席したるが、來會者は清野知事、服部一三氏其他重なる實業家三十名にして、席上大隈信常氏より紀念事業に就き贊襄を求めたるに、服部一三氏起て一場の挨拶をなし來會者一同に向て懇切なる勸誘を致され即時資金の寄附を申込まれたるもの數名に及べり。

●應用化學科の新設　科學の進步、工業の發達は世界の大勢にして殊に我國に於ける化學工業は最近數年間に長足の進步を爲し、且つ現今歐洲戰亂の餘波を受けて從來歐米の輸入に待ちたる幾多重要なる化學工業品は、我國自ら之を製造するの必要に迫られ從て應用化

學の研究と其專門技術者の養成とは焦眉の急を告ぐるに至りたるに依り、大正五年二月二十五日に維持員會を開き御大典紀念事業に包括して應用化學科を新設するの議を決し、本年四月新學期より高等豫科生を募集することゝなりたり。

其教授の主義及方針左の如し

一、學科教授にありては主として化學の純正理論に力を盡し次で其應用の研究に及ぶ。

一、實驗にありては實驗の根柢となるべき化學分析術に堪能ならしめん事を期し其上にて特殊の製造實驗を專修せしむ。

尙該科創設費として森村豐明會より金五萬六千圓の寄附申込を得たるは本大學の深く感銘する所なりとす。

●學制調査會の組織　大正四年十一月二十五日維持員會に於て、本大學學制調査會を組織するの議を決し、金子馬治、田中穗積、中村進午、中島半次郎、中村康之助、浮田和民、前田多藏、安部磯雄、阪田貞一、鹽澤昌貞の十氏を其委員に擧げ鹽澤、中島兩氏に主査を囑託せり。

●高等豫科の名稱改正　大正五年五月二十五日維持員會に於て、高等豫科名稱を左之通改正す。

第一高等豫科(政治科)を高等豫科第一部
第二高等豫科(法　科)を高等豫科第二部
第三高等豫科(文　科)を高等豫科第三部
第四高等豫科(商　科)を高等豫科第四部
第五高等豫科(理工科)を高等豫科第五部

●理工科助教の改稱　大正四年九月二十五日維持員會の議を經、理工科助教を理工科助教授と改稱せり。

●總長の陞爵及學長の叙勳　大正五年七月十四日總長大隈伯爵は勳功に依り特に侯爵に陞爵され、尙同時に大勳位に叙せられ菊花大綬章を、高田名譽學長は勳一等に叙せられ瑞寶章を賜はり、大正四年十一月十日　今上陛下御卽位大典の佳辰に方り天野學長は勳三等に叙せられ瑞寶章を賜はりたり。

●教職員の異動　大正四年九月二十五日維持員會の決議に依り維持員增子喜一郎氏會計監督に就任す。

大正五年四月二十五日高等豫科長事務取扱安部磯雄氏を高等豫科長に囑任す。

大正五年五月二十五日維持員會に於て圖書館に顧問を置くの議を決し、湯淺吉郎氏を同顧問に囑託せり。

大正四年十二月二十日佐藤正氏を學長秘書に任命す。

大正五年七月十三日齒科醫古賀光太氏に向二年間校醫を囑託せり。

大正五年二月二十五日法學科長中村進午、理工科機械工學科主任中川常藏、同電氣工學科主任山本忠興、同採鑛學科主任小池佐太郎、同建築學科主任佐藤功一の諸氏任期滿了の處何れも引續き之を囑任したり。

大正四年十月三日教授會議長天野爲之氏辭任せられ、教授浮田和民氏教授會議長に選擧就任せり。

本學年中新に教授會議員に囑任したる講師は樋口清策、寺尾元彦、原口竹次郎、北澤新次郎、甲斐秀雄の諸氏なりとす。

本學年中新に囑託したる講師は、文學博士桑木嚴翼、法學士神谷健夫、小田內通敏、早稻田大學文學士坪內士行、同吉田源次郎、同清水泰次、同ドクトル、オブ、フィロソフィー北澤新次郎、バチエラー、オブ、アーツ田中喜一、法學士中西用德、昇直隆、樋口清策、久松廉吾、文學士松井等、工學士、理學士、バチエラー、オブ、アーツ甲斐秀雄、工學士後藤慶二、工學士竹村勘吾、理學士阿部良夫、商學士關野九郎、高橋正熊、百瀨計馬の諸氏にして助教授を囑託したるは早稻田大學工學士堤秀夫、同市川繁彌の兩氏なり。

大正四年十二月三十日講師桂井當之助氏死亡せり。

評議員會長男爵前島密氏辭任せられ、大正四年十月十日評議員伯爵松平賴壽氏同會長に選擧就任せり。

本學年中前島彌、內藤久寬、諸葛小彌太の三氏を新に評議員に囑託し、評議員井上辰九郎、原嘉道、波多野精一、小山溫、小川爲次郎、副島義一、中橋德五郎、中野禮四郎、高根義人、松平賴壽、前橋孝義、松崎藏之助、藤井健治郎、三宅雄二郎、平田讓衞、平沼淑郎の諸氏任期滿了の所大正五年六月二十五日維持員會に於て引續き囑託に決せり。

大正五年七月六日中央校友會に於て評議員半數改選の結果增田義一、柏原文太郎、宮川銕次郎、上原鹿造、池田龍一、齋藤隆夫、小松林藏、鈴木寅彦、宮田修の九氏再選重任に決し、田中四郎左衞門氏新に評議員に當選せしに依り孰れも之を囑託せり。

本學年中各地方校友會より井上要(愛媛)、谷村一太郎(京都)、矢口長右衞門(栃木)、小野駿一(大分)、武藤互三(岐阜)、櫻井平兵衞(茨城)、金庭友八(群馬)、南方常楠(和歌山)、西田源次郎(富山)、原澄治(岡山)、早速整爾(廣島)、伴野賢造、橫田保兵衞(靜岡)、水野正己(神戸)、松井郡治(新潟)、中井隼太、莊保勝藏(大阪)、上遠野富之助(名古屋)、小竹文次郎(札幌)の諸氏を評議員に選擧せられたるに依り孰れも之を囑託したり。

●海外留學生　本大學海外留學生にして現に海外に在るものは、倫理學研究の爲め英國に留學中の杉森孝次郎、自治制度研究の爲め米國に留學中の高橋清吾、民法研究の爲め米國に留學中の中村萬吉、農業政策研究の爲め米國に留學中の猪俣津南雄、文學研究の爲め露國に留學中の片上伸諸氏にして、本學年中既に歸朝したるものは法學研究の爲め獨逸及英國に留學中の寺尾元彦、會計學、簿記教授法研究の爲め歐米に留學中の吉田良三、民法研究の爲め英、獨へ留學中の遊佐慶夫、圖書館研究の爲め米國へ留學中の毛利宮彦諸氏なりとす。

●土地の購入　本大學敷地及運動場の間に介在せる坪谷善四郎氏所有の土地九百二十七坪及下戸塚字松原所在小川重次郎同重吉兩氏所有の土地壹千七百八十六坪合計貳千七百拾參坪を新に購入し、又運動場整理の爲め相馬永胤氏所有の土地九百坪と本大學所有の土地九百坪の交換を行ひ大正五年四月各其手續を完了せり。

●建築工事　本學年中實施したる工事の重なるものは高等豫科北側道路に面する煉瓦積鐵柵高さ十二尺、延長二十三間の新設を始めとし、御大典紀念事業第一期工事に屬する圖書閱覽室(二階建百二十五坪)、商品陳列館(二階建三十三坪五合)倉庫(平家建十八坪)等の移

轉を行ひ、又正門及高等豫科門前より中門に至る敷石を新設し、隣地寶泉寺地堺の上に大谷石を用る高さ十八尺延長三十七間に亘る防火壁を設け、從來運動場西隅に在りたる弓術場（平家建二十九坪）を穴八幡下本大學敷地内に移轉したり。

●天野學長の關西並北陸行　天野學長は近幾校友大會に出席の爲め、大正五年二月二十九日佐藤祕書同行下阪、歸途京都及名古屋に立寄り校友會及有志の招待會に臨席し、三月七日歸京せり、超へて三月十九日永井（柳）教授及佐藤祕書同行北陸へ出向、福井及金澤の校友會に臨席し、四月二十四日歸京す、尙五月二十八日長岡市に於て開催の越佐校友大會に臨場の爲め、同二十七日上野發永井（柳）青柳兩教授及佐藤祕書同行、翌二十九日新潟市に開會の校友會に臨席し同三十日歸京せり。

●全國中學校長招待會　文部省に於ける中學校長會議の爲め全國各中學校長の滯京を機とし、本大學在學生一同は其多年教養を受けたる謝恩の微意を表する爲め、各中學校同窓會聯合して本大學の承認同意を經たる上、大正四年十二月五日之が歡迎招待會を中央校庭天幕の下に開催したり、來會せる中學校長二百餘名に達し盛況を極む、右終つて來賓一同大隈總長邸の茶話會に臨みたり。

●中等教育實地視察　本年度より中等教育實地視察の制を設け、大學部文學科及高等師範部の教授をして交互に各地方に派遣することゝし大正四年十月十日より三十一日迄教授岸本能武太氏京都、大阪、兵庫、岡山各府縣へ、同月十五日より二十三日迄教授永井一孝氏茨城、栃木、群馬三縣へ、大正五年四月五日より十四日迄教授内ヶ崎作三郎氏宮城、岩手、青森三縣へ、同五日より十六日迄教授牧野謙次郎氏香川縣下へ各中學程度諸學校を巡回視察を遂げたり。

●沙翁三百年紀念祭　文豪シエークスピア逝ひて茲に三百年、本大學に於ては大學部文學科學生主催となり、大正五年四月二十二、三の兩日紀念晩餐會、展覽會、講演會及學生演劇會を催したるが孰れも豫期以上の成功を收めたり。

●野球選手の渡米　米國シカゴ大學より招待を受けたる本大學野球選手十二名は河野講師監督の下に、大正五年三月二十五日横濱出帆の春洋丸に乘船、途中布哇ホノルゝに上陸約十二回の仕合を行ひ、五月四日桑港上陸各地に轉戰シカゴ大學に於て競技の後、七月十七日豫定の通り歸朝したり。

●シカゴ大學野球選手の來校　本大學野球部に於ては米國シカゴ大學野球選手を招待し、大正四年九月二十四日より運動場に於て前後四回の仕合を擧行したり。

●早稲田溫交會　早稲田溫交會は本年度内、大正四年十月三日麴町區富士見町富士見軒に於て晩餐會を開き、大正五年四月三十日相州江の島金龜樓に赴きて一日の清遊を試み、又同年七月十一日調布多摩川に於て鮎漁を催したり。

●中等教育研究會　大正四年十二月十日大學本部に於て中等教育研究會總會を開き諸般の協議を遂げたり、尙同會に於ては大正五年七月三十日文部省講習會へ出席の爲め上京中の本大學出身中等教員を招待し恩賜紀念館に於て茶話會を催したり。

●早稲田大學校友會　早稲田大學校友會に於ては高田學長文部大臣として入閣せられ、天野博士學長に就任せられたるに依り、大正四年九月十九日築地精養軒に於て臨時校友大會を開き之が送迎且祝賀の意を表したり。

大正四年十月三十日大隈總長邸に於て秋季校友大會を催し、席上に於て天野學長及巾島名譽理事より御大典紀念事業の計畫を發表して之が贊同を求めたり。

大正五年二月六日帝國ホテルに於て春期校友大會を催し、米國より歸朝せられたる基金管理委員長澁澤男爵を歡迎し、又同年七月六日上野精養軒に於て例規校友大會を開きたり。

●土地及建物　本大學の現在敷地は運動場を併せ壹萬九千百七十一坪六合七夕にして外に穴八幡下、國分寺等に所有地貳萬〇四百八十八坪九合四夕あり之を合算するときは參萬九千六百六十坪六合一夕に及べり。

尙本大學現在建物は總棟數六十九棟、此建坪三千五百七十四坪餘にして總延坪六千四百六十六坪二合三夕に達せり。

●基金の現況　本年度内新に申込を受けたる第二期基金は金壹萬八千四百五拾四圓にして、申込總額金九拾九萬參千七百〇八圓貳拾四錢六厘に達し、其實收額金六拾九萬參千八百七拾貳圓貳拾九錢六厘に及べり。

●紀念事業資金の現狀　昨秋十一月御卽位大典紀念事業として計畫發表したる、本大學研究機關の完成に對し江湖の篤志家より同情寄與せられたる資金の申込は、總額金五拾四萬貳千七百八拾四圓〇八錢（森村豐明會より寄附されたる金五萬六千圓の應用化學科創設費を含む）にして之が、實收額金拾五萬九千六百六拾五圓四拾八錢に及びたり。

●會計の狀態　大正四年九月一日より大正五年八月三十一日に至る（大正五年度）本大學經常費收支決算額は、收入金參拾參萬五千參百九拾七圓九拾壹錢にして、其支出金參拾參萬參千〇〇九圓九拾錢、差引剩餘金貳千參百八拾八圓八拾貳錢となれり。

●圖書館の現狀　本年度末圖書館の藏書總數は六萬參千九百九拾參部、拾六萬五千六百參拾壹册にして之に寄托圖書六千百拾貳部、貳萬八千九拾九册を加ふれば合計七萬〇壹百〇五部、拾九萬參千七百參拾册に達し、之を前年度末總數に比すれば貳千七百四拾四部、五千百〇八册の增加を見るに至りたり。

●得業生の總數　本年度各學科得業生は合計八百八名にして創立以來累計壹萬貳千貳百七拾壹名に達せり。尙附屬早稲田工手學校も、本年七月十六日第八回卒業式を擧行し、創立以來茲に壹千貳百貳拾八名の卒業生を出したり、此等多數の得業生は、孰れも其修得したる學術技能に應じ社會の各方面に活動しつゝあり。

●現在學生の總數　本年度末現在學生の總數は大學部貳千參百六十參名、專門部八百〇三名、高等師範部五百五十六名、研究科參拾七名、聽講生貳拾九名、高等豫科參千四百參拾壹名、附屬早稲田工手學校千參百貳拾參名合計八千五百四十一名にして、之を前年度末總數七千九百貳拾壹名に比較するときは、六百貳拾名の增加を爲せり。

尙各部に於ける經營施設等は別項所載の如し

第二 教職員

本部

總長　侯爵 大隈重信

學長　法學博士 天野爲之

理事 法學博士 鹽澤昌貞
理事 田中唯一郎
會計監督 增子喜一郎
幹事 前田多藏
庶務課主任 川口潔
會計課主任 高橋三郎
學長祕書 佐藤正

理事 法學博士 田中穗積
會計監督 三枝守富
基金部長 市島謙吉
幹事 中村康之助
教務課主任 中村芳雄
學生課主任 望月嘉三郎

高等豫科　科長 安部磯雄　主事 渡俊治

圖書館　館長 市島謙吉　顧問 湯淺吉郎
事務主任 小林堅三

寄宿舍　舍長 矢澤千太郎

校外教育部　部長 市島謙吉　幹事 青柳篤恒

◎維持員

高田早苗　天野爲之　坪內雄藏　市島謙吉
大隈信常　三枝守富　浮田和民　金子馬治
田中穗積　田中唯一郎　中村進午　中島半次郎
增子喜一郎　安部磯雄　阪本三郎　阪田貞一
鹽澤昌貞　鈴木喜三郎

◎教授、講師、助教授

●教授

法學士 岩田一郎
ドクトル、オブ、フイロソフイー 伊藤重治郎
早稲田大學商學士 伊地知純正
ドクトル、オブ、フイロソフイー 服部文四郎
早稲田大學文學士 原口竹次郎
文學士 本多淺治郎
理學博士 德永重康
教授會議長 法學博士 小山溫
早稲田大學政學士 大山郁夫
文學科科長、ドクトル、デル、フイロソフイー 金子馬治
理學士、工學士、パチエラー、オブ、アーツ 勝俣銓吉郎
法學博士 甲斐秀雄
法學博士 橫田秀雄
農學士 吉田巳之助
工學士 高田早苗
早稲田大學文學士 武信由太郎
法學科科長 民野雄平
法學博士 武田豐四郎
機械工學科主任、メカニカル、エンジニヤー 中村進午
工學士 中川常藏
文學士 內藤多仲
理學士 內ヶ崎作三郎
電氣工學科主任工學士 氏家謙
法學博士 曹
法學博士 山本忠興
山田三良

早稲田大學法學士 五十嵐力
文學博士 井上忻治
波多野精一
長谷川誠也
西岡達郎
法學博士 戶水寬人
理學士 富田逸二郎
法學士 大隈信常
工學士 岡田信一郎
神尾錠吉
早稲田大學文學士 桂五十郎
文學博士 片上伸
吉田東伍
早稲田大學商學士 吉田良三
早稲田大學文學士 吉江喬松
商科科長 田中穗積
法學博士、ドクトル、オブ、フイロソフイー 高杉瀧藏
工學士 竹中二郎
法學博士 副島義一
高等師範部部長 中島半次郎
永井一孝
早稲田大學政學士 中桐確太郎
教授會議長 法學博士 永井柳太郎
浮田和民
文學士 梅若誠太郎
文學博士 久米邦武
法學士 柳川勝二
文學士 山崎直三

文學士 山岸光宣
法學士 牧野菊之助
牧野謙次郎
文學士 煙山專太郎
工學士 福原俊丸
採鑛學科主任工學士 小池佐太郎
文學博士 遠藤隆吉
早稲田大學法學士 寺尾元彦
高等豫科長 安部磯雄
早稲田大學政學士 青柳篤恒
理工學科長 阪田貞一
建築學科主任工學博士 佐藤功一
マスター、オブ、アーツ 岸本能武太
紀淑雄
早稲田大學商學士 宮島綱男
農學士 志賀重昂
工學士 廣部德三郎
工學士 本野英吉郎
法學博士 鈴木喜三郎
杉山重義

●講師

法學博士 井上友一
ドクトル、オブ、フイロソフイー 家永豐吉
工學博士 伊東忠太
理學士 池田清
文學士 橋本增吉
工學士 西松唯一
理學士 本田親二
マスター、オブ、エッチ、ピー、アーツ ベニンホッフ
パチエラー、オブ、ロース 松平康國
増田藤之助
理學士 牧野鑑造
藤山治一
藤野了祐
商學士 小林行昌
理學士 遠藤又藏
法學博士 天野爲之
安藤忠義
早稲田大學商學士 淺川榮次郎
ドクトル、ユーリス 阪本三郎
早稲田大學商學士 菊池三九郎
ドクトル、オブ、フイロソフイー 北澤新次郎
宮井安吉
政治經濟學科科長法學博士 鹽澤昌貞
文學士 平沼淑郎
樋口清策
早稲田大學文學士 關與三郎
パチエラー、オブ、ロース 杉山令吉
ドクトル、オブ、シビルロー 杉田金之助
法學士 飯島喬平
文學博士 市村瓚次郎
理學博士 一戸直歳
法學士 石坂泰三
早稲田大學文學士 服部嘉香
文學士 保科孝一
本田信敎
法學博士 大場茂馬

文學士 大瀨甚太郎
文學士 尾上八郎
工學士 大屋敦
奥野匡一
法學博士 和田垣謙三
早稲田大學商學士 河野安通志
工學博士 葛西萬司
早稲田大學文學士 吉田源次郎
法學士 谷野格
文學士 高桑駒吉
田中喜一
パチエラー、オブ、アーツ 立川長宏
早稲田大學商學士 高橋正熊
理學博士 鶴田賢次
土屋銓敎
法學士 中西用德
早稲田大學文學士 中村仲
早稲田大學文學士 村岡典嗣
昇直隆
文學士 久松廉吾
工學士 八杉貞利
山田胖
山口剛
法學士 松岡義正
前橋孝義
工學士 小穴秀一
工學士 後藤慶二
エッチ、エフ、コックス 阿部良夫
理學士

文學士 岡田正美
工學士 大畑源一郎
工學士 岡田陽一
小田内通敏
渡俊治
法學士 神谷健夫
文學士 吉田靜致
法學博士 子爵 田尻稻次郎
法學士 立石謙輔
武石弘三郎
工學士 高橋清吾
早稲田大學文學士 竹村勘忠
早稲田大學文學士 相馬昌治
坪内士行
文學博士 中島泰藏
法學士 早稲田大學文學士 中村吉藏
早稲田大學文學士 中村萬吉
文學博士 馬田行啓
桑木嚴翼
工學士 矢津昌永
山岡敬二
工學士 山内不二雄
法學博士 松崎藏之助
理學士 松村定次郎
文學士 松井等
法學士 二上兵治
理學士 近藤清次郎
法學士 江藤玄三
ドクトル、オブ、フイロソフイー 朝河貫一
早稲田大學文學士 會津八一

工學士 朝倉希一
文學博士 佐々政一
早稲田大學文學士 北 昤吉
理學士 秋山武太郎
マスター、オブ、エレクトリカル、エンジニヤリング 佐野志郎
工學士 北浦重之
法學博士 美濃部達吉
法學士 三淵忠彦
理學博士 三輪桓一郎
工學博士 澁澤元治
法學士 清水孝藏
工學士 清水與七郎
早稲田大學文學博士 清水泰次
早稲田大學文學博士 日高只一
法學士 三潴信三
工學士 宮崎虎一
法學士 島村瀧太郎
文學博士 椎尾辨匡
文學士 島田鐵吉
法學博士 廣池千九郎
早稲田大學文學博士 杉森孝次郎
商學士 關野九郎
工學士 栖原豐太郎
早稲田大學文學博士 杉村伊兵衛

●助教授

早稲田大學工學士 市川繁彌
工學士 柿沼宇作
工學士 吉田亨二
早稲田大學工學士 坪内信
早稲田大學工學士 野村堅
藤井鹿三郎
今和次郎
佐々木伸吉
早稲田大學工學士 大澤一郎
早稲田大學工學士 金子從次
田治多藏
早稲田大學工學士 堤秀夫
早稲田大學工學士 間瀬直一
工學士 小室靜夫
早稲田大學工學士 阪田貞治

◎名譽教職員

名譽學長 法學博士 高田早苗
名譽理事 市島謙吉
名譽教授 文學博士 坪内雄藏

◎評議員

會長 伯爵 松平賴壽
原嘉道
原澄治
小川爲次郎
渡邊亨
金庭友八
谷村一太郎
内藤久寛
中井隼太
浦邊襄夫
山田英太郎
前島彌
松川駒次郎
昆田文二郎
櫻井平兵衛
三田村甚三郎
莊保勝藏
砂川雄峻
鈴木茂雄
井上辰九郎
波多野精一
西田源次郎
小山溫
若林成昭
横田保兵衛
田中四郎左衛門
中橋德五郎
武藤亙三
野澤卯市
矢口長右衛門
前橋孝義
松井郡治
小竹文次郎
岸本市太郎
水野正巳
平田讓衛
杉田金之助
池田龍一
早速整爾
豐川良平
小川寅六
上遠野富之助
高根義人
副島義一
中野禮四郎
上原鹿造
黑川九馬
町田忠治
增田義一
藤井健治郎
齋藤和太郎
宮川銕次郎
南方常楠
平沼淑郎
鈴木寅彦
井上要
羽田智證
伴野賢造
小野駿一
柏原文太郎
高山圭三
坪谷善四郎
中村康之助
上島長久
山澤俊夫
松崎藏之助
松山忠次郎
小松林藏
齋藤隆夫
三宅雄二郎
宮田脩
諸葛小彌太
鈴木幾次郎

◎基金管理委員

委員長 男爵 澁澤榮一
男爵 森村市左衛門
中野武營
大橋新太郎
村井吉兵衛
原富太郎
安田善三郎

◎理工科商議員

手島精一
阪田貞一
竹内明太郎
工學博士 高松豐吉

◎理工科學科顧問

工學博士 阪田貞一
工學博士 渡邊渡
工學博士 淺野應輔
工學博士 辰野金吾

◎早稲田大學教授、講師、助教授現在表（大正五年八月三十一日）

學科／名稱	教授	講師	助教授	計
政治經濟學科	四〇	一二		五一
法學科	二〇	一五		三五
文學科	三三	二九		六一
商科	三一	二		三三
理工科	一八	二四	一五	五七
高等師範部	二〇	一九		三九
高等豫科	三四	一六		五〇
附屬工手學校		六六		六六
計	一九五	一八二	一五	三九二

備考　一、本表は各科兼任の儘計上したるに依り其現在實數（工手學校を除く）は各科を通じ教授九十四名、講師百〇四名、助教授十五名、合計二百十三名なり。

一、工手學校講師六十六名中他科を兼任せざるもの三十二名なり。

◎早稲田大學職員現在表（大正五年八月三十一日）

部課／職名	職員	事務員	工手換手夜警	助手及電話交巡視職	工給仕	小使	計
學長室	學長 一 理事 三 學長秘書 一						五
幹事室	幹事 一						一
庶務課	主任 一	五		二	一		九
教務課	主任 一	七			三		一二
會計課	主任 一	八					一〇
學生課	主任 一	七			四		三三
基金部	部長 一	二					三
高等豫科	科長 一 主事 一	五	四				一四
理工科	科長 一 幹事 一	二	一九		一七		四一
圖書館	館長 一 顧問 一 事務主任 一	一九					三四
寄宿舍	舍長 一	一					二七
工手學校	校長 一 主事 一	四	一		五		一七
出版部	主事 三 編輯長 一	二六					三四
計	二五	八六	二四	二	九	一七	二二	四二	二二七

備考　本大學維持員十八名、評議員七十三名は本表以外とす。

第三　學科課程

大學部

第一　政治經濟學科

學科／學年	第一年	第二年	第三學
政治學	國家學原理 憲法名著研究	比較憲法、行政汎論 政治學史、×陸軍軍政學	行政各論、政治哲學 自治政策、×海軍軍政學 ○名著研究
經濟學	經濟學原理、名著研究	貨幣論、銀行論 經濟史、農業政策 工業政策、經濟財政政策 財政學、○名著研究	應用經濟論、×經濟發論 經濟學說、交通政策 商業政策、植民政策 公債及豫算論、租稅論 ○名著研究
財政學		×保險政策 社會政策、×都市問題	

學科	學年	第一年	第二年	第三年
史學		×明近代政治史	最近時明政治史	近時外交史
哲學		哲學	社會學	
法學		民法要論、刑法要論	民法要論	國際公法、國際私法、商法要論
統計學		統計學	統計學	
論文		論文		
實習及國會演習			國會演習	○國際法實習、○國行政法實習、○經濟及財政實習、國會演習
×外國語		英語、獨語、佛語、支那語	同	同
		上	上	上

第二學年以後ニ於テハ專攻ノ方針ニヨリ學課ノ數ヲ限定シテ撰擇必修セシム、○印ハ必修科ニシテ×印ハ隨意科ナリ

第二 法學科

學科	學年	第一年	第二年	第三年
國法		憲法	行政汎論	行政各論
民法		民法總則、物權法	債權法、親族法	債權法、相續法
商法		商法總則、會社法	商行爲、手形法	海商法
破產法			破產法	
刑法		刑法總論	刑法各論	
訴訟法		民事訴訟法	民事訴訟法、刑事訴訟法	
哲學		哲學		
經濟學及財政學		經濟學原理		財政學
國際法			國際公法	國際私法
法制史		日本法制史、歐洲法制史		
羅馬法及法律哲學		羅馬法		法律哲學
法學實習及訴訟演習			法學實習	法學實習及訴訟演習
論文		論文		
外國法		獨英法	同	同
		上	上	上

外國語 獨英語 同 上

法學科ハ獨法科、英法科ノ二部ニ分チ獨法科ニハ獨法及獨語、英法科ニハ英法及英語ヲ課ス

第三 文學科

一、哲學科

學科	學年	第一年	第二年	第三年
教育學		普通心理學	實驗心理學、教育史	教育學、教授法
哲學		哲學概論、西洋哲學史、支那哲學史	倫理學、西洋哲學史、日本哲學史、西洋哲學研究	西洋哲學研究、印度哲學史、美學、社會學
英文學		英文學	同	同
		上	上	上
英語		英語	同	同
		上	上	上
和漢文學		和漢文學	同	
		上	上	
獨、語		獨語	同	同
		上	上	上

二、英文學科

學科	學年	第一年	第二年	第三年
教育學		普通心理學	教育史	教育學、教授法
哲學		哲學概論、西洋哲學史	西洋哲學史、倫理學、美學	西洋近代文明史
英文學		英文學	同	同
		上	上	上
英語		英語	同	同
		上	上	上
和漢文學		和漢文學	同	
		上	上	
第二外國語		實用英語、獨語、佛語	同	同
		上	上	上

第二外國語ハ撰擇科目トシ中一科ヲ必修セシム

三、史學及社會學科

學科	學年	第一年	第二年	第三年
哲學及教育學		普通心理學	倫理學	教育學、教授法
社會學		文明史	社會學	社會政策學
政治經濟學		國家學原理	經濟學原理	

第四　商科

學科／學年	第一年	第二年	第三年
史學	西洋史、東洋史	西洋史、東洋史	東洋史、西洋史、日本法制史研究法及年代學
地理學	地理學	同	
名著研究	和漢書、西洋書	同	同
論文	論文		
英語	英語	同	同
第二外國語（隨意科）	獨語、佛語	同	同
	上	上	上
經濟學	經濟學原論、賣買論、倉庫稅關論、工業商品論、商業地理	商業經營學、經濟政策交通論、貨幣及金融論保險論、社會政策	商工政策、植民政策×金融政策
財政學		財政學	
法學	法學通論民法總則及物權、憲法	民法債權、商法×國際法、×破産法	商法
史學	商業史、×文明史		
簿記學		計理學、簿記	
統計學		統計學	爲替換算法
英語	商業作文、商業會話譯解	同	同
商業文	商業文	同	同
		上	上
工場經營			×工場經營
○セミナリー			經濟學原理、經濟政策、金融論保險論交通論
名著研究			名著研究
×第二外國語	支那語、獨語佛語	同	同
	上	上	上

○印ハ選擇科トシテ一科ヲ必修セシム　×印ハ隨意科トス

第五　理工科

一、機械工學科

學科／學年	第一年	第二年	第三年
數學	微分、積分	微分方程式	
應用力學	材料強弱學、機構學	熱力學、水力學	
機械工學	熱機	熱機關、水力機重力機	
製造冶金學	製造冶金學		
工作法	工作法		
電氣工學	電氣及磁氣	電氣工學	
建築構造		建築構造	
經濟學		工業經濟學	
設計及製圖	設計及製圖	同	
		上	
卒業論文		卒業論文	
實驗及演習	物理實驗	機械工學實驗、機械工學學科演習	機械工學實驗、電氣工學實驗、機械工學學科演習
實習	工場實習	同	校外實習
		上	上
外國語	×獨語、英語	同	同
	上	上	上

二、電氣工學科

學科／學年	第一年	第二年	第三年
數學	微分方程式、積分		
應用力學	材料強弱學、水力學、機構學		
機械工學	熱機關、水力機		
電氣工學		交流理論、電氣機械理論	電氣機械理論
電氣學、磁氣學	電氣及磁氣學	電磁氣測定法	
應用力學			
機械工學	熱力學、熱機關	水力機	
電氣工學		發電所、電燈及電力	電力輸送、電信及電話
應用電氣工學		電氣鐵道	
建築構造			建築構造
工作法	工作法		
經濟學			工業經濟學
實驗及演習	物理學實驗、電磁氣學演習	電氣工學實驗、電氣工學學科演習	電氣工學實驗、電氣工學學科演習

三、採鑛學科

學科／學年	第一年	第二年	第三年
設計及製圖	機械設計及製圖	電氣機械設計及製圖	同上
卒業論文		卒業論文	卒業論文
實習	工場實習	校外見學	校外實習
外國語（英語、×獨語）	同上	同上	
力學	應用力學	水力機	
電氣學及磁氣學	電氣學、磁氣學		
地質學	地質學		
測量	普通測量、鑛山測量		
鑛物學	鑛物學、岩石學及實習	鑛物及岩石鑑別	
鑛床學		鑛床學	
採鑛學	採鑛學	同上	
冶金學	冶金學	同上	
製造冶金學		製造冶金學	
選鑛學		選鑛學	
原働機		原働機	
鑛山機械		鑛山機械	
機械學	機械工學		
機械設計	機械設計		
電氣工學		電氣工學	
製圖	製圖	同上	
物理學實驗	物理學實驗		
分析及實習	分析及實習		
經濟學		工業經濟學	
法規		鑛業法規	

四、建築學科

學科／學年	第一年	第二年	第三年
實習			
卒業論文		卒業論文	
外國語（英語、×獨語）	同上	同上	
選鑛學實修			
建築學構造學	材力學、構造學一般	鐵構造	
建築構造法	構造法一般	鐵構造	
建築材料	材料ノ種類、性質製法		
建築樣式	日本建築、東洋建築、西洋建築	日本建築、東洋建築	
建築意匠	各種建築物特別意匠	各種建築物特別意匠（建築美學）	
住宅建築	日本住宅（設備及構造）、歐洲各國住宅（設備）		
裝飾法		裝飾理論、裝飾材料、裝飾法	
工事實施法		工事實施法	
測量	平面測量、高低測量		
裝飾畫	形ノ練習、色ノ練習	裝飾的詳細圖	同上
彫塑		形ノ練習	裝飾的細部ノ製作
設計製圖	設計製圖	同上	卒業設計製圖
法規		建築法規	
衛生設備		換氣、採光、暖房、給水及排水	
機械工學及電氣工學		機械及電氣工學要項	
外國語（英語、×獨語）	同上	同上	
理工科中×印ハ隨意科トス			

專門部

第一 政治經濟科

學科／學年	第一年	第二年	第三年
政治學	國家學原理、憲法	比較憲法、行政汎論、政治學史、陸軍軍政學	行政各論、自治政策、海軍軍政學

學科	學年		
經濟學		經濟學原理	○貨幣及銀行、農業政策、工業政策、○財政學、社會政策、都市問題、應用經濟論、經濟叢論、交通政策、商業政策、○公債及豫算論、○租稅論、植民政策、經濟及財政
史學		西洋上中古史、×明治史	○近代史、十九世紀史、文明史、最近時政治史
地理學		×政治地理及商業地理	
哲學		哲學	社會學
法學		民法要論、刑法要論	民法要論、○國際公法、國際私法、商法要論
統計學			統計學
簿記			簿記
外國語		英語	英語、×支那語
論文及國會演習		論文	國會演習

第一學年ニ於テハ×印ヲ隨意科トス、第二學年以後ニ於テハ政治經濟專攻ノ方針ニヨリ學課ヲ選擇セシム、○印ハ必修科ニシテ其他ハ選擇科若クハ隨意科ナリ

第二法律科

學科	學年	第一年	第二年	第三年
國法		憲法	行政汎論	行政各論
法學通論		法學通論		
民法		民法總則、物權法	債權法、親族法	債權法、相續法
商法		商法總則、會社法	商行爲、手形法	海商法
破產法				破產法
刑法		刑法總論	刑法各論	
訴訟法			民事訴訟法	民事訴訟法、刑事訴訟法
國際法			國公際法	國際私法
法制史		日本法制史、歐洲法制史		
羅馬法及法律哲學		羅馬法	法律哲學	
經濟學及財政學		經濟學原理	財政學	
法學實習及訴訟演習			法學實習	法學實習及訴訟演習
論文		論文	同	同
			上	上

高等師範部

第一部

一、國語漢文科

學科	學年	第一年	第二年	第三年
倫理及哲學		應用倫理、論理學	哲學概論	倫理學
教育學		心理學	教育學	教授法、教育法令
國語		講讀、輪講、作文、文典、有職故實	講讀、輪講、作文、作詩、國語學史、官職制度	講讀、作文、文典、作歌、俳諧、讀本實習
漢文		講讀、輪講、作文、作詩	講讀、輪講、作文、作詩	講讀、作文、作詩、讀本實習、支那時文
英語		講讀、輪講	同	同
言語學		言語學		

第三學年ニ於テハ本表ノ外每週實地授業ヲ課ス

學科	學年	第一年	第二年	第三年
倫理及哲學		應用倫理、論理學	哲學概論	倫理學
教育學		心理學	教育學	教授法、教育法令
英語		講讀、輪講、會話、文法、作文、書取、聽取、音讀及音聲學	講讀、輪講、會話、文法、作文、書取、聽取、音讀及音聲學、英文學	講讀、輪講、會話、作文、修辭學、讀本實習、英文學
歷史		西洋史	同	同
國語及漢文		講讀、輪講	同	同
言語學		言語學		

第三學年ニ於テハ本表ノ外每週實地授業ヲ課ス

二、英語科

學科	學年	第一年	第二年	第三年
倫理及哲學		應用倫理、論理學	哲學概論	倫理學
教育學		心理學	教育學	教授法、教育法令
國語		講讀、輪講、作文、文典、有職故實	講讀、輪講、作文、作詩、國語學史、官職制度	講讀、作文、文典、作歌、俳諧、讀本實習
漢文		講讀、輪講、作文、作詩	講讀、輪講、作文、作詩	講讀、作文、作詩、讀本實習、支那時文
英語		講讀、輪講	同	同
言語學		言語學		

第三學年ニ於テハ本表ノ外每週實地授業ヲ課ス

第二部

一、數學科

×外國語	獨語	同	上

×印ハ隨意科トス

學科／學年	第一年	第二年	第三年
倫理及哲學	應用論理、倫理學	哲理學	哲學概論
教育學	教育史	教育學	教授法、教育法令
算術	算術	同上	同上（數論ヲ含ム）
代數	初等代數學	初等代數學、高等代數學	高等代數學
幾何	平面、立體	同上	幾何學研究法、幾何學原論純正幾何學
三角術	平面	平面、球面	高等三角術、測量
解析幾何	平面	平面、立體	
重學		重學	同上
微分		微分	
積分			積分（微分方程式ヲ含ム）
測量實習			測量實習
物理學	一般物理學		
化學	一般化學		
鑛物學	鑛物學		
英語	英語	同上	同上

二、理化學科

學科／學年	第一年	第二年	第三年
倫理及哲學	應用倫理、倫理學	倫理學	哲學概論
教育學	教育史	教育學	教授法、教育法令
算術	算術		
代數	初等代數學		
幾何	平面、立體		
三角術	平面		
解析幾何	平面	平面、立體	
重學		重學	
微分		微分	
積分			積分（微分方程式ヲ含ム）
物理學	物理學	物理學	物性、力、音、光熱、電氣、磁氣
化學	化學	化學	無機、有機、理論化學
化學實驗		化學實驗	化學實驗
鑛物學	鑛物學		
英語	英語	同上	同上

第一部豫科

學科／學期	第一期	第二期	第三期	第四期
倫理	應用倫理	歷史地理	東洋、西洋	
國語漢文	講讀、輪講、文法、作文	體操兵式體操		
英語	講讀、輪講、文法、作文、會話、書取			

高等豫科

高等豫科第一部（政治經濟學科）

學科／學期	第一期	第二期	第三期	第四期
倫理	實踐倫理	同上	同上	
國語漢文	講讀、作文	同上	同上	同上
英語	講讀、輪講、文法、作文、會話、音讀	同上	同上	同上
歷史	西洋史（上古史）	同上（中古史）	同上（同上）	
法學		法學通論	同上	同上
論理		論理	同上	同上
簿記		簿記	同上	同上
體操	兵式體操	同上		

高等豫科第二部（法學科）

高等豫科第二部ハ獨法科、英法科ニ分ツ獨法科ニハ獨語（初步ヨリ之ヲ課ス）及英語中×印ヲ附セルモノ英法科ニハ英語及獨語中○印ヲ附セルモノヲ課ス

學科＼學期	第一期	第二期	第三期	第四期
倫理	實踐倫理	同	同	
國語漢文	講讀、作文	同	同	同
獨語	講讀、輪講、文法、作文	同	講讀、輪講、文法、作文○	同
英語	講讀、輪講、文法、作文、音讀×	同	同	同
法學			法學通論	同
歷史	西洋史（上古史）	同上（中古史）	同上（同上）	同
論理			論理	同
簿記		簿記	同	同
體操	兵式體操	同		

高等豫科第三部（文學科）

學科＼學期	第一期	第二期	第三期	第四期
倫理	實踐倫理	同	同	
國語漢文	講讀、作文	同	同	同
獨語	講讀、輪講、文法、作文	同	講讀、輪講、文法、作文○	同
英語	講讀、輪講、文法、作文、音讀×	同	同	同
法學			法學通論	同
歷史	西洋史（上古史）	同上（中古史）	同上（同上）	同
論理			論理	同
簿記		簿記	同	同
體操	兵式體操	同		

高等豫科第四部（商科）

高等豫科第四部ハ第一（中學校卒業生及甲種商業學校ヲ除ク同程度學校ノ卒業生等）第二（甲種商業學校卒業生）ニ分ツ簿記及商業學中×印ハ第一ニノミ課シ第二ニハ以上ヲ省キ英語及數學ヲ課ス

學科＼學期	第一期	第二期	第三期	第四期
倫理	實踐倫理	同	同	
漢文	講讀	同		
作文	商業文	同	同	同
英語	講讀、輪講、文法、作文、會話、音讀	同	同	同
商業學	商業通論×	同	同上（英語）	同
數學	商業算術	同	同	同
簿記		簿記	同	同
地理			商業地理（英書）	同
體操	兵式體操	同		

高等豫科第五部（理工科）

高等豫科第二部ニ於ケル圖畫ハ建築學科志望者ニハ必修科目トシ其他ニハ隨意科トス

學科＼學期	第一期	第二期	第三期	第四期
倫理	實踐倫理	同	同	
國語	作文	同		
英語	講讀、輪講	同	同	同
數學	代數、三角術	代數、解析幾何、微分、積分	同	解析、幾何、微分、積分
力學		力學	同	同
物理	物性、力熱	音響、光、磁機	磁氣、電氣	同
化學	無機	同	有機	同
地學			地學	
製圖	製圖	同	同	同
圖畫			自在畫	同
體操	兵式體操	同		

第四學生

本學年末各學科學生の現在總數は八千五百四十一名なり。今左に其學級別、府縣別及創立

以來の學生年別表を示せば左の如し。

◉現在學生學級別表（大正五年六月末日）

學科＼年級	一年	二年	三年	計
大學部 法 政治經濟學科	一三四	八一	八二	二九七
大學部 法 哲學科	七九	四二	三二	一五三
大學部 文學科 英文學科	二一	一四	一二	四七
大學部 文學科 史學及社會學科	七四	五二	四四	一七〇
大學部 商	七	一二	九	二八
大學部 理工科 機械工學科	五一〇	三六二	二七九	一、一五一
大學部 理工科 電氣工學科	五六	四六	三六	一三八
大學部 理工科 採鑛學科	九三	七八	六〇	二三一
大學部 理工科 建築學科	二二	二〇	一九	六一
專門部 政治經濟科	四一	二〇	二六	八七
專門部 法律科	二五七	一八一	一、五五	五九三
高等師範部 第一部 國語漢文及歷史科	八四	七二	五四	二一〇
高等師範部 第一部 英語及歷史科	一六八	四五	三八	一四八
高等師範部 第一部 豫科	六五	二三	二一	一〇四
高等師範部 第二部 數學科	六〇	一二	四	五七
高等師範部 第二部 理化學科	四一	六	三	七九
高等師範部 第二部 豫科	七〇			
研究科	（第一期）一、七六五		一、六六五	三、四三〇
聽講生			三七	三七
附屬工手學校	一、三二三	一、〇六六	二九	二九
合計	四、八七〇		二、六〇五	八、五四一

◉現在學生府縣別表（大正五年六月末日）附屬工手學校ヲ含ム

府縣名	人員	府縣名	人員
東京府	一、一八七	兵庫縣	二四二
京都府	一〇一	長崎縣	一六三
大阪府	二四七	新潟縣	三一三
神奈川縣	一八一	埼玉縣	一九二
群馬縣	一五〇	廣島縣	二四八
千葉縣	二一二	山口縣	一九七
茨城縣	一九七	德島縣	六三
奈良縣	七一	和歌山縣	一〇七
栃木縣	一八五	香川縣	一三七
福井縣	一二四	愛媛縣	一四三
石川縣	一二六	高知縣	八三
富山縣	一四三	三重縣	一四八
鳥取縣	八〇	愛知縣	二五九
島根縣	八九	靜岡縣	二六五
滋賀縣	六九	山梨縣	一一五
岐阜縣	一三二	熊本縣	一三三
長野縣	一九四	大分縣	一三一
宮城縣	一三四	宮崎縣	六一
福島縣	一七四	鹿兒島縣	一一〇
巖手縣	七三	沖繩縣	二九
青森縣	七三	北海道	一六三
山形縣	一二四	臺灣	一三
秋田縣	一二九	朝鮮	四八
福岡縣	三四四	支那	一八八
佐賀縣	二〇〇	米國	一
岡山縣	二四五	土耳古	一
計	八、五四一	印度	二

第五 得業生

本大學得業生は明治十七年初めて得業生を出したる以來本年迄其總人員壹萬貳千貳百七拾壹名に達せり、之が年別、科別及府縣別表を示せば別項の如し。

◉本大學創立以來學生表（六月末日現在）

年別	大學部 政治經濟學科	大學部 法學科	大學部 文學科	大學部 商科	大學部 理工科 機械學科	大學部 理工科 電氣學科	大學部 理工科 採鑛學科	大學部 理工科 建築學科	專門部 政治經濟科	專門部 法律科	專門部 行政科	高等師範部 第一部 豫科	高等師範部 第一部 國語漢文及歷史科	高等師範部 第一部 英語及歷史科	高等師範部 第二部 數學科	高等師範部 第二部 理化學科	高等師範豫科	高等師範部 英語政治科	高等師範部 英語法律科	高等師範部 英語行政科	高等師範部 文學科	元高等師範部 國語漢文科	元高等師範部 歷史地理科	元高等師範部 法制經濟科	元高等師範部 英語科	英語本科	英語普通科	專修英語科	研究科	聽講生	清國留學生部	附屬工手學校	合計
明治十五年																																	六五
同十六年									二〇	四五																							一二七
同十七年									五八	六九																							一七九
同十八年									七	七八																							一九〇
同十九年									八七	七一																							三七二
同二十年									九七	八三	一七																						三八六
同二十一年									一二五	八五	二二																						
同二十二年									一八九	二五	一一五																						五三八
同二十三年									一七五	一一五	九一																						六六三
同二十四年									一三五	一五五	九五																						七四四
同二十五年									二〇六	八〇	九一																						五一七
同二十六年									一九一	二〇	一二〇																						六三九
同二十七年									二一〇	七五	一一五																						六一五
同二十八年									二五〇	八三	一〇七																						六四〇
同二十九年									二二四	一二二	一〇一																						六六〇
同三十年									二二一	一三〇	一一八																						六〇七
同三十一年									二四〇	二二四	一一五																						六三八
同三十二年									二九一	二四〇	一六一																						七一九
同三十三年									二八九	二四〇	一四六																						八四六
同三十四年									三〇〇	三六〇	一八六																						一、〇一〇
同三十五年									三一二	一四一	二一〇																						二、五九九
同三十六年	一八三	五九	一一六	二三七																													七、九九九
同三十七年	四一八	一四七	三六四	四二九	五八七	六五七	九四三																										五、六四〇
同三十八年	三五四	一一二	四六七	四一七																													四、〇七八
同三十九年	三九九	一二九	四二九																														五、六三〇
同四十年	二六八	一〇九	二二七																														五、九一七
同四十一年	二三八	七四	三九一	一一七四																													五、七三〇
同四十二年	二一四	五四	三三二	一一三九																													五、〇〇〇
同四十三年	二四六	六〇	三〇四	一一三七八	二四																												五、〇七五
同四十四年	二四六	六二	二二九	一一三〇五	四八	九三																											五、一六〇
同四十五年	二五五	八六	二七二	一一二〇	八八	一七八	二六	四六	四〇五	一〇三	一二〇	七二	六〇	三七	二六	二、一八三	一、九二三																五、八〇五
大正二年	二二四	八九	二四七	一〇八	一二七	二〇六	三六	七八	三六八	一三二	一一四	一〇七	六七	四〇	三〇	三、三三三																	六、六二二
大正三年	二五六	一〇八	二四八	九四二	一四二	二一一	三九	八三	三六八	一三二	一四八	一二五	七九	五二	五四	二、七四三																	七、三三三
大正四年	二六八	一一〇	二四二	一〇二四	一四一	二一五	四九	八五	五五七	一七一	一六六	一四四	七九	五三	六七	一八九																	七、九二七
大正五年	二九七	一五三	二四五	一、一五一	一、三八二	二三一	六一	八一	五九三	二一六		一六八	一四八	一〇四	五七	七九	三、四三〇																八、五四一

◉早稲田大學得業生年別表（大正五年度調）

科別		年別	十七年	十八年	十九年	二十年	二十一年	二十二年	二十三年	二十四年	二十五年	二十六年	二十七年	二十八年	二十九年	三十年	三十一年	三十二年	三十三年	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年	三十八年	三十九年	四十年	四十一年	四十二年	四十三年	四十四年	四十五年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年	合計
大學部	政治經濟學科																											六八	五五	六三	六〇	七六	七五	六四	五九	九三六
	法學科																											二九	二七	一五	一五	二二	三〇	二二	九	三一八
	文學科																											一二三	八八	七四	八〇	八八	六〇	五六	七三	九七九
	商科																											二八〇	二七四	三六一	三九二	三六一	二八一	二五九	三一九	二、九八一
	理工科																																一〇七	一四五	七八	五〇三
專門部	政治經濟科		四	二五	二二	二六	二四	二八	二七	二六	四六	四五	四五	四九	四四	四五	四九	五八	六六	六七	六六	七四	一一二	一一四	一一三	一四九	一一二	一四七	一一三	一一三	一四九	一一五	九一	一一三	八三	一、五〇二
	法律科		八	四二	三〇	一七	一六	三五	六〇	四一	二三	一八	一六	三六	三二	一八	三三	一九	四一	二五	四七	八九	三五	六一	三九	二九	三五	三三	四〇	四〇	四九	四九	三一	四〇	三二	一、九七
	行政科																																			四三八
高等師範部	國語漢文科																											三九	三三	三一	三九	三六	三一	二七		二九三
	歷史地理科																											三一	二九	四七	四五					一七〇
	法制經濟科																											六	一五	四六	一二					三七
	英語科																											四六	一四	四五	三四	五〇	二五	一二	一八	二五五
	數學科																																			二六
	理化學科																																四	九		一二
	英語政治科																											七一	九	五五	一六	二七				三七二
	英語法律科																																			八
	英語行政科																																			一〇
	文學科																											五〇	七五	四二						三七七
	英語本科																											一九	二二	二四						八〇
	英語學部																																			
	英語普通科																																			一八六
	專修英語科																											二八	三四	三七	三五	二二				一七一
	研究科																																			
清國留學生部	物理化學科																											一二	三							一五
	博物學科																											九五	五七							一五
	教育及歷史地理科																											四一	三二							七二
	研究科																											四八	一〇							五八
	普通科																											八〇								八〇
小計			二二	六七	五四	六五	五五	一六五	二四四	一八三	一五七	一八三	一五〇	一六三	一三五	一五六	一八三	一六六	一四八	一二四	二八五	二五〇	二五一	六三五	七七八	七七五	九六〇	九三八	八五三	七三五	七〇八	七四七	八〇八	六八五	七一二	一二、二七一

◉早稲田大學得業生府縣別表（大正五年度調）

府縣別	總數	內譯	大學部					專門部			高等師範部									清國留學生部				
學科別			政治經濟學科	法學科	文學科	商科	理工科	元老院法政科	行政科	法律科	國語漢文科	歷史地理科	法制經濟科	英語科	數學科	理化學科	英語政治科	英語法律科	英語行政科	文學	英語本科	英語普通學部	英語專修	研究科
東京府	一、一九三		八三	二四	八九	四六六	一一七	一四一	一一一	三五	一五	二二	〇	一五	一	〇	四二	三六	四〇	一				
大阪府	二九九		二五	一一	二六	一〇七	一一	四七	三〇	二六	一〇	四	〇	六	一	〇	一二	四	五	一				
京都府	二一五		二一	三	一二	五一	一〇	四七	三四	一七	四	二	〇	一	〇	〇	九	六	一三	〇				
神奈川縣	二四八		一一	二	二二	九一	一一	四一	二五	二一	二	四	一	二	〇	〇	九	五	二二	〇				
兵庫縣	三一七		三一	七	二八	九四	一二	七四	四〇	三八	三	八	一	六	〇	〇	一三	六	四	〇				
長崎縣	二〇八		一九	四	一五	五二	一〇	四六	一八	一一	一	一	一	七	〇	〇	五	二	一七	〇				
新潟縣	五五六		四二	二三	四九	一三四	一八	一〇五	九九	一〇	一〇	九	一	一六	〇	一	一二	一七	二四	〇				
埼玉縣	三〇四		二三	一一	二八	六一	五	五八	五七	六	六	九	〇	四	〇	〇	九	一六	一七	一				
群馬縣	一九三		一四	三	一五	四七	一〇	三九	二六	七	七	七	〇	二	一	〇	六	八	八	〇				
千葉縣	三二四		一三	一四	二三	七一	一〇	七四	四八	九	一二	一三	一	六	〇	〇	一〇	一六	一七	〇				
茨城縣	二八六		二三	一一	二三	六六	一〇	五三	四三	一一	一〇	一〇	一	五	〇	〇	九	九	一五	〇				
栃木縣	二二三		二三	八	一五	五六	九	三七	三八	五	五	五	〇	二	〇	〇	一二	三	一〇	〇				
奈良縣	一〇〇		七	八	一二	二〇	一	一四	一八	八	二	二	〇	二	〇	〇	三	二	一四	三				
三重縣	二四六		一三	四	二四	六七	一〇	四五	三九	三	一	〇	〇	四	〇	〇	一二	一〇	一三	三				
愛知縣	三三五		二二	六	三五	一二三	一	四四	五〇	四	八	二	二	六	〇	〇	二	一三	一八	二				
靜岡縣	四一五		三五	七	二八	一〇二	一三	九九	五七	一二	七	一	一	一〇	二	〇	一三	一七	一三	〇				
山梨縣	一七七		一六	四	一七	四二	四	三三	二二	七	五	一	一	三	〇	〇	一〇	七	一七	一				
滋賀縣	一二七		二二	五	一二	三〇	四	二八	一七	三	三	〇	〇	四	〇	〇	二	三	一三	一				
岐阜縣	一九八		一一	九	二〇	四九	三	三四	三八	五	四	〇	〇	三	〇	〇	一六	三	七	〇				
長野縣	三九六		二〇	一二	三五	七八	一〇	一〇一	七五	一〇	一〇	二	二	五	〇	一	四	一六	一七	〇				
宮城縣	一六〇		一五	一	一七	三一	七	三〇	二二	七	六	六	〇	四	〇	一	五	五	一〇	〇				
福島縣	二三一		二五	五	二〇	五三	八	五〇	四〇	六	三	三	〇	四	一	〇	三	七	六	〇				
巖手縣	一一九		二	〇	一六	二六	五	二三	一八	五	一	一	〇	三	〇	〇	五	三	一〇	〇				
青森縣	一一五		八	五	一二	一七	七	三三	一七	一	七	七	〇	二	〇	〇	六	九	二	〇				
山形縣	二一三		三	一〇	一三	四七	三	二九	三五	六	一	一	〇	五	〇	〇	六	一〇	六	〇				

| | | |

第六　基金

本大學第二期基金大正五年度末現在申込人員申込總額及實收總額を示せば左の如し。

一申込人員　貳千七百參拾七名

一申込總額　（金九拾九萬參千七百〇八圓貳拾四錢六厘）

一實收總額　（金六拾九萬參千八百七拾貳圓貳拾九錢六厘）

（備考）基金拂込は年賦の方法に據るもの大部分を占むるに依り實收總額と申込總額との間に以上の差ある所以なり。

申込總額及實收總額中には第一期基金より第二期基金へ組入れたる金四萬四千拾貳圓四拾五錢七厘を包含す。

藪田忠次郎氏寄附用途指定基金（商品陳列館建築費）申込金貳萬圓は本表以外とす。

○基金管理委員會の決議　本年度に於て基金管理委員會の決議を經て第二期基金より支出したるもの左の如し。

一金四萬壹千六百〇四圓參拾八錢

内譯

金壹萬壹千八百七拾壹圓參拾七錢　土地購入費

金壹萬五千八百〇貳圓參拾八錢　政法豫科教室增築費

金壹千參百八拾九圓九拾貳錢　貯水池新築工事費

金四千五百五拾圓　仕拂利子

金五千九百九拾圓七拾壹錢　理工科各科設備補充費

金貳千圓　基金利子經常補助

次に本年度末基金勘定貸借對照表を示せば左の如し。

早稲田大學基金貸借對照表

（大正五年八月三十一日）

貸方 科目	金額	借方 科目	金額
第壹期基金	四四、〇三三、四五七	第壹期未收基金	二九、四一三、二八〇
第貳期基金	九四八、七九五、七八九	第貳期未收基金	二二〇、四三三、六六〇
同上指定（建築科）	三〇〇、〇〇〇	當座預金	四、五二六、七四〇
同上（會計學研究）	六〇〇、〇〇〇	特別當座預金	六、六八五、六七〇
基金利子	二、七五八、一三〇	定期預金	一、三七三、三三〇
特別預金利子	九七六、〇三〇	有價證券	三〇、二四〇、〇〇〇
		振替貯金	六、三六四、四七一
		現金	二、八〇五
計	九九七、四四二、四九六	理工科建設費	四六九、八四八、八五〇
		土地購入費	一七八、五六二、六八〇
		計	九九七、四四二、四九六

本年度中新に第二期基金中へ寄附の申込を受けたる諸彦左の如し、茲に芳名を錄して感謝の意を表す。

◎第二期基金寄附者人名

（大正五年度）

金七千圓　福岡　安川敬一郎君

金五千圓　福岡　貝島太助君

金參千五百圓　福岡　麻生太吉君

金壹千五百圓　福岡　中野德太郎君

金五百圓　福岡　栃木順作君

小計金壹萬八千四百六拾圓

通計金九拾九萬參千七百〇八圓貳拾四錢六厘

金貳百圓　福岡　山田敬亮君

金壹百圓　支那　巖谷孫藏君

金五拾圓　支那　嵇鏡君

金拾圓　東京　三宅清藏君

金六百圓（會計學研究資金）　東京　高橋喜久雄君

第七　紀念事業資金

本大學御大典紀念事業資金、大正五年度末現在申込總額及實收總額を示せば左の如し。

一申込總額　金五拾四萬貳千七百八給四圓〇八錢

一實收總額　金拾五萬九千六百六拾五圓四拾六錢

（備考）紀念事業資金は年賦拂込なるに依り、申込總額と實收總額の上に以上の差ある所以なり。

森村豐明會より寄附せられたる應用化學科創設費金五萬六千圓は右の内に包含せり。

右御大典紀念事業資金貸借對照表を示せば左の如し。

早稲田大學御大典紀念事業資金貸借對照表

（大正五年八月三十一日）

貸方 科目	金額	借方 科目	金額
御大典記念事業資金	四八三、四四一、六八〇	未收入金	三八三、二八、六〇〇

同上（學生）	三、三四二、二六〇	振替貯金	九三九、〇六〇
森村豐明會受入利子	五六、〇〇〇、〇〇〇	特別當座預金	四、九二八、二二〇
	七三〇、四六〇	當座預金	六、六五七、三一〇
		定期預金	一四七、八五三、二六〇
		現金	一八、〇七〇
計	五四三、五一四、五二〇	計	五四三、五一四、五二〇

第八 會計

大正五年八月三十一日現在本大學資產負債對照表及大正五年度本大學經費收支決算表左の如し。

●早稲田大學資產負債對照表（大正五年八月三十一日）

資產之部		負債之部	
科目	金額	科目	金額
土地	五一三、三六一、三六〇円	輕常資產繰入金	二三九、二七〇、三五六円
建物	五九、一九三、一八一	經常負債償却	七、一三一、五六二
機械器具	一四三、三六三、八〇二	經常土地購入費	三一、〇六九、四八一
商品標本	一七、八二〇、六二八	大隈侯爵寄贈土地代	一〇三、一四〇、〇〇〇
圖書館什器	七、一〇九、一五一	土地購入元受金	一七八、五六二、六二〇
ボート及體育部器具	七、六九二、一〇〇	建築費元受金	二一九、一八七、五〇三
圖書	一四三、四六〇、七七九	理工科建設費元受金	四六九、八四八、八五〇
銅像及臺	六、七六六、五〇六	校友會寄贈銅像建設費	五、一六六、五〇六
立替金	一一、九八九、三一〇	圖書館公衆寄贈金	三三、五四六、〇七〇
假支出金	一八、七一〇、一三五	教職員年金積立金	三五、五三一、八九〇
年金積立定期預金	三五、五二一、八九〇		七六、〇〇〇
預金及現金	二四、八一〇、五六五	ボート建造費	二〇〇、〇〇〇、〇〇〇
		土地購入借入金	二、四八七、四二〇
		野球部借入金	三八、九二四、〇六〇
		諸預り金	二、三八八、八二〇
		大正五年度剩餘金	一、五一一、一〇一、一九七
計	一、五一一、一〇一、一九七	計	一、五一一、一〇一、一九七

附記　本表は便宜上財團法人早稲田大學資產負債ト舊社團法人早稲田大學資產負債トヲ合併表示セリ。

●大正五年度收支決算書

收入 科目	金額	支出 科目	金額
學費	三〇五、五二四、八〇〇円	講師給	一五四、三三九、〇六〇円
入學金	一〇、七三三、〇〇〇	職員給	三二、八四一、二三〇
試驗料	三、八〇一、〇〇〇	小使、給仕、職工給	七、四二二、八九〇
實驗及實習費	五、八〇六、五一〇	雜給	二、〇四六、六三五
雜收入	五四一、七八〇	慰勞手當	九、九九二、二三〇
本大學出版部納附金	三、四三五、五四〇	營繕費	三、六六七、一一〇
基金利子	二、〇〇〇、〇〇〇	機械及器具費	一、五二八、六八〇
受入利子	五三、二一〇	實驗及實習費	一〇、〇〇八、七九〇
海外留學費特別寄附	二、四二九、一八〇	廣告費	四、八九九、八〇
圖書館寄贈金	五三九、三四〇	點火費	三、五二九、七一〇
同公衆閲覽料	四八、五〇〇	筆墨紙費	八三五、六二五
同雜收入	一六、〇六〇	薪炭費	三、〇四〇、五七〇
		印刷費	三、一三五、一八〇
		通信費	一、六七一、四五〇
		乘車費	七二四、一七〇
		給與被服費	五九九、五九〇
		集會費	一、一六四、九二〇
		得業式費	一、六六九、五七〇
		火災保險料	二、一三〇、七五〇
		敷地料	一二九、七二〇
		衞生費	六五三、三四〇
		教職員年金積立金	三、一六〇、〇〇〇
		雜費	一、七七七、二一〇
		圖書館費	一七、一一六、一二〇
		體育部費	七、七二一、七七〇
		基金募集費及旅費	一三、〇一一、七八〇
		海外留學生費	六、〇六一、八七〇
		學會補助費	二、四二三、五六〇
		仕拂利子	五二二、五四〇
		諸稅	五九〇、三八〇
		工手學校圖書標本費	三八〇、九七〇

計　三三五、三九七、九一〇

第九　圖書館

（一）圖書

總數　七萬一百五部
拾九萬三千七百三十冊
內譯
一、本館藏書
六萬三千九百九十三部
拾六萬五千六百三十一冊
內
和漢書　四萬一千九百九十二部
拾三萬二千三百九十七冊
洋書　二萬二千一部
三萬三千二百三十四冊
二、寄托圖書
六千百拾二部
二萬八千九十九冊
內
和漢書　四千六百六十八部
二萬六千三百三十冊
洋書　壹千四百四十四部
一千七百六十九冊
右總數の內本年度增加
二千七百四十四部
五千一百八冊
內
和漢書　一千二百八十八部
二千九百六十一冊
洋書　一千四百五十六部
二千百四十七冊
（二）標本
一、歷史地理科參考品
現在總數　二千二百五十八點
內
本年度增加　百四十二點
二、商科參考品
現在總數　一千百六十九種
四千百九十七點
內
本年度增加　二種二點
（三）本年度增加圖書及標本購入寄贈別
一、購入圖書
一千八百二十五部
參千六十四冊
內
和漢書　五百八十四部
一千三百拾九冊
洋書　壹千二百四十一部
一千七百四十五冊
二、寄贈圖書
九百拾九部
二千四十四冊
內
和漢書　七百四部
壹千六百四十二冊
洋書　二百拾五部
四百二冊
三、歷史地理科參考品
百四十二點
內
購入　二十七點
寄贈　百十五點
四、參考商品
購入　○
寄贈　○
（四）本年度寄贈圖書資金
本年度內に於ける寄贈金左の如し。
總額　六百三十九圓三十四錢
內譯
金二百八十三圓（故當之助氏記念）　桂井定之助氏
金五十圓（亡大人記念）　中西　用德氏
金五十圓（亡母堂記念）　中村康之助氏
金拾五圓（故淺沼傳氏記念）　友人諸君
金八十六圓（故直樹氏記念）　浮田　和民氏
金四十五圓　大正四年度商科卒業生諸君
金拾圓三十四錢　政治學會總代小野利得氏
金百圓（故亮十郎氏記念）　原　亮三郎氏
（五）本年度閱覽人員並貸出圖書數
本年度に於ける開館日數は三百八日にして閱覽總計左の如し。
一ヶ年總計
閱覽人員　拾一萬六千五百四十七人
貸出圖書　二十二萬三千五百四十六冊
（但新聞雜誌閱覽者ヲ除ク）
一日平均
閱覽人員　三百七十八人
貸出圖書　七百二十六冊
（但新聞雜誌閱覽者ヲ除ク）
（六）展覽會
本年は文豪シェクスピヤ翁の歿後三百年に相當せるを以て本大學文科學生の主催にて館內に於て四月二十二日二十三日二十四日の三日間紀念展覽會を催せり出品點數約九百、本館所藏の外帝國大學慶應義塾、帝國圖書館其他都下諸名士の愛藏に係る總ての圖書、繪畫、塑像、玩具等を集めたれば豫期以上の盛況にて連日の觀覽者甚だ多かりき。

第十　寄宿舍

本大學寄宿舍の現在設備は敷地一千五百九十五坪にして、其建物は事務館平家建四十五坪、舍生倶樂部平家建五十貳坪八合、ピンポン室平家建十坪五合、塾舍二階建三棟總延坪四百二十五坪、內甲舍百八十五坪、乙舍百五十坪、丙舍九十坪、食堂平家建四十七坪五合、浴場平家建十坪五合、洗面場平家建六坪、廊下五十五坪、炊事場平家建二十二坪七合五勺、物置三

棟三十四坪五合、便所十個所總建坪七百十八坪五合五勺あり、舍生の收容定員は百六十名にして大正四年九月八日開舍式を擧げ、大正五年七月七日を以て閉舍す。本年度末現在舍生は百四十七名なりき。

舍內修養部に於ては時々會合を催し先輩名士を聘して修養上有益なる講話を請ひ、又時々辯舌練磨の爲め演說會を催したり、舍生の大部分は劍道及柔道部十二名、野球部二十名、庭球部二十七名、端艇六十三名、フットボール團八十五名等各運動部員となりて盛に運動を行ひて體育の增進を勉め、秋季には終學旅行を行ふ等各自修養を怠らず、學業成績も從て良好なるものあるを認む。

又舍內には舍生總代及炊事委員を設け諸般の事項を自治的に處理せしむ、舍內衞生に就ては入舍の際校醫をして悉く健康診斷を行はしめ、常に校醫指導の下に舍內の淸潔を保持して疾病の發生を未然に防止することを勉めつゝあり。

第十一　體育部

體育部に於ける本年度の重なる事項は其水上大運動會を大正四年十月十七日に墨田川に於て擧行し例年の如く盛況を極めたるが分科競漕に於て理工科勝利を占めたり、又陸上大運動會は大正五年四月二日運動場に於て開催、朝來烈風なるにも不拘來賓非常に多く正午には既に滿員の盛況を呈したるが當日の分科競走は決勝線に至り政治科及商科選手の間に爭を生じ結局勝敗を決せず散會を告ぐるに至りたり。

尙各部に於ける本學年間の狀況左の如し。

◎野球部　大正四年九月米國シカゴ大學の野球選手本大學の招待に應じて來朝同二十四日より我運動場に於て試合を始め本大學選手と前後四回、慶應義塾大學選手と三回の試合を試みたるが孰れもシカゴ大學選手の勝利に歸したり、次いでシカゴ大學選手及本大學選手は大阪每日新聞社の招待を受けて同地に到り、豐中運動場に於て三回の試合を擧行したり。

本學年冬期休業中は選手一同大阪朝日新聞社の需に應じ、同地豐中運動場に於て冬期練習を爲し、其間關西の各學校と前後十數回の試合を行ひたり。

又本大學選手は米國シカゴ大學の招待を受け、河野講師監督の下に選手十三名大正五年三月二十五日渡米、途中布哇ホノルヽに上陸し同地に於て十二回の試合を行ひ、五月四日桑港上陸爾後各地に轉戰し七月十七日一行無事歸朝せり。

◎庭球部　當部に於ては例年の通り春秋兩期に於て東京高等師範學校、同高等商業學校、同高等工業學校、東京農業大學、千葉醫學專門學校、大阪高等商業學校、神戸高等商業學校等と對校試合を行ひたるが何れも本大學選手の勝利に歸したり。

尙選手は本學年中巖手縣立一ノ關中學校、長野縣立飯田中學校、秋田縣立橫手、大館、秋田各中學校、福島縣立會津中學校、福島縣師範學校、新潟縣立柏崎中學校、栃木縣立太田原中學校、千葉縣立成田中學校、茨城縣立水海道中學校、神奈川縣立橫濱商業學校等へコーチに赴き斯道選手の指導に勉めたり。

◎劍道部　現在部員二百餘名に達し內有段者三十名を算ふ、秋季に大會を催し、本年度內當部選手の各學校大會等に出場すること前後二十二回人員百〇八名に及べり、部員一同練武を勵み寒稽古を行ふ等技量の進歩著しきものあるを認む。

◎柔道部　現在部員二百三十餘名にして內有段者四十名あり、十月二十日士道振作の目的を以て靜岡縣下に遠征を試み、靜岡、濱松、沼津、韮山等を巡遊し各中學、師範、商業學校等に於て試合を行ひたり、又十一月七日都下各學校の選手を招き大會を開く、冬期に於ては例年の通り寒稽古を行ひて練習を怠らず部內一同元氣橫溢せり。

◎端艇部　當部に於ては大正四年十月十七日大會を開く競漕回數十九回對科レース政治科及文科は政治科第一着を占め、分科レースに於ては理工科第一着を占め、法科、商科之に次ぐ、尙本年度中來賓として出漕したるは慶應義塾、外國語學校、日本大學、東京帝國大學、明治大學、東京高等工業學校、早稲田實業學校等なりき。

◎弓術部　現在部員三百五十七名、本年度新入部員百〇八名に達せり、本學年中春秋二回大會を催す、又學年間他校大會へ出場したるは東京高等師範學校、慶應義塾大學、東京帝國大學、第一高等學校、東京高等工業學校、明治大學、東京高等商業學校、宗教大學、東京美術學校、農業大學、名古屋醫學專門學校等にして孰れも技量優秀受賞せしもの頗る多し、又大正五年一月十八日より二月十日迄寒稽古を行ひ精勤者三十二名に及ぶ。

◎水泳部　當部は例年の如く大正五年七月十日より八月二十日迄千葉縣北條海岸に水泳場を設け師範指導の下に練習を努めたり。八月一日一哩半の游泳會を催し超へて同七日北條海岸より沖の島に至る三哩小遠泳を行ひ、次いで同十六日沖の島、鷹の島廻り七哩の遠泳を試みたるが部員の技量著しく進歩し其成績頗る良好なるものあり、同日午後六時閉部式を擧げ解散を告げたり。

第十二　學生課

當課に於ては主任以下九名の課員常に校の內外に於ける學生の風紀を監督し、建築物の保存、衞生事項等を注意し、事故の發生を未然に防止することを勉め、又高等豫科生に對する兵式體操を擔任して體育の助長を計りつゝあり。學生風紀取締としては常に制服、制帽の着用を勵行し、且每日出席點呼を行ひて其勤怠を調査し、長期缺席に亘る者あるときは父兄又は保證人の注意を促し、尙本人に訓戒を加ふる等絕へず勉學を督勵せり。

衞生事項に就ては教室其他構內各所の淸掃を嚴密にし且唾壺、便所等の消毒に注意を加へ日々淸潔の保持に勉めつゝあり。

校內の警備殊に防火上の施設に就ては最も注意を加へて警戒を怠らず、時々消火栓の放水試驗及各教室其他に配置せる消火器の試驗を

行ひ之が取扱上遺憾なきことを期せり。

第十三　衞生

校の内外に於ける衞生は五名の校醫之を擔任し内、眼科及齒科專門の醫師各一名あり、本年度内學生にして校醫の診療を受けたる延人員一千四百十九名、内主なる患者は呼吸器及寒冒二百七十一名、胃腸病三百〇四名、神經衰弱八十五名、眼科百四十二名、外科九十二名、耳鼻科六十三名、脚氣五十一名、皮膚病二十三名等なるが何れも輕症にして殆ど全治せり。新入學生に對しては悉く校醫に於て體格檢査を行ひたるが體格概して良好にし修學に堪へざるもの極めて稀なり。

第十四　出版部

本大學設立の本旨を貫徹するの一方便として明治十九年十月初めて出版部を置き、政學講義錄を創刊して講義錄發行の端を開きしより茲に三十有一年、講義錄に就て各種の學科を講修せし者五拾貳萬五千七百有餘名（明治二十二年以前の記錄現存せざるを以て之を省く）明治二十八年十月早稻田叢書を創刊して書籍發行の端を開きしより茲に二十有二年發行書籍の數大小三百八十一部（内本年度の發行に屬するもの三十五部）に及べり之が爲めに本邦文化の普及を稗補せしこと尠からざるは疑を容れざる所なりとす、又明治四十三年五月雜誌早稻田講演（毎月一回發行）を創刊し主として本大學科外講義を收錄したるが、大正五年二月に至り之を數回の刊行物に改めたり、又同時に名譽學長高田博士の發起に依り部内に大隈總長を團長に推載する大日本青年修養團を設立し、其事業として大日本青年講習錄を發刊し以て校外教育部の機關に充てたり、其現に發行する所の講義錄を擧ぐれば左の如し。

政治經濟科（修業年限一年半）　毎月二回
法律科（修業年限一年半）　毎月二回
文學科（修業年限一年半）　毎月二回
商業科（修業年限一年半）　毎月二回
中學科（修業年限二年）　毎月二回
大日本青年講習錄（修業年限一年）　毎月一回

尙同部創立以降の校外生年別表左の如し。

○校外生年別表

年度	政治經濟科	法律科	行政科	文學科	歷史地理科	商業科	中學科	高等國民教育科	計
二十三年	八九〇	七〇一	四〇一						一、九九一
二十四年	四五三	四二一	二五二						一、一二五
二十五年	五七三	四三八	二七五						一、二八六
二十六年	七六五	七一六	一九九						一、七〇〇
二十七年	八九四	八五七	三〇六						二、〇五九
二十八年	八九九	七六四	三六三	九六五					二、九九一
二十九年	一、〇〇三	一、九七四	七一九	八九四					四、五八八
三十年	一、五六五	二、一五七	一、〇〇一	一、五三七					六、一六〇
三十一年	一、九九五	二、三七三	二、一二三	一、三三五					七、八一五
三十二年	二、六九六	三、一九一	二、九九二	一、三三五					一〇、二二三
三十三年	二、五〇一	四、〇六六	三、一九八	二、七九二					一三、五五六
三十四年	二、七七九	三、四〇二	二、四三二	三、一八二					一一、七八四
三十五年	二、六六一	三、〇六八	三、七七七 文學數一二、五〇九	一、六三九					一三、六三〇
三十六年	三、六〇一	三、七一八	三、二四七	三、二三三	二、六一五				一六、四三一
三十七年	三、七四六	三、七八八	三、〇五六	三、七六四	三、〇一〇				一七、三七四
三十八年	四、一七二	三、二七四	二、一八四	三、九五四	三、〇二三				二、六九三
三十九年	三、三一二	三、六七七	一、七七六	三、一五九	二、四五九				二八、五六三
四十年	三、〇二四	三、五四〇	廢刊	三、三〇一	廢刊				二六、六五四
四十一年	二、八三四	三、一九四		二、四四八					三二、五一七
四十二年	三、〇三四	二、五三七		二、三五四					三二、七九〇
四十三年	二、九七八	三、五九〇		二、一六九					二八、七七八
四十四年	三、四四五	三、五九六		二、八六四					二五、四〇四
四十五年	三、六五五	三、七九二		三、一一四					三三、四九六
大正二年	三、六〇六	三、七一三		三、三六五					三一、九七一
大正三年	四、一〇八	四、三二三		三、九一四					四〇、一〇一
大正四年	三、七九二	四、〇二四		三、三九五					四九、六一〇
大正五年	四、二六一	四、九三二		四、一八四					五五、六四四
計	六九、四三九	六、五三九	二七、三二三	五八、六〇一	二三、七四五	八一、六五一	一八七、九九〇	一〇、四〇一	五三五、七二三

職員

主幹　市島謙吉　　主事　種村宗八
主事　高田俊雄　　主事　小久江成一
編輯長　青柳篤恒

第十五　校外教育部

凡そ大學教育は校内に集り來たる學生を講堂に收容して之を教育するのみを以て滿足すべきに非ず、必ずや進んで廣く講師を校門の外に派し既に學校教育を終へて社會の表面に立ちつゝある一般人士に向つて之れが教育を普及するを以て重大なる任務となさゞるべからず、茲に於て歐米諸大學夙にユニヴァーシチー、エキステンシオンの制あり、本大學亦校外生の制度を立て出版部に於て各種講義錄を發行し以て筆の上の校外教育をなせると同時に、他の一面に於て校外教育部を特設し各地に講習會を開き口舌を以てせる校外教育事業に鋭意する茲に年あり、創設以來全國各地方有志諸君の熱心なる歡迎を受け其事業年毎に盛運に向ひつゝあり、今本學年に於ける講習會開設地方を擧ぐれば左の如し。

●東京に於ける講習會

大正五年七月二十日より同二十九日まで十日間

一國際政局の現在及將來　法學博士　浮田　和民

一戰局と世界經濟の大勢　法學博士　井上辰九郎

一船舶の進化と海商法　法學博士　市村　富久

一人類及其進化　理學博士　谷津　直秀

一最近教育思潮と教育の實際　本大學教授　中島半次郎

一歐米最近の劇壇　本大學講師　坪内　士行

一化學工業と電氣　本大學教授　山本　忠興

一小賣商店の經營と實務　白木屋吳服店重役　高野　復一

●秋田縣大館町に於ける講習會

大正五年八月十三日より同十七日まで五日間

一政治教育論　法學博士　浮田　和民

一人生の根本問題　本大學教授　内ヶ崎作三郎

●福岡縣宗像郡に於ける講習會

大正五年八月二十三日より同二十七日まで五日間

一帝國憲法　法學博士　中村　進午

●福岡縣築上郡に於ける講習會

大正五年八月十七日より同二十一日まで五日間

一帝國憲法　法學博士　中村　進午

●宮城縣桃生郡に於ける講習會

大正五年八月二十五日より同二十九日まで五日間

一世界現代地理　本大學教授　志賀　重昂

●秋田縣南秋田郡に於ける講習會

大正五年八月十二日より同十六日まで五日間

一歐洲大戰の教訓　法學博士　田中　穗積

第十六　科外講義及講話

●本學年間講堂及教室に於て開講したる科外講義左の如し。

一支那旅行談　理學博士　德永　重康

一我觀支那　早稻田大學政學士　永井柳太郎

一亞細亞文明に及ぼせる印度の影響　印度人　ラージーバット、ライ博士

一世界の燐寸業　早稻田大學法學士　北原　淑夫

一歐洲戰爭と米國の產業及貿易　商學士　吉田　良三

一社會改造に對する大學の貢獻　米國ユニオン神學校長　ブラウン博士

一米國の極東政策　早稻田大學政學士　島谷　亮輔

一「フィナンシアー」とは何ぞや　商學士　松村　光三

一英獨の國民性を論じて歐洲大戰に及ぶ　早稻田大學政學士　田淵　豐吉

一英國近代劇に就て　早稻田大學文學士　坪内　士行

一獨逸の食糧問題　早稻田大學法學士　寺尾　元彥

一近代科學概論　工學士　中澤　重雄

一地震學大意　理學博士　大森　房吉

一工場建築　工學士　松井　清足

一火力發電所　工學士　宮口　竹雄

一水力發電所　工學士　山田　胖

一鑛業査定　工學士　上野　景明

一無線電信電話の進步に就て　工學士　鯨井恒太郎

一米國最近の建築に就て　工學士　古橋柳太郎

一建築と美術　男爵　岩村　透

一歐洲大戰と海運業　ドクトル、オブ、フィロソフィー　伊藤重治郎

一世界に於ける鑛物に就て　理學博士　神保　小虎

一諸種の元素の鐵の性質に及ぼす影響　工學士　小室　靜夫

●地方其他講演　本學年間各地に於て開講せる講演左の如し。

大正四年十月二十四日茨城縣土浦町

一、世界外交上に於ける帝國の地位　教授　青柳　篤恒

一、ローランドヒルを思ふ　早稻田大學政學士　永井柳太郎

一、經濟界所感　法學博士　天野　爲之

同年十一月二十一日茨城縣龍ヶ崎町

一、進步の大勢　文學士　平沼　淑郎

同年十一月十三日宮城縣遠田郡南鄕村

一、舊東北より新東北へ　早稻田大學政學士　永井柳太郎

同年十二月十二日靜岡市物產陳列館

一、國際道德論　文學士　内ヶ崎作三郎

一、獨逸の勃興に鑑みよ　法學博士　天野　爲之

大正五年三月二十日福井市福井中學校

一、世界的競爭の時代　早稻田大學政學士　永井柳太郎

一、時局と經濟　法學博士　天野　爲之

同年三月二十一日金澤市公會堂

一、世界の現勢　早稲田大學政學士　永井柳太郎

一、歐洲大戰以前及現在の經濟狀況　法學博士　天野　爲之

同年三月二十日日本橋區常盤木倶樂部

一、國民の實力　文學士　平沼　淑郎

同年三月二十二日神田區一橋學士會

一、保證準備の內容本質及擴張　ドクトル、オブ、フィロソフィー　服部文四郎

同年四月九日栃木縣鹿沼町武德會

一、根本は實質　文學士　平沼　淑郎

同年四月二十三日本大學沙翁三百年祭

一、沙翁紀念祭開催の趣旨　ドクトル、デル、フィロソフィー　金子　馬治

一、沙翁劇と其舞臺　早稲田大學文學士　坪內　士行

一、沙翁と歐洲文壇　教授　長谷川誠也

一、沙翁の英國　早稲田大學文學士　横山　有策

一、近松と沙翁　教授　五千嵐　力

同年五月二十一日横濱市教育會

一、歐洲大戰の教訓　法學博士　田中　穗積

同年五月二十七日府下王子町

一、犧牲の精神　文學士　平沼　淑郎

同年五月二十八日長岡市長岡座

一、支那と日本と列強　教授　青柳　篤恒

一、武裝的產業論　早稲田大學政學士　永井柳太郎

一、時局と經濟　法學博士　天野　爲之

同年六月九日横濱商業會議所

一、時局に對する我實業家の覺悟　法學博士　天野　爲之

第十七　各種の會合

●校友會　本學年間各地に於て開催したる校友會左の如し。

中央校友大會(四回)
早稲田倶樂部午餐會(毎週一回)
校友貴衆兩議院議員會
大阪校友會(二回)　京都校友會(三回)
名古屋校友會(四回)　岐阜縣校友會(二回)
廣島縣校友會(六回)　千葉縣校友會
茨城縣校友會(二回)　宇都宮校友會(二回)
福島縣校友會　大分縣校友會
熊本縣校友會(二回)　新潟縣校友大會
新潟市校友會　中越校友會(三回)
靜岡縣校友會(二回)　新潟縣村上校友會
新潟縣刈羽校友會　鹿兒島縣校友會
福井縣校友會　土浦校友會
長岡校友會　神戸校友會(二回)
岡崎校友會(二回)　香川縣校友會(三回)
和歌山縣校友會(二回)　福岡市校友會(二回)
山梨縣校友會(四回)　長崎縣校友會(三回)
關門校友會　九州聯合校友大會
小倉校友會　宇治山田市校友會
宮城縣校友會　青森縣校友會
秋田縣校友會　富山縣校友會
高知縣校友會　鳥取縣校友會
上毛校友會　但馬校友會
函館校友會　札幌校友會(三回)
小樽校友會　九州若松校友會
旭川校友會　京城校友會
朝鮮湖南會　北京校友會
天津校友會(二回)　青島校友會
撫順校友會　大連校友會(三回)
奉天校友會　臺北校友會
南部臺灣稻門會　シカゴ校友會
大阪紫會(二回)　神戸紫會
東京二交會(四回)　稻保會(二回)
戊申倶樂部例會　株式早稲田會

●擬國會、討論會及訴訟演習　大正五年三月十二日講堂に於て第二十八期早稲田議會を開會し國會演習を行ひ、尙法學部討論會及訴訟演習數回を開催し學生の實地演習に當らしめたり。

●學生研究會　學生の正科以外の研究に資し且師弟間の交誼を親密ならしむる爲め講師或は先輩名士を聘して各種の會合を開きたるが其重なるもの左の如し。

早稲田雄辯會　稻友會
社會政策學會　經濟學會
早稲田電氣工學會　早稲田機友會
支那協會　早稲田政治學會
早稲田法學會　早稲田英語會
早稲田佛語會　早稲田音樂會
國語漢文學會　美術研究會
早稲田道の會　早稲田教友會
早稲田眞宗會　早稲田洋畫會
早稲田史學會　早稲田紅會
早稲田正義會　廣告研究會
東洋學會　印度學會
東洋會　哲學會
自治研究會　早稲田基督教青年會

尙右の外各府縣又は各出身中學校等學生の會合枚擧に遑あらず。

第十八　早稲田大學附屬　早稲田工手學校

第一　學年間の施設

本學期より第一學期に理化學大意（一週二時間）第二學期、第三學期に各物理學（一週一時間）、電工科第五學期に交流理論（一週一時間）、建築科第四學期に日本住宅（一週一時間）を增す。

大正四年十月三十一日稻友會秋季大會を能す

大正四年十二月二十一日左記講演會を行ふ。

一、戰時に於ける鑛業視察談　工學士　上野　景明

一、日本神社の意義と明治神宮　工學博士　伊東　忠太

大正五年二月十一日第七回卒業式を擧行す、卒業生百四十九名其學科別左の如し。

機械科　二十四名　電工科　五十六名
採鑛冶金科十六名　建築科　二十二名
土木科　三十一名

大正五年二月十二日始業式を行ひ、新學期を開始す。

本學期より機械科第四學期に材料（一週一時間）、電工科第四學期に學科演習（一週二時

間）、土木科第五學期に數學（一週一時間）を增し、電工科第四學期の製圖一時間を減ず。

大正五年四月十日第一、第二學期の特別教授を開始す。

大正五年四月十六日稲友會春季大會を擧行す、大正五年七月十六日第八回卒業式を擧行す。卒業生百四十三名其學科別左の如し。

機械科二十二名、電工科四十六名、採鑛冶金科二十三名、建築科十六名、土木科三十六名

卒業生累計一千二百二十八名

第二　教職員

校長　理學博士　德永重康

主事　田井善道

講師（イロハ順）

早稲田大學工學士　市川繁彌
原滾吉
林石五郎
西岡達郎
理學博士　德永重康
理學士　富田逸二郎
工學士　東郷外人
早稲田大學工學士　大澤一郎
工學士　綿谷吉松
工學士　大畑源一郎
工學士　小野基樹
堅田務
早稲田大學工學士　川口堅藏
工學士　吉田亨二
早稲田大學工學士　金子從次
早稲田大學工學士　柿沼宇作
武田修三郎
法學博士　田中穂積
田治多藏
工學士　橘英三郎
工學士　民野雄平
土屋詮敎
早稲田大學商學士　立川長宏
早稲田大學工學士　坪内信
早稲田大學工學士　堤秀夫
塚本重五郎
メカニカルエンジニア工學士　中川常藏
内藤多仲
文學士　梅若誠太郎
中村康之助
理學士　氏家謙
法學博士　浮田和民
早稲田大學工學士　野村堅
上原静夫
野田昇平
工藤祐山
工學士　山田胖
早稲田大學工學士　山内弘
工學士男爵　松村務
工學士　山本忠興
工學士　松下新作
早稲田大學工學士　間瀬直一
工學士　藤井隣次
藤井鹿三郎
工學士　藤澤茂樹
眞隅隆介
今和次郎
理學士　牧野鑑造
工學士子爵　秋田重季
工學士　小池佐太郎
工學士　足立震太郎
工學士　小室静夫
理學士　淺井郁太郎
工學士　淺見起平
工學士　青木精一
工學士　佐藤功一
有元岩鶴
早稲田大學工學士　阪田貞治
定金右源二
岸畑久吉
工學士　北澤武男
早稲田大學工學士　北村淑人
木村三郎
森米次郎
法學博士　鹽澤昌貞
本橋彌八

商議員（イロハ順）

服部金太郎
大橋新太郎
太田黒重五郎
吉村鐵之助
竹内明太郎
工學博士　高松豐吉
中野武營
村井吉兵衛
手島精一
工學博士　阪田貞一
日比谷平左衛門

第三　生徒

大正五年六月末日現在生徒は千三百二十三名なり、今學期別生徒數を示さば左の如し。

早稲田工手學校生徒現在數表

（大正五年六月末日現在）

學期＼學科	機械科	電工科	採鑛科	建築科	土木科	合計
第一學期						三一〇
第二學期						三六三
第三學期						二六七
第四學期	五三	五六	三二	二四	四三	二〇
第五學期	二九	六二	二五	一九	四四	一六八
合計	八二	二七	五六	四三	八六	九四〇

大正五年度本大學報告右之通候也

大正五年十月

早稲田大學

學長　天野爲之

の波瀾は常に此に伏在すればなり。現下歐洲大戰の終局幸にして 巴爾幹問題を解決し了するを得る者あらんか、東洋の伏竃殿たる支那は啻に東洋の伏竃殿たるに止まらず、また世界の伏竃殿たるに至るやも未だ知る可らず。是れ之に隣する我が國に於いて支那研究の忽にすべからざる所以たり。本書は博士市村瓚次郎氏が 明治四十二年以後の支那問題に關して、雜誌に講演に其の高見卓說を發表せられたるを纂輯したる者にして、第一支那の國民性、第二支那革命論、第三支那革命に對する歷史的觀察、第四歷史上より觀たる湖北省の地位、第五支那の分裂と統一、第六支那の診斷、第七中華民國の前途、第八支那國都論、第九明代の滿洲に分たる。而して附錄として第一國家統一の要素に就いて、第二日韓併合と精神的統一、第三國家盛衰の機を論ず、第四平和と戰爭の四編を添ふ。これ支那問題に直接の關係なしと雖も、亦以て參考發明する所あるべきなり。(神田富山房發行、正價金參圓貳拾錢)

◉佛教心理の研究　橘　惠勝著

佛教の教義は深遠にして解し難く、又之に關する經論頗る浩瀚にして讀破し易からず。故に直觀の明哲なる聖智を開發する 修業に屬する宗教方面は暫く措き、其の辨證的思索を經れんとする哲學的方面亦誠に入り易からざるなり。玆に於いてか近者佛教を以て科學的研究の對象 として之を研究するの風大に行はるゝを見るに至れり、蓋し世の學者をして佛教の教義を理解せしむるの捷徑たるを失はざるべし。

本書は序說を以て第一章となし、第二章には五蘊、第三章には色句義、第四章には所造色、第五章には心章識、第六章には心所有法、第七章には五取蘊を論じ、極めて簡明に佛教心理の 要點を解說したる者なり。思ふに佛教教理の普及に貢獻する所鬱からざるべし。(小石川區原町六番地、丙午出版社發行。正價壹圓貳拾錢)

◉能樂百物語　早稻田文學士　横井春野著

應永猿樂革命以來今日に至る 迄五百有餘年間に於ける能樂にたゞさはる 人々の逸話奇行の面白く且つ教訓の意味を含んだ者を集めたものであつて、肩の凝らない 面白い 袖珍である。元來奇行 逸話は其人の個性の發露したものであるから、之を翫味する時はなか〳〵人生 味の味ふべきものゝあることは勿論で、以て吾人修養上の教訓と爲すに足る者が尠くない。(牛込區早稻田鶴卷町文影堂書店發行、(定價金貳拾五錢)

◉正　誤

前々號四頁一段九行目「八富永藏君」とあるは「八馬永藏君」の誤植につき玆に訂正す。

◉秋期水上運動會の休止

本年の秋期水上運動會は恰も惡疫流行中に際し、殊に隅田川筋に於いて多く其の發生を見たるに依り之を擧行せざる事となれり。

私出發の際は遠路の處態々御見送被下難有奉深謝候

大正五年九月

吉江喬松

謹啓　今回天野學長高田名譽學長其他諸氏の發起に依り故高等豫科長田原榮氏の紀念錄を編纂する事と相成候に就いては同氏に關する逸話感想等苟も故人追想の料たるべきものは何にても御投寄被下候はゞ幸甚の至りに奉存候　敬具

追て御投稿締切は來十一月十日迄の事と御承知被下度候

大正五年十月

早稻田大學本部

故田原高等豫科長紀念錄編輯係

校友并に學生諸君

定價　壹部郵稅共　金拾錢

廣告料　一回一頁金貳拾圓半頁　金拾圓四分ノ一金五圓

大正五年十月十日印刷
大正五年十月十日發行
編輯兼發行人　東京市牛込區矢來町四番地　田中唯一郎
印刷者　東京市牛込區榎町七番地　渡邊八太郎
印刷所　東京市牛込區榎町七番地　日清印刷株式會社
發行所　府下豐多摩郡戸塚町字下戸塚六百四十七番地　早稻田大學　早稻田大學校友會

全部改版＝講義錄界刷

早稲田大

新學年開始

總長大隈侯爵名譽學長高田博士指導■經營

政治經濟科講義

見よ全力を集注せる革新振りを

模範的國民必讀の寶典にして各種試驗に登第し青雲を攀んとする者の絶好資料たり

學課及講師

政治原論 浮田博士
政治道德論 應用經濟 平沼教授
帝國憲法 副島博士 貨幣論 河津博士
行政總論及各論 清水博士 銀行論 服部教授
地方自治制論
市政論 安部教授 財政 租稅 田中博士
植民政策 永井教授 豫算 公債
列强政治及政黨 山本主任 關稅論 小林學士
經濟原論 服部教授 會計論 工藤博士
社會政策 桑田博士
交通政策 伊藤教授
近世史 煙山教授
外交史 長瀨ドクトル
社會學 遠藤博士
刑法學通論 三瀨學士
民法 泉二博士
商法 飯島學士
國際法（平時戰時） 中村博士
演說修練法 安部教授

其他講演、演說、研究資料、時報等有益多趣味

十八ヶ月修了 第壹號十月一日發行

法律科講義

法學に關する斬新なる解說を網羅する故に受驗者の師友にして又國民の良顧問

學課及講師

法學通論 三瀨學士
帝國憲法 副島博士
行政總論及各論 清水博士
刑法總論及各論 泉二博士
民法總論 仁井田博士
物權法一部 三瀨教授
物權法二部 橫田博士
債權總論及各論 橫田博士
親族法 牧野教授
相續法 柳川教授
商法總論 飯島學士
會社及手形法 松本博士
商行爲 須賀學士
保險法 粟津博士
海商法 市村博士
刑事訴訟法 豐島博士
民事訴訟法（三編乃至八編） 岩田學士
同 仁井田博士
國際法（平時戰時） 中村博士
國際私法 山田博士
產法 岩田學士
科外、高等文官、判檢事、辯護士試驗問題擬答其他材料豐富

十八ヶ月修了 第壹號十月五日發行

文學科講義

十八ヶ月修了 第壹號十月八日發行

ハガキにて申込次第

講義目錄ト規則

直に進呈

東京牛込 早稲田

早稲田大

新の先驅二新課目增設

學講義錄

入學絕好機

茲に卅餘年■至れり盡せる通信教育機關

早稲田商業講義

本年春季新學期開始
何時にても入學せしむ

學課及講師

修身 坪内博士
國語 永井教授
漢文 丸井學士
作文 横地教授
習字 二木學士（横地教授）
手本 小野教授
英文 武信學士
英語 岡田學士
英習 横地學士
英作文 法

東洋史 松井學士
西洋史 本多學士
日本史 矢津教授
世界地理 吉田學士
算術、代數、幾何、三角 小田學士
動植物 草野博士
日譯 谷津博士
英譯 三浦博士
增田教授

生理 三浦博士
衛生 松井學士
物理 本多學士
化學 矢津教授
物理 吉田學士
法制 小田學士
經濟 田邊學士
農業 草野博士
商業 谷津博士
工業 小林學士
關口教授

簿記 吉田學士
畫 山口講師
圖 田中學士
體操 池田學士
手工 熊谷講師
原田講師
土屋講師
高田博士
清水博士
添田博士
横井博士

自修法
右の外諸大家の青年訓話、特別講話、毎號附錄の雜誌『新天地』等は有益多趣味を極む

早稲田中學講義

立身成功の基礎たる活智識を與ふる日本一の講義錄

獎學メダル贈與
毎號優美なる口繪標本寫眞地圖等多數

二年修了
第十壹號
發行日

新講義錄の特長

新式ポイント活字採用
内容の豐富新課目の特設
各講義に加へたる訂正增補
講義の平易且つ深切
學費低廉修了短期
研究法辭解雜錄掲載
質疑應答懇切周到

學課及講師

東洋倫理 遠藤博士
道德原理批判 藤井博士
教育學 中島教授
教授法 森岡教授
心理學講說 桑木博士
哲學 金子教授
文學概論 島村講師
歐洲文藝思潮 相馬講師
支那文學史 兒島教授
國語學通論 金澤博士
修辭法 五十嵐教授
古事記選釋 千秋學士
應用支那文與廣 瀧博士
萬葉集講義 岡田教授
國文學發達史及 永井教授
源氏物語選釋 佐々博士
枕草紙選釋 松井教授
大鏡增饒選釋 種村講師
太平記庭訓講義 松平教授
和歌評釋 尾上學士
俳句講義 高濱講師
孟子講義 牧野教授
論語講義 林博士
史記講義 驛谷學士
左傳及八大家文 松平教授
十八史略及唐詩 桂教授
支那時文 青柳教授
科外雜錄趣味津々

學校外の生徒に受く特典

本大學無試驗入學
上級編入及入學金免除
大學圖書の無料閲覽
夏期講習會無料聽講
卒業證書修業證書授與
發行圖書の割引購求
成績優秀者を給費生とす

各科書のもとより見詳細本紙附錄の規則を知れ

教育家文學家兼て模範人格養成の唯一理想的獨學機關

學出版部 電話番町 二三 四二 二七 四三 振替東京 一一二三 入學金免

◉緊急稟告

肅啓益御清穆奉慶賀候陳者例年の通り十二月中旬**校友名簿新調**仕候に就ては可成正確のものを編纂致度候間現住所、職業、學科、得業年度、姓名等來十一月十日迄に是非御一報被下度候

尚右校友名簿及學報等壹萬有餘の校友各位へ無洩配布致候に付ては年々**多額の經費**を要し候間**大正五年度維持費**（年額金貳圓以上）の儀地方は集金郵便、京濱は東京集金社に託し來春夫々集金可致候間何卒其節御拂込願上度候

右以誌上得貴意候　敬具

大正五年十月

早稲田大學　**校友會幹事**

◉時局關係の名著◉

◉早稲田大學經濟學教授の執筆に成れる◉

（最新刊）

戰後の經濟政策

布裝全一冊　定價金八拾五錢　送料金八錢

本書は早稲田大學經濟科關係の教授諸先生が執筆せられたる左記の十二篇を收めたるものにして、戰後の經濟政策研究の第一聲なり。請ふ信用ある本書によりて研究の第一歩を進められんことを。

目次

一　救はれたる日本……天野爲之
二　戰後の生活問題……安部磯雄
三　戰時戰後の外國貿易……淺川榮次郎
四　戰後の海運政策……伊藤重治郎
五　戰後の社會問題……北澤新次郎
六　關稅政策の近狀と其將來……小林行昌
七　戰後の物價と我邦產業政策の方針……鹽澤昌貞
八　戰後の財政……田中穗積
九　戰後の金融政策……服部文四郎
一〇　戰後產業政策の根本如何……平沼淑郎
一一　保險會社の財政利用を論ず……宮島綱男
一二　我工業の發展と原價計算制度普及の必要……吉田良三

東京・寶文館・大阪

大正五年十月十日（毎月一回十日發行）